

2 0 1 6 I W A T E A R T F E S T I V A L

第69回

石手芸術祭

2016



岩手県 いわて国体 岩手県 いわて大会
文化プログラム事業





じあいさつ

第69回岩手芸術祭実行委員会

会長 柴田 和子

県民の芸術文化活動の祭典として定着しております岩手芸術祭も、多くの皆様に親しまれながらこれまで回を重ね、第69回を数えるに至りました。

岩手芸術祭は、戦後の混乱期に芸術文化活動の振興により人々の心に潤いを与えようとする先人の努力により昭和22年に始まって以来、途絶えることなく毎年開催されてまいりました。さまざまな時代を経て長い歴史を刻んできたことを思いますと、誠に感慨深いものがございます。

東日本大震災後、私どもは文化芸術による心の復興を強く願いながら、岩手芸術祭の運営に力を注いで参りました。しかし、昨年8月、台風10号による災害が再び本県に試練を与えました。一日も早く日常を取り戻すべく、芸術祭を通じての支援に気持ちを新たにしております。

また一方では、本県において「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」が開催されるという嬉しい出来事もございました。私どもは、スポーツや文化芸術の復興が人々に安らぎを与え、明日への希望を与えるものであることを再認識して、今後ともこの芸術祭の灯火を絶やすことなく、次の世代に引き継いでいきたいと考えております。

この度、第69回岩手芸術祭の記録をまとめました。本記録を芸術文化活動の参考資料として御活用いただければ幸いに存じます。

終わりに岩手芸術祭の開催に当たりまして、御支援、御協力いただきました岩手県教育委員会をはじめとする各主催者団体並びに各市町村、関係団体、関係各位に感謝を申し上げます。ごあいさついたします。

ごあいさつ 第69回岩手芸術祭実行委員会会長 柴田和子

第69回岩手芸術祭の概要	5
開幕式典・フェスティバル	7
美術展	8
日本画 洋画 版画 彫刻 工芸 書道 写真 デザイン 現代美術	
水墨画	
三賞受賞作品	21
巡回美術展	30
小・中学校美術展	31
芸術祭受賞作品	39
巡回小・中学校美術展	41
演劇	42
映像	45
伝統芸能	47
能楽 邦楽 茶道 華道 吟詠 剣詩舞道	
音楽	66
合唱 声楽 弦楽 三曲 吹奏楽 ピアノ ギター	
舞踊	84
洋舞 日舞	
演芸	88
民謡 新舞踊	
県民文芸作品集	94
文芸祭	96
小説大会 戯曲大会 文芸評論大会 随筆大会 児童文学大会 詩の大会	
短歌大会 俳句大会 川柳大会	
アートフェスタいわて2016 岩手芸術祭受賞作品・推薦作家展	107
テーマ募集	108
実行委員会名簿	109
収支予算書	111
事務局日誌抄	112
付録	
開催要綱	149
実行委員会会則	148
岩手芸術祭運営組織	145
美術部門実行委員会運営規程	144
実行委員会感謝状贈呈に関する規程・選考基準	144
協賛事業の名義の使用承認事務手続要領	142
美術展公募要項	138
県民文芸作品集第47集公募要項	130
文芸祭開催要項	127
岩手県映像コンクール作品募集要項	123



第69回岩手芸術祭の概要

第69回岩手芸術祭は、平成28年10月8日土曜日、開幕式典・フェスティバルを岩手県民会館大ホールにて開催、その幕を開けた。今年度も岩手芸術祭では、県民の優れた芸術文化活動の成果発表と鑑賞の機会を提供するため、「『芸術は希望』人から人へ」日から明日へ」を総合テーマとし、盛岡市をはじめ県内各地で美術展、小・中学校美術展、演劇、伝統芸能、音楽、舞踊などの舞台公演等、さらには県民文芸作品集の刊行や文芸祭など多彩な事業を展開した。

そんな中、今年は自然災害に直面した年でもあった。台風10号が本県に大きな被害をもたらし、一部地域の方が作品を出品できなかったり、巡回美術展が開催中止となるなど影響があった。また、出演者の都合で演劇1公演も中止となった。いずれも直前まで準備していたものであり、誠に残念でならない。

作品の公募状況は減少傾向はあるものの、新しい試みや若い方々の参加も話題となり、明るい兆しもみえる。各事業の入場者数については、3万人を割り込む状況にあるものの、アンケートでは8割近くの方が満足と回答している。人口減少、趣味の多様化、様々な困難があるかと思うが、これからも長く続けていきたいものだ。

実行委員会事務局としては、これまでの伝統を踏まえながら、より多くの県民の皆様が芸術祭に参加いただけるよう、時代に見合った事業運営を目指し、創意工夫をしていきたい。

声楽部門演奏会出演者公募要項	121
ピアノ演奏会出演者公募要項	120
小・中学校美術展作品募集要項	118
ポスターデザイン	114
編集後記	150
第69回岩手芸術祭市町村別応募状況一覧	
第69回岩手芸術祭開催状況一覧	
表紙デザイン	佐々木 海太郎

第69回岩手芸術祭 実施状況の概要

部門等	実施内容等
実行委員会	開幕式典／表彰式／テーマ募集／記録集作成／実行委員会(3回)
開幕フェスティバル	「未来へつなぐ岩手の芸術文化～次世代へのかけはし～」(鑑賞者1,100名)
美術展	公募展 日本画／洋画／版画／彫刻／工芸／書道／写真／デザイン／現代美術／水墨画 (応募840点、鑑賞者4,144名)
巡回美術展	美術展上位入賞者作品78点及び映像コンクール入賞作品3点を県内5会場で巡回展示・上映 (鑑賞者1,207名)
小・中学校美術展	児童・生徒の書写・美術作品の公募展 小学校絵画・書写／中学校美術・書写 (応募6,873点、鑑賞者2,050名)
巡回小・中学校美術展	小・中学校美術展全入賞作品及び入選作品の一部、合わせて328点を県内5会場で巡回展示 (鑑賞者789名)
演劇	4会場で4団体が公演 (鑑賞者1,050名)
映像	映像フェスティバル (映像コンクール入賞作品の上映発表等) (応募6点、参加者数6名、鑑賞者40名)
伝統芸能	茶会／吟詠剣詩舞道／謡と仕舞の会／華道展／邦楽のつどい (鑑賞者4,297名)
音楽	ソロと室内楽の調べ／ピアノ演奏会／三曲演奏会／声楽部門演奏会／ギター音楽の夕べ／吹奏楽演奏会／合唱祭 (鑑賞者3,253名)
舞踊	洋舞発表会／日本舞踊発表会 (鑑賞者2,300名)
演芸	新舞踊発表会／岩手民謡まつり (鑑賞者1,820名)
移動公演	弦楽〔一戸町〕／新舞踊〔奥州市〕 (鑑賞者200名)
県民文芸作品集	公募による作品集の刊行 小説／戯曲・シナリオ／文芸評論／随筆／児童文学／詩／短歌／俳句／川柳 (応募485点)
文芸祭	小説大会／戯曲大会／文芸評論大会／随筆大会／児童文学大会／詩の大会／短歌大会／俳句大会／川柳大会 (参加者525名)

公募事業応募点(者)数一覧(第69回/第68回)

種目	第69回		種目	第68回				
	応募点数	応募者数		応募点数	応募者数			
美術展	日本画	34/32	県民文芸作品集	小説	18/15	小・中学校美術展	小・絵画	3,100/3,242
	洋画	176/185		戯曲・シナリオ	10/4		小・書写	2,314/2,590
	版画	37/36		文芸評論	4/7		中・美術	418/382
	彫刻	19/15		随筆	48/57		中・書写	1,041/645
	工芸	53/49		児童文学	13/14		合計	6,873/6,859
	書道	191/184		詩	75/70	映像	6/9	
	写真	131/136		短歌	78/70		ピアノ	14/19
	デザイン	52/55		俳句	178/181			声楽
	現代美術	38/25		川柳	61/78			
	水墨画	109/123		合計	485/496			
	合計	840/840						

開幕式典・フェスティバル

岩手芸術祭開幕フェスティバルは平成28年10月8日土曜日、岩手県民会館大ホールに1100人の観客を迎え、盛大に開催された。今回のフェスティバルは「岩手の芸術文化の次世代へのかけはし」をテーマに、全国規模の大会で優秀な成績を収めている若いアーティスト等を中心に、舞台等部門の各団体とのコラボレーションを含め、多様なジャンルの演目が披露されるなど、充実したフェスティバルとなった。

第1部 岩手の大地から

「この地に生まれ、この地に育まれ、この地に命を燃やす魂の賛美歌」と題して、伊保内高校郷土芸能委員会による「江刺家神楽」、中学生による津軽三味線曲弾、盛岡芸妓の「金山踊りからめ節」など若い出演者が岩手に根付く伝統芸能を披露した。最後は下橋中学校の生徒と県内合唱団体による合唱「イーハトーヴの風」で締めくくった。

第2部 感謝のセレモニー

長年この地で文化を育んできた郷土人への感謝を表す第2部では、岩手芸術祭功労者への感謝状贈呈を行った。

第3部 はばたけ世界へ

第3部は「若者の力を集結、より大きな世界への飛躍を

願う大きなエールを贈る」と題し、バトントワラーズのパフォーマンス、ギターやヴァイオリン、ピアノの演奏、ジュニアオーケストラの演奏などに続き、フィナーレでは出演者全員と会場が一体となって「上を向いて歩こう」を大合唱し、感動の幕を閉じた。

構成・演出は上田次郎氏、プロデューサーは藤川智美氏、舞台監督は近藤英一氏で、運営補助として岩手女子高校の協力をいただいた。

○功労者表彰(14名)

- 美術部門／藤原妙子(日本画)・(故)五十嵐彰(洋画)・佐々木秀次(工芸)・佐渡谷小琴(書道)・太田信子(写真)・吉田康男(デザイン)
- 舞台等部門／澤田里律(華道)・高橋竹朋(三曲)・高野 司(合唱)・若柳比呂恵(日舞)・中里福次郎(民謡)
- 文芸部門／昆 明男(戯曲・シナリオ)・高橋 昭(児童文学)・北田祥子(俳句)

美術展

県民の優れた芸術文化活動の成果発表と鑑賞の機会を広く県民に提供し、芸術文化の創造と発展に寄与することを目的として開催しているものである。

美術部門実行委員会の運営

- 5月10日 第1回実行委員会
(部門役員の選出、開催計画、公募要項等について協議)
- 6月2日 事務局員会議
(展示日程、印刷物の配布計画等について協議)
- 8月25日 第2回実行委員会
(開催日程、作品搬入・審査等について協議)
- 2月15日 第3回実行委員会
(実施状況の報告、次回の開催計画、公募要項等について協議)

作品搬入・受付

9月3日(土)、県民会館及び公会堂において行われた。

応募点数は10種目で840点であった。昨年は840点

作品審査

9月4日(日)、各搬入・受付会場において種目別に行われた。種目別の入賞・入選作品数は次のとおり。

○日本画	34	○洋画	176
○版画	37	○彫刻	19
○工芸	50	○書道	168
○写真	123	○デザイン	52
○現代美術	38	○水墨画	98
	(38)		(109)

※()内は応募点数

展示会場及び会期 会場・岩手県民会館展示室

- 第1期 10月1日(土)～4日(火)〔写真・デザイン・現代美術〕
- 第2期 10月7日(金)～10日(月・祝)〔洋画・彫刻〕
- 第3期 10月13日(木)～16日(日)〔工芸・書道〕
- 第4期 10月20日(木)～23日(日)〔日本画・版画・水墨画〕

表彰

芸術祭賞、優秀賞、奨励賞及び部門賞受賞者の表彰式を11月23日に行った。(会場・サンセール盛岡)

美術部門実行委員会委員

〔日本画〕西川善有・片山道子〔洋画〕石川西三・日下信介〔版画〕日山登啓・鈴木和雄〔彫刻〕清武英司・曾根達也〔工芸〕阿部裕之・竹田康夫〔書道〕佐藤平泉・佐々木飛鴻〔写真〕太田信子・菊池克美〔デザイン〕竹村育貴・吉田康則〔現代美術〕小笠原卓雄・浅倉伸〔水墨画〕鈴木孝男・北村義美

種目別の記録

〔日本画〕

芸術祭賞 〔「錦秋」村上和広(一関市) 優秀賞 〔「露地」平松比紹(盛岡市) 奨励賞 〔「山百合」福士るみ子(山田町) 〕/ 〔「ジャーマンアイリス」関尚子(山田町) 部門賞 〕/ 〔「お祭りの日に」山本昌子(矢巾町) 〕/ 〔「暮れゆく湊」濱田雄司(宮古市) 〕/ 〔「花火見物」達谷窟敬祐(平泉町) 〕/ 〔「花」佐藤久美子(奥州市) 〕

《講評》

今年度の日本画の作品は、内容が多様になり、活気のある雰囲気にも包まれていました。新しい素材、表現方法の工夫など取り組んでいる様子が、作品を通して伝わってきました。また、新しく参加してくれた男性2名の影響は日本画の展望に大きな力を与えてくれたと感謝しています。静から動へ、新しい日本画の発展とこれからの展



▶日本画審査

望に拍手を送りたいと思います。芸術祭賞 〔「錦秋」村上和広は画面いっぱい立ち上るような山に密生している木々が赤く染まり、山頂にかけ上る様子を緻密に、丹念に描き上げ、木々が競い、喜び合うような様子を感じました。優秀賞 〔「露地」平松比紹はあじさいを前面に描いて奥の鉄柵の様子を幻想的に、淡い色調で表してまとめました。奨励賞 〔「山百合」福士るみ子は自然の中で精一杯に生きている様子をたくましく表現していました。奨励賞 〔「ジャーマンアイリス」関尚子は、花のもつ美しさを表現するために、それぞれの花たちが競い合い真剣になり背伸びしている様子と季節感をうまく表現していました。(西川善有)

審査員 西川 善有 (岩手県日本画協会会長)

片山 道子 (副会長)

豊間根久子 (顧問)

〔洋画〕

芸術祭賞 〔「川のほとりにて」山崎航太(盛岡市) 優秀賞 〕/ 〔「窓」横井邦彦(二戸市) 奨励賞 〕/ 〔「廃屋」初冬」辻 齊一(奥州市) 〕/ 〔「うつろい」菊池和弘(宮古市) 部門賞 〕/ 〔「走る」佐藤小子(奥州市) 〕/ 〔「木炭を焼く老夫婦」大久保義雄(奥州市) 〕/ 〔「希望」安部 隆(花巻市) 〕

／「兆し」金井保憲（矢巾町）／「過去と今」成田千代（宮古市）／「北国の鹿」川杉雅江（北上市）／「今日の世界」工藤哲郎（岩泉町）／「漏洩ス」伊藤真理子（盛岡市）／「風の強い日に」黒澤笑子（盛岡市）／「夕ぐれ時」武藤章（宮古市）／「TRANSFUSION」加藤鉄平（一関市）／「萌し」安倍良枝（奥州市）／「オッベルと象」三浦圭裕（盛岡市）／「自存」高成花織（盛岡市）／「春ゆれて」前川ゆみ子（宮古市）／「鉱山跡Ⅱ」八木 毅（盛岡市）

《講評》 芸術祭搬入直前に襲った台風10号の甚大な被災状況の中、作品輸送もままならない沿岸部をはじめ、県内各地から176点の貴重な作品が寄せられたことに、まず感謝すると同時に出品者個々の思いを再認識いたしました。

作品は例年に比べ、やや小振りなものが多かったように感じられたが、その分、しっかりと主題を定め、入念に描き込まれた密度の高い作品が多く、入賞作品へと繋がった。芸術祭賞、山崎航太さんの『川のほとりにて』は、柔らかな陽差しの下、川辺に佇む人物と樹木を配した背景のそれぞれ巧みな描写で、更に両者が絶妙に相俟って表現されており、高い完成度を感じさせる。普段から身近にある人や風景等のモチーフを慈愛に満ちた暖かな日差しで見詰

ている作者の心情が伝わる優れた作品である。
優秀賞、横井邦彦さんの『窓』は、水彩で描かれた作品であるが、水彩とは思えない重厚な表現で、クローズアップした古い土蔵の明かり取り窓が印象的である。リアルに徹しながらも叙情豊かに郷愁を感じさせ、見る側を魅了してやまない。

奨励賞、辻齊一さんの『廃屋―初冬』は、風雪に耐え、時の経過に抗いながらも自然と一体となり、風格すら感じさせる廃屋を哀感を持って描き込んでおり、深い精神性を感じさせる。同賞、菊池和弘さんの『うつろい』は、作者が長い年月観てきた古民家をモチーフにし、その姿の移ろいを人生に重ね合わせ、儂いが故に感じる存在の重みを青の統一された色調で、見事に描き出している。

全般には高い作品レベルを感じるが、中には主題の選び方、作品としての品性



洋画審査

や主体性にやや欠けたものもあり、テーマの絞り込み、作品に込める思いをしっかりと持つ事が大事と考える。又、老高若低の傾向だが、大学生を中心に若い層の出品も目立ち入賞を果たしている。未来の芸術祭を担う若者に、継続した取り組みを期待したい。

審査員 洋画部門理事

（日下信介）

版画 芸術祭賞 Ⅱ 「地底から天に」 日山登啓（盛岡市）
優秀賞 Ⅱ 「前進っ！」 横田康平（一関市） 奨励賞 Ⅱ 「町角」 工藤勝機（滝沢市）／「老いて四戒の情Ⅱ」 金澤龍一（釜石市） 部門賞 Ⅱ 「冬の香り、春の足音」 遠藤雅子（盛岡市）／「ただよう」 伊藤由美子（盛岡市）／「緑の子供たち」 及川奈都美（盛岡市）／「向日葵」 源新和子（盛岡市）／「Because a wind is there Ⅰ」 瀬川はるひ（奥州市）

《講評》 毎回作品との出会いは楽しみである。初めての作品はもちろんだが、続けて出している方々がどんな作品を出品してくるのかがとても気になる。前回とは違う何かを期待しているのである。

今年の出品作は木版画と銅版画が半数を占めたが、少数ながら紙版画、シルクスクリーン、コラグラフもあり版種は多様になった。総点数は37点と多くはないが学生、社会

人、ベテランと出品者25名の年齢構成は幅広い。

芸術祭賞 Ⅱ 「地底から天に」 日山登啓さんは、日輪に向かって独創的な表情の木々に覆われた山塊が、地底から盛り上がる重厚で深い色合いの幻想的な木版多色刷作品。

優秀賞 Ⅱ 「前進っ！」

横田康平さんは大きな版を彫り進め、きな臭い世相を反映させながら、自身の進むべきところを模索している心境を表現した単色刷り木版。

奨励賞 Ⅱ 「町角」 工藤勝機さんは彫りと刷りに工夫を加えたモノクロの版を重ねる事によって木版とは思えぬ柔らかな表情の町屋を表現した。同賞 Ⅱ 「老いて四戒の情Ⅱ」 金澤龍一さんは自身の心境を自画像を通して深く見つめ掘り下げた多色刷り木版。

部門賞では、美しい色彩と夢みるような優しい絵柄を見事なエッチングの線で描いた遠藤雅子さん「冬の香り、春



版画審査

の足音」・柔らかな色調の有機的形態がゆらぐ木版の大作、伊藤由美子さん「ただよう」・光と影のコントラストの中に不思議なものたちが見え隠れする銅版画、及川奈都美さん「緑の子供たち」・広がるひまわり畑の遠近を巧みに描いた多色刷り木版、源新和子さん「向日葵」・大作の紙版を毎回出品されている瀬川はるひさん「Because a wind is there I」が受賞した。

本年度は作品の大小にかかわらず版画に対する意気込みが感じられ、魅力のある作品が多かった。来年度の新たな作品との出会いを楽しみにしている。 (田村春樹)

審査員Ⅱ阿部陽子(版画家・国画会会員)

田村晴樹(画家)

彫刻

芸術祭賞Ⅱ「静思」黒沼 令(福島県) 優秀賞

Ⅱ「月夜」兒玉智江(北上市) 奨励賞Ⅱ「化身」平澤和

男(奥州市) / 「Personal Impression」松川ナオ(矢巾町)

部門賞Ⅱ「風化」工藤祐奈(矢巾町) / 「昇華」佐々木有

華(釜石市)

《講評》 横ばい状態が続いていた出品数は今年度大きく躍進し、過去5年間では最も多い19点であった。これは、

SNSを活用した広報活動や出品者のネットワークの広がりによるものが及ぼした結果と受け止めている。今後とも継続していきたいと考えている。

作品の内容は、テーマ、素材とも幅広く、個性的で多様な表現が見られたので、昨年以上に充実した展示会場となった。全体評を含め受賞作については、審査を担当していただいた佐藤淳一先生の講評を掲載する。

『作者の個性が滲み出たユニークな作品が多く出品された。芸術祭賞の黒沼令さんの作品は、優れた造形力と寄木の隙間と空間の関係に特徴がある。今回はさらなる造形的な挑戦の跡があり、新たな展開を見せている。優秀賞の兒玉智江さんの作品は、空間と形との絶妙の関係により、生き生きとした生命感が見事に表現されている。奨励賞の平澤和男さんの作品は、独特のしなやかな人体表現により、「成長」のイメージを



彫刻審査

想起させる。同じく松川ナオさんの作品は、素材の魅力を引き出し、哲学的な思考を誘うような内容となっている。部門賞は、作者の「若さ」が感じられる作品である。工藤祐奈さんの作品は、素材と作者のねらいをうまく合わせようと努力している点に、佐々木有華さんの作品は、魅力的な表現力により伝わるものがある点に、それぞれ好感が持てる。今後の展開を期待したい。』

ここ数年の傾向として若い出品者が増えたことがあげられる。特に、高校生が3年連続で受賞するなど、ベテランの出品者の中でも、決して見劣りしない内容の作品をつくりあげ、存在感を示している。出品者一人ひとりを取り巻く制作環境はそれぞれ異なるが、彫刻に対する制作意欲や探究心には共通するものがある。彫刻への強い思いを持つた方々が、世代を超えて切磋琢磨できるような場を提供するために、部門として一層の努力をしていきたい。

(清武英司)

審査員Ⅱ佐藤淳一(東北生活文化大学教授)

工芸

芸術祭賞Ⅱ「廃環」倉橋麟太郎(盛岡市) 優秀

賞Ⅱ「憩う」橋本宏巳(紫波町) 奨励賞Ⅱ「草木染」絞

りへの誘い」工藤祐造(紫波町) / 「沓巻」鈴木正二(奥

州市) 部門賞Ⅱ「Southern Wind」佐々木貴子(盛岡市) / 「響きあう生命」昆野明栄(遠野市) / 「白磁流線壺」竹田康夫(盛岡市) / 「櫻拭漆盛器」大森 翼(宮古市) / 「焼き締め花入れ」耕野静枝(花巻市) / 「きらめき」青柳ひで子(一関市) / 「四ツ葉をさがして」中里憲子(盛岡市)

《講評》 第69回岩手芸術祭工芸部門の総搬入数は53点であった。工芸は素材や手法が異なるさまざまな種別の作品が、競い合う中で芸術祭賞「廃環」倉橋麟太郎氏の作品が鑄造の技術力の高さと力強さの中に、未来への扉を開けようとする輝く感性が見事に表現されている秀作である。優秀賞「憩う」橋本宏巳氏の作品は陶の作品で、曲線の効果が形状の美しさを際立たせている。奨励賞草木染「絞りへの誘い」工藤祐造氏の作品



工芸審査

は、熟練の技による緻密な絞りの配列を背景に、形状の違う文様を表情豊かに染め上げているのに好感が持てた。奨励賞「香巻」鈴木正二氏の作品は、金工の平面構成で鍍金と彫金の技術を駆使し、金箔が存在感を主張し天女の繊細で優美な姿も目を引いた。部門賞の作品については、染織・陶磁・木工等それぞれが、素材と向き合う真摯な姿勢に意欲が感じられ、頼もしい限りである。大自然や日常の暮らしを題材に、丹精込めて制作された作品の展示方法にも配慮したい。展示の工夫で、作品に輝きが生まれて来るとの言葉を審査員の高橋貞夫先生より頂いている。出品数の増加はなかなか難しいものの、個々の作家の作品の質の向上は認められ次年度の第70回展への飛躍が期待される展示作品群であった。次年度はより多くの出品を期待したい。

(阿部裕之)

審査員 高橋貞夫 (日展会員)

菊池房江 (岩手工芸美術協会会長)

書道 芸術祭賞 〓「元成禪人詩」畠山素園 (花巻市) 優秀賞 〓「李商隱詩二首」丸若敬葉 (二戸市) 奨励賞 〓「于謙詩」熊谷碓斗 (盛岡市) 〓「山家集より」中田萌悠 (滝沢市) 部門賞 〓「小倉百人一首」餘目彩佳 (盛岡市) 〓「万

の仮名作品は、古典をベースに若さ溢れる作品が評価され、同じく奨励賞の熊谷碓斗さん (盛岡市) の漢字作品は、連綿が美しく、自在に躍動する行草体に仕上げた。

巡回展には、三賞作品に加え、大矢瑞峰さん (矢巾町) と三浦真琴さん (盛岡市) の漢字作品、下田海夷さん (大船渡市) の漢字仮名交じり作品、千葉寿幸さん (二関市) の篆刻作品の四点が選出された。大矢さんは気力充分な運筆で隷書作品を表現し、三浦さんは甲骨文字を素材とした装飾性豊かな作品に仕上げた。下田さんは全体構成が見事で、筆の弾力を生かしたりリズムカルな運筆で力を発揮し、千葉さんは篆刻の章法・刀法・字法を確立し、多様な風趣で見事に仕上げた。

墨色の美しさや、余白・章法等の全体構成に創意工夫のある作品が多かった。各書体の個性的な表現を鑑賞し、書の奥深さを感じ取りながら鍛練を重ね、完成度の高い作品を目指してい



書道審査

葉集より」伊藤紫月 (盛岡市) 〓「万葉歌を」内山茜桂 (盛岡市) 〓「王漁洋詩」兼平岱夔 (盛岡市) 〓「新古今和歌集より」小岩萌春 (盛岡市) 〓「仁者静」田山萬石 (盛岡市) 〓「萬葉集より」長谷川鶴舟 (盛岡市) 〓「白樂天詩」福井豊亥 (盛岡市) 〓「甲骨文句」三浦真琴 (盛岡市) 〓「あきかぜに」山本杏春 (盛岡市) 〓「周立詩」小笠原光華 (滝沢市) 〓「舒位詩」工藤明竹 (滝沢市) 〓「古今和歌集より」丸山篁香 (滝沢市) 〓「沈佺期詩」大矢瑞峰 (矢巾町) 〓「百人一首より」藤原晴苑 (花巻市) 〓「白居易詩」藤田静翠 (北上市) 〓「延命十句觀音経」千葉寿幸 (一関市) 〓「秋風調 (抄)」下田海夷 (大船渡市) 〓「杜甫詩二首」古館葩水 (二戸町)

《講評》 応募点数191点、入賞入選作品168点、展示作品は公募、招待、審査員合わせて191点。近年続く高齢化の影響等で心配された応募点数も増加し、出品作品には躍動感溢れる力作が多く、今後更なる研鑽を大いに期待したい。

芸術祭賞は畠山素園さん (花巻市) の漢字作品。重厚な線質、章法を含む総合力が群を抜いた。優秀賞の丸若敬葉さん (二戸市) の漢字作品は、単体の行草体で、疎密と練度の高さが目を引いた。奨励賞の中田萌悠さん (滝沢市)

ただきたい。 (佐々木飛鴻)

審査員 〓佐藤 平泉 (岩手書道協会会長)

- 斎藤 溪石 (〓 副会長)
- 堀内 青巒 (〓 副会長)
- 野田 杏苑 (〓 副会長)
- 吉田 晨風 (〓 副会長)
- 佐々木飛鴻 (〓 理事)
- 佐竹 松濤 (〓 理事)
- 津志田沙苑 (〓 理事)
- 日澤 竹圓 (〓 理事)
- 松戸 亮濤 (〓 理事)

写真 芸術祭賞 〓「イーハトーブの夜明け」板垣弘清 (花巻市) 優秀賞 〓「祈りー5年目の海へー」高澤安男 (葛巻町) 奨励賞 〓「舟っこ流し」菅野敬夫 (盛岡市) 〓「雨宿り」菊池賢一 (釜石市) 部門賞 〓「緋色の目覚め」工藤正典 (盛岡市) 〓「威嚇」平宏之進 (花巻市) 〓「馬コ祭り」小田健三 (盛岡市) 〓「ようこそいわて国体へ」畠山 勉 (花巻市) 〓「渾身の一撃」工藤卓美 (盛岡市) 〓「海へ」武藤 章 (宮古市) 〓「浴びる清めの水」伊藤武男 (久慈市) 〓「花魁道中」嵯峨勝次 (久慈市) 〓「決し

て忘れるな」佐々木宏（宮古市）／「LIFE」菅原章次（奥州市）／「悠久の精霊流し」北井崎昇（盛岡市）／「厳寒の湖畔」高橋順吉（盛岡市）／「初夏の遠野路にて」石井稔（盛岡市）／「慈愛」及川茂輝（盛岡市）／「Ghost Whispers」吉田 篤（盛岡市）／「和の美」星 道子（盛岡市）／「闘魂」阿部又恒（盛岡市）／「花時に遊ぶ」立花法子（盛岡市）／「はやる気持」藤村ひろ子（盛岡市）／「風の記憶」松本尚子（盛岡市）

《講評》 あらゆる分野のものを、バランスを考え、審査は慎重に進ませて頂きました。上位の作品は優れた感性で被写体を見つけ、その瞬間をテクニクで写しとめた傑作がそろいました。

プリントして初めて写真になるので、波うち、粒子の荒れなど、画質が荒れているのが気になりました。見せるプリントとしてきれいに仕上げてください。岩手は四季がはっきりしていて、すぐそばに素晴らしい被写体があるので、地元で目が出なくても、全国コンテストに出しましょう。ウェブ・コンテストも利用して腕を上げましょう。今までの感覚でない写真を期待します。

芸術祭賞Ⅱ「イーハトーブの夜明け」板垣弘清
水の張った田んぼに、朝日が昇る光景が映し出され、植

えたばかりの苗が整列し、落ち着いた色調でまとめた露出と構図が素晴らしい。遠景に聳える早池峰山とその空気感が素晴らしい。

優秀賞Ⅱ「祈り15年目の海へ」高澤安男：見た瞬間に、頭を下げて二人の想いが重く伝わってきました。曇天で沈んだ色の海、乱雑に積み上げられたテトラポット、モノトーンでまとめた点が、ドラマチックになった。

奨励賞Ⅱ「舟っこ流し」菅野敬夫：舟っこ流しの作品は多数応募があり、炎の露出がよく、一番炎の迫力があつたので、激戦をくぐり抜けて入賞を果たしました。

奨励賞Ⅱ「雨宿り」菊池賢一：演出とテクニクで創り上げた、お洒落でムード溢れる作品です。

部門賞Ⅱ「緋色の目覚め」工藤正典：朝陽の光の捉え方が見事、厳しさの中に壮大な美しさが存在します。

部門賞Ⅱ「威嚇」平宏之



写真審査

進：羽ばたく瞬間を狙った、撮影テクニクが光る傑作です。

部門賞Ⅱ「馬っこ祭り」小田健三：アングルが決め手となった、チャグチャグ馬っこの可愛いスナップです。

部門賞Ⅱ「ようこそいわて国体へ」畠山勉：雲が浮かぶ風景と新幹線が溶け込んだ世界が素敵です。（佐藤仁重）

審査員Ⅱ佐藤仁重（日本写真家協会会員）

【デザイン】 【自由】 芸術祭賞Ⅱ「より高く、より深く、より美しく1・2・3」吉田康男（盛岡市） 優秀賞Ⅱ「はたらきだいこく」あきないえびす「佐々木海太郎（盛岡市）奨励賞Ⅱ「岩手W特産※架空の食品パッケージ」村野充弘（盛岡市）／「I LOVE Van Gogh」吉田康則（盛岡市）部門賞Ⅱ「I LOVE IWATE（岩手顔）」吉田康則（盛岡市）／「PRISMIXED “FLOTATIONS”」浅倉 伸（盛岡市）／「揺れる選択」解体「保存」蛇口禎治（大槌町）／「2017 ホールインワンCALENDAR（宇宙編）1・2」藤澤敬悦（花巻市）

【課題】 金賞Ⅱ「地球に日傘を」佐々木陽子（盛岡市）銀賞Ⅱ「Don't Forge」佐々木海太郎（盛岡市）銅賞Ⅱ「未来」松本久美子（盛岡市）

《講評》 今年は、ポスターに秀作が揃った。芸術祭賞に輝いた吉田さんの三連作「より高く、より深く、より美しく」は、啄木・賢治・遠野物語の深遠なる世界がモチーフである。岩手への愛と、時空を超える疾走感を精緻な鉛筆画と水彩画で表し、ポスターに定着させた。

優秀賞・佐々木さんの「はたらきだいこく」「あきないえびす」は、七福神の中の二神にあやかり、ともすれば流されがちな毎日をポジティブに生きていこうと語りかける。奨励賞・村野さんの「岩手W特産」は、豊かな食材の生産と消費を通して地域の持続可能性が伸長するよう願いを込めた。同じく、吉田（康則）さんの「I Love Van Gogh」は畏敬するゴッホへのリスペクトを込めた筆致が鮮烈だ。

部門賞・吉田（康則）さんの「I LOVE IWATE（岩手顔）」は、愛する岩手県土を人物の顔に見立てた着想がユニークである。浅倉さんの「PRISMIXED



デザイン審査

「FLOTATIONS」は、あたかも意思を持つかのように有機的に浮遊し続ける生命体を想起させる。蛇口さんの「揺れる選択（解体）（保存）」は、様々に揺れる震災観・ふるさと観、地域との向き合い方を通し、絶対の答えなど不在得ない未来への道筋を広く問いかける。藤澤さんの「2017 ホールインワンCALENDAR（宇宙編）」は、ホールインワンに寄せるゴルフアー・心理を犬のユーモラスな仕草を通して表現した。

課題部門、金賞・佐々木（優子）さんの「地球に日傘を」は、よりポジティブな発想と行動の輪を広げ、みんなが明日の地球を創ろうというメッセージだ。銀賞・佐々木（海太郎）さんの「Don't Forget」は、木の切り株を自然破壊の象徴に挙げ、いたずらに生命を損ねたり失ったりする状況への警鐘を発する。銅賞・松本さんの「未来」は、ダイクで直接的なビジュアルが、地球上に蔓延する人類の愚行に対する危機意識を鋭敏に反映している。（村上由美子）

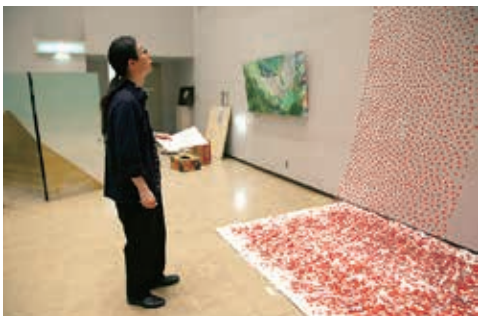
審査員 長谷川羊介（クリエィティブディレクター）

村上由美子（岩手デザイナー協会会長）

現代美術 芸術祭賞 、「ほとんどくだらない」上野あづさ（盛岡市） 優秀賞 、「クルテ」木村麻希（宮古市） 奨

奨励賞 鈴木研作は、絵画と写真を相互浸透させ、抽象的なロード・ムーヴィーのような詩的な世界を描写している。渡邊若子は、「見る／見られる」という関係を逆転させる映像と、チープな造作により、強い心理効果を生み出している。

部門賞 小原久美子は、身を切るような素材の選択と強迫観念にも似た表現手法によって、切実な動機を目に見える形にしている。米山徹は、野放図に表出される破壊的な衝動を、諦念を潜ませたクールな作品へと昇華させている。柴田有理は、ユニークな着想から絵画の奥深さをひきだし、さらに、描かれた身体とリアルな身体との関係をひきだしている。高橋克宏は、人類の歴史とともに発展してきたメディアの歴史を、情報の地層として明快に提示している。やむにやまれず何かをしようという強い衝動、他者の共感を得ることの難しさに由来する深い諦念。両者が



現代美術審査

「励賞」海までの距離」鈴木研作（滝沢市）／「見え見えですよ」渡邊若子（花巻市） 部門賞「祈り区」小原久美子（盛岡市）／「みずもの6」米山 徹（盛岡市）／「電柱の女」柴田有理（盛岡市）／「記憶の地層」高橋克宏（盛岡市）

《講評》 審査は3年目を迎えたが、今回は応募作品が増えて力作も多く見られ、会場には熱気が感じられた。表現することへ向かう、熱。しかし、熱だけでは、作品はできない。すぐれた作品は、その作品が目に見える様相を問わず、生きる意欲を失わせる出来事に直面したときのような絶望を、潜ませていることがある。そう、冷めた熱、である。

芸術祭賞 上野あづさの《ほとんどくだらない》という作品は、まさに、そのような「冷めた熱」を湛えている。ありふれた素材、特別ではない作為、挑発的な題名。そこに、作品が成立するギリギリの地点を見極めようとする冷静さを感じられる。その結果、逆説的に、かすかに残る「くだらなくないもの」が舞い降りる刹那の顕現が予感されるのである。

優秀賞 木村麻希は、モチーフと制作手法の強い結びつきと、手と目の連携によって、稀有なイメージの成立をスリリングに表出している。

拮抗する作品は稀有だが、どちらかでも印象に残る作品を評価した。（梅津 元）

審査員 梅津 元（埼玉県立近代美術館主任学芸員）

水墨画 芸術祭賞 、「幽邃陽光」高橋清治（盛岡市） 優秀賞 、「三徳山三仏寺」佐々木桂造（滝沢市） 奨励賞 、「山田線復旧は何時」清水恒男（盛岡市）／「サイロのある小牧場」佐藤哲（盛岡市） 部門賞 、「錦秋」平塚祐子（盛岡市）／「ゆり」金澤信子（盛岡市）／「ふるさと」の古民家」小笠原妙子（盛岡市）／「滝壺清涼」泉澤香保（盛岡市）／「双樹相愛」谷藤千嘉子（盛岡市）／「新緑溪流」近江 力（盛岡市）／「永平寺山門」吉田敏雄（盛岡市）／「葡萄」伊藤タケ子（花巻市）／「雪林静寂」谷藤 稔（釜石市）／「憩い」高橋峯子（北上市）／「黒井城跡」佐藤幸子（大船渡市）

《講評》 第69回水墨画部門の応募総数が109点と、昨年より更に減少しました。これも今の時代は多種多様の趣味がある中では、止むを得ない事とも思われます。

特に「芸術祭」の場合は、少し高度に考え過ぎたり、本年の応募者の平均年齢が70歳を優に超えている事を考慮しても、憂慮すべきものと思います。

出品作品は、高年齢化と共に、大型作品が減少し、中型の作品が多くなりつつあります。

一方、数ある展示会や勉強会等に足を運んだ方々の作品には、充実したものや作品作りに対する意気込みを感じるものもありました。反面、作品が重ね描き過ぎたり、隅々迄の濃厚な筆使いで固い作品になったものもあります。

水墨画独特の「三墨法」「余白の活かし方」等、今後とも追求する課題がある事も考えさせられました。又、構図の取り方でも、他の作品を模写すれば、すでに出来上がっているので安心ですが、自分でスケッチし構図を考えることを逃げずに探究してください。更に、もう少し工夫や配慮をすればもっと良い作品になると感じられるものも多く見受けられ、今後の楽しみでもあります。

あまり堅苦しく考え過ぎず「楽しみながら」作品を描いて行きましょう。



水墨画審査

◎芸術祭賞「幽邃陽光」

亜熱帯の、うっそうとした森の中にまぶしく光の差し込む様子を、光の強さ、隅々までの気配り等「構図、墨色、紙の白さの活かし方」等熟練した筆さばきを駆使して描き上げた力のある作品です。

◎優秀賞「三徳山三仏寺」

岩にしっかり足場を置いた「懸け作り」の寺の様子を適確に捉えた表現が幸いしています。焦点を上位に置いた構図の良い作品です。

◎奨励賞（一）「山田線復旧は何時」

山奥にかかる鉄路というむずかしい構図を巧みに作品に仕上げています。あえて鉄橋の下にぼかしを入れて、廻りを引き締め墨色の優れた作品です。

◎奨励賞（二）「サイロのある小牧場」

広々と整理された牧場、静かな畜舎等を適切に絡め、スケッチを踏まえた安定した作品です。

（岸本力ヨ子）

審査員Ⅱ 鈴木 孝男（岩手県水墨画協会会長）

岸本力ヨ子（副会長）

工藤 瑞則（副会長）

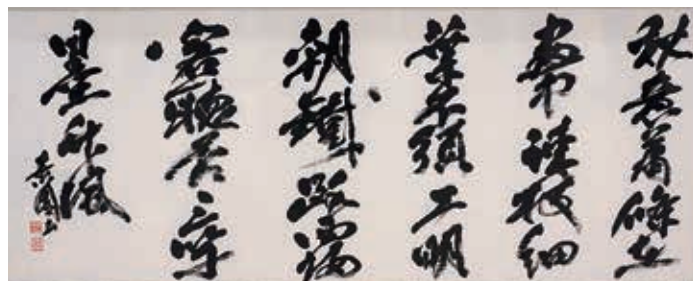
粒針 秀郎（監事）

美術展二賞受賞作品

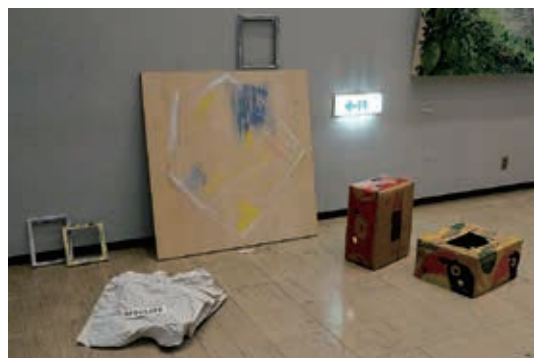


デザイン

「より高く、より深く、より美しく1.2.3」／吉田 康男



書道 「元成禅人詩」
／畠山 素園



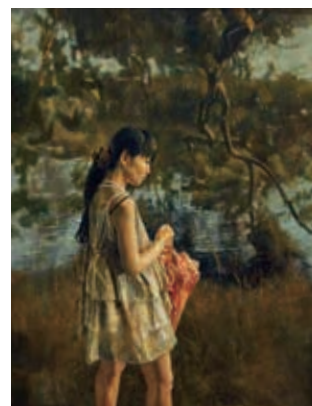
現代美術
「ほとんどくだらない」
／上野 あづさ



水墨画 「幽邃陽光」
／高橋 清治



写真 「イーハトーブの夜明け」
／板垣 弘清



洋画 「川のほとりにて」
／山崎 航太



日本画 「錦秋」
／村上 和広



彫刻 「静思」／黒沼 令



版画 「地底から天に」
／日山 登啓

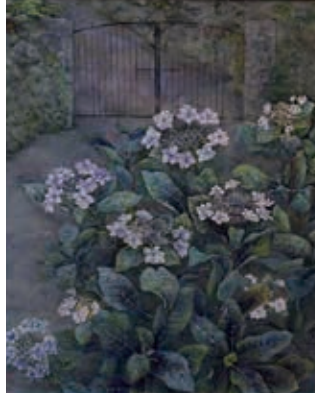


工芸 「廃環」／倉橋 麟太郎

優秀賞



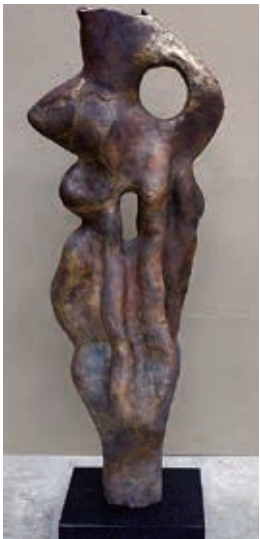
版画 「前進っ！」
／横田 康平



日本画 「露地」
／平松 比絹



洋画 「窓」／横井 邦彦



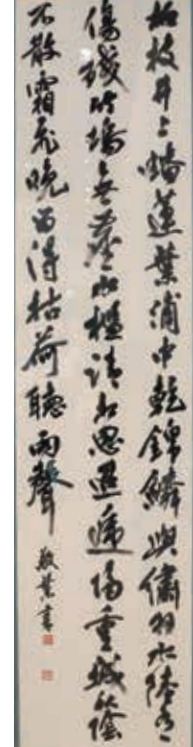
彫刻
「月夜」
／兒玉 智江



水墨画 「三徳山三仏寺」
／佐々木 桂造



現代美術 「クルテ」／木村 麻希



書道
「李商隠詩二首」
／丸若 敬葉



写真 「祈り-5年目の海へ-」
／高澤 安男



工芸
「憩う (いこう)」
／橋本 宏巳

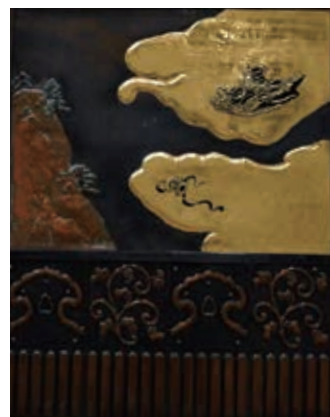


デザイン
「はたらきだいこく
あきないえびす」
／佐々木 海太郎

奨励賞



写真 「舟っこ流し」
／菅野 敬夫



工芸 「沓巻 (くつまき)」
／鈴木 正二

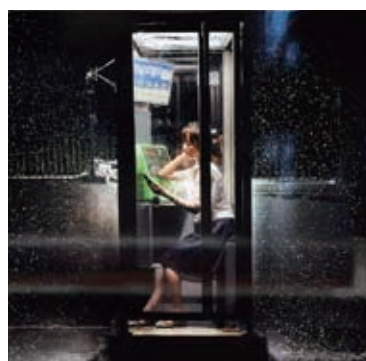


写真 「雨宿り」／菊池 賢一



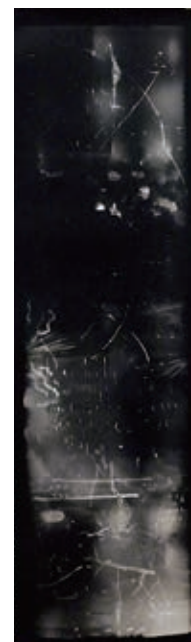
工芸 草木染 「絞りへの誘い」
／工藤 祐造



彫刻
「化身」
／平澤和男



彫刻 「personal impression」
／松川 ナオ



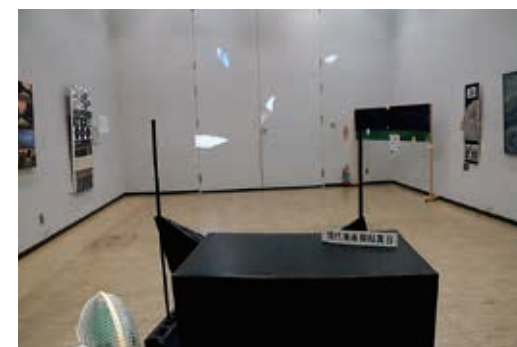
現代美術
「海までの距離」
／鈴木 研作



デザイン
「I LOVE Van Gogh」
／吉田 康則



デザイン
「岩手W (ダブル) 特産
※架空の食品パッケージ」
／村野 充弘



現代美術 「見え見えですよ」／渡邊 若子



版画 「町角」／工藤 勝機



版画 「老いて四戒の情2」
／金澤 龍一



日本画 「ジャーマンアイリス」
／関 尚子



水墨画 「サイロのある小牧場」
／佐藤 哲



洋画 「うつろい」／菊池 和弘



書道 「于謙詩」
／熊谷 碓斗



日本画 「山百合」
／福士 るみ子



水墨画 「山田線復旧は何時」
／清水 恒男



洋画 「廃屋-初冬」／辻 齊一



書道 「山家集より」／中田 萌悠

巡回美術展

巡回美術展は、美術展の優秀作品を県内市町村において巡回展示し、県民に芸術鑑賞の機会を提供するために実施しているものである。

今年度は県内5会場において美術展における芸術祭賞、優秀賞、奨励賞並びに部門賞のうち部門推薦作品（最大4点）、計78点を巡回展示した。うち、巡回展示することが困難な彫刻部門2点及び現代美術部門7点については、当該作品の写真パネルを展示した。合わせて映像コンクールにおける入賞作品3点も各会場で上映された。鑑賞者数は1207名であった。

巡回日程・会場（計14日間・5会場）

11月5日(土)～6日(日) 一戸町コミュニティセンター
11月11日(金)～13日(日) 山田町中央公民館
11月23日(水)・祝～27日(日) 奥州市文化会館
11月30日(水)～12月1日(木) 宮古市民文化会館
12月3日(土)～4日(日) 久慈市文化会館

小・中学校美術展

小学校絵画部門

芸術祭賞Ⅱ 須田涼太（城北小1）・佐藤杏太（城北小4）・高澤寛良（杜陵小6）
優秀賞Ⅱ 高橋桜姫羽（厨川小1）・田村花香（高松小1）・玉川優愛（仁左平小1）・神 愛染（盛岡・土淵小2）・保科諒二（松園小2）・島田 醒（手代森小2）・岩崎颯空（太田東小3）・菅 ほなみ（大新小3）・藤原心珠（湯本小3）・上山桃奈（大慈寺小4）・田中館美砂（城北小4）・藤原想（松園小4）・阿部ひかる（厨川小5）・濱田義仁（杜陵小5）・成田 翼（江釣子小5）・松尾一美（厨川小6）・芳賀陽央里（大新小6）・柳田善之（滝沢東小6）
奨励賞Ⅱ 神農仙侍（太田東小1）・柏崎夏乃（城北小1）・山根瑛龍（大浦小1）・赤坂茉衣（上田小2）・横田妃咲（津志田小2）・佐々木未莉亜（黒沢尻東小2）・大久保悠乃（桜城小3）・小田島綾紀（山岸小3）・大須賀珠璃（手代森小3）・阿部優花（城北小4）・田島 想（見前小4）・澤村心葉（見前小4）・福岡双葉（山岸小5）・鈴木夢麻（藤原小5）・佐々木俊太郎（大浦小5）・工藤真子（青山小6）・立花小春（大新小6）・千代川美虹（大新小6）

出品作品数

日本画8点、洋画8点、版画8点、彫刻6点、工芸8点、書道8点、写真8点、デザイン8点、現代美術8点、水墨画8点／映像作品3点



一戸町コミュニティセンター



久慈市文化会館

審査評

今年度の審査会は、10月11日、盛岡市立羽場小学校を会場に、21人の審査員によって行われました。会場には子ども達が思いを込めて描いた3100点の作品が県下51校から寄せられました。たくさん作品から、子ども達がよりよい表現を目指し、夢中になって取り組んでいる様子が目に浮かび、充実した審査の時間を過ごすことができました。出品された作品全体を見ると、想像画、風景画、版画など幅広いジャンルから題材が選ばれています。さらにコラージュ（貼り絵）、パチック（はじき絵）など様々な技法を用いたり、色画用紙やキャンバス紙などを使用したりするなど多様な表現が見られます。子どもが思いを个性的に表現できるように、指導者がよく研究し工夫されていることがうかがえます。

低・中・高学年の部それぞれの作品を見て気付いたことと、芸術祭賞の作品等について述べたいと思います。

低学年の絵は、描きたいものを力一杯に伸び伸びと描かれた作品が目立ちます。題材についても、想像して描いた絵、生活科で触れあった生き物との場面を描いた絵、観察して描いた絵などバラエティーに富んでいます。1年生はクレヨンを中心に、2年生はクレヨンに水彩や幾つかの技法を組み合わせた作品も見られます。芸術祭賞の城北小1

年生須田涼太さん「いぬわしとなかよし」もクレヨンを中心に、お気に入りのイヌワシを大きく力強く描いています。この作品と最後まで芸術祭賞を争ったのが、優秀賞の土淵小2年生の神愛染さんの「ミニトマト 一こ いただき!」です。鮮やかな赤と葉の緑の対比が見事で、トマトの瑞々しい生命感のあふれる作品です。

中学年の絵は、想像豊かに描いた絵、木や花などを観察して描いた絵などが多く見られます。低学年では背景などに補助的に使われることが多かった水彩絵の具が彩色の中心となり、混色や重色、にじみやぼかしの技法も取り入れて表現の広がりが見られます。また、近くを大きく遠くを小さく描く遠近法を用いて空間を捉えようとする絵もあります。芸術祭賞の城北小4年生の佐藤杏太さん「夜の闇につつまれた木」は、葉や幹を大胆に単純化して躍るような姿にするとともに、色を青系にまとめ、不思議な世界を素晴らしい感性で表現しています。この作品と芸術祭賞を争った3年生で優秀賞の太田東小3年生の岩崎颯空さんの「水玉のつてぼうけんだ」は、水玉の丸い形と周りの四角形を大胆に構成した素晴らしい作品です。色使いも現代的で審査員を驚かせました。

高学年の絵は、写実的な表現の作品が多く見られます。中には遠近法を使いこなして空間の奥行きや広がりを表そ

小学校書写部門

芸術祭賞Ⅱ 柳谷咲希（鵜飼小2）・西川さくら（青山小4）・小林優香（大新小6）
優秀賞Ⅱ 成田圭織（岩大附属小1）・渡辺真央（岩大附属小1）・山本なつめ（岩大附属小1）・堀越ももか（山岸小2）
菅生紅恋葉（岩大附属小2）・玉井瞭平（滝沢東小2）
神山ひなた（桜城小3）・柴垣琴乃（北松園小3）・安ヶ平多絵（北松園小3）・菊池心柚（青山小4）・遠藤美佑（石切所小4）・橋本侑羽（滝沢・滝沢小4）
八木橋晃也（城北小5）
馬場悠歌（津志田小5）
大平 琳（滝沢・滝沢小5）
吉田 温（城北小6）
玉井しの（滝沢東小6）
志田菜々美（御辺地小6）
奨励賞Ⅱ 松原永和（岩大附属小1）・高宮創汰（岩大附属小1）
杉野令依（岩大附属小1）
中村紗瑛（向中野小2）
清水亮甫（岩大附属小2）
木幡さやの（岩大附属小2）
佐藤舞依（城北小3）
阿部華夕（白百合小3）
岡田夢羽（津軽石小3）
小松立空（城南小4）
千葉七望（滝沢東小4）
斎藤美咲（滝沢東小4）
藤原 蘭（手代森小5）
小原日菜（滝沢・滝沢小5）
坂原奏音（沼宮内小5）
工藤真子（青山小6）
三浦真歩（岩大附属小6）
小原結菜（滝沢・滝沢小6）

うとしたり、陰影をつけて立体感を出そうとしたりするなど、自らの絵の世界を深めようとする作品もあります。芸術祭賞の杜陵小6年生高澤寛良さん「櫻山神社」は、地域の神社の社殿を下から見上げた構図で、しっかり対象を見つめるとともに、水彩画の透明感を生かして色を重ね、建物の存在感や神聖な雰囲気を感じさせ、作者がこの神社を見た時の感動や空気がこの絵を見る者に伝わってきます。この作品と芸術祭賞を争った5年生で優秀賞の江釣子小成田翼さんの「彼岸花と全明寺」も印象的な作品です。手前に配した彼岸花の赤とお寺の屋根の濃紺との対比が鮮やかで、深まりゆくふるさとの秋への思いを情感豊かに表現した絵です。

最後になりましたが、多くの学校から個性あふれる作品を応募いただき、心から感謝いたします。また、素晴らしい感性豊かな作品を描いたみなさん、子ども達の個性を引き出し、より美しいものを追究する子ども達の活動を支援してくださった指導者のみなさん、そして応援してくださった保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。
（松園小学校長 高橋眞司）

審査評

今年度の応募作品数は、硬筆作品787点（1、2年生）、毛筆作品1527点（3～6年生）でした。例年に比べ減少傾向にはありますが、真摯な字書の姿勢がうかがえる作品ばかりでした。

〈1年生〉一文字、一文字、丁寧に書かれた作品ばかりで感心しました。基本点画の「とめ、はね、はらい」に気を付けながら書かれた作品が多く見られました。入門期の文字指導がしっかりなされている成果だと思えます。

今後の課題としては、句読点やかぎ（一）の位置や大きさに気を付けること、文字の大きを意識することです。線書き練習を十分に行うことで線の震えもなくなります。これからも練習を重ね文字感覚を養ってほしいと思います。
〈2年生〉最後の文字まで丁寧に「とめ、はね、はらい」をしっかりと意識して書かれている作品が多く見られました。次の点が課題です。

・「町」「音」の縦画と横画の接し方に気を付けて書くこと
・「る」「ま」の結びの形に気を付けて書くこと
・「ん」の「おれ」「折り返し」の方向に気を付けて書くこと
・句読点や濁点の大きさや位置に気を付けて書くこと
〈3年生〉小学校書写で初めて毛筆の学習に取り組んだ3年生。総画数三画の中に、横画、左右のはらい、始筆、終

筆に気を付けること等、多くの要素を含む課題でした。三画全てに気力を充実させて書き上げることが難しかったと思います。

入賞、入選した作品は、十分に練習を重ねて書かれたものが多く見られました。横画は、始筆の角度や、やや右上がりに書くこと、「左はらい」や「右はらい」は、方向に気を付けて書くことがよくできていました。

今後も基本点画の筆使いをさらに練習していくことを期待します。

〈4年生〉「竹」と「笛」の二文字の中心をそろえるのが難しい課題でしたが、バランスよい字配りで、伸び伸びと書いている作品が多かったです。「竹」の縦画の方向や「笛」の「たけかんむり」とつくりの「由」の組み合わせ方に気を付けて取り組んだことが伝わってきました。「はらい」も上手に書いていました。

基本点画である縦画の始筆や「はね」、また、名前の文字の筆使いや大きさにも気を付けて練習に取り組んでください。

〈5年生〉全学年を通して、5年生の出品点数が一番多く、積極的な取組の様子がうかがえました。

高学年として、入賞、入選作品は基本点画がしっかりとされており、二文字が紙面に上手におさめられていました。

中学校美術部門

芸術祭賞 千葉菜月（岩大附属中2）・鎌田千里（岩大附属中3）

優秀賞 松尾桃芳（岩大附属中1）・鎌田 思（岩大附属中2）・山本 花（上田中3）

奨励賞 嵯峨一葉（岩大附属中1）・小林叶夢（岩大附属中2）・佐藤千明（岩大附属中3）

審査評

今年度も、県内の中学校16校から418点のすばらしい美術作品が寄せられました。

そのうち入賞者数8点、入選数111点でした。そのうち23点が県内5会場を巡る巡回美術展に選ばれました。

出品された作品を審査して感じたことは、美術の学習での学びを基本としながらも、到底授業の時間だけでは足りないほどの描きこみがなされ作品に対するそれぞれの生徒の思いを感じとることができたことは大変うれしく思います。

【第1学年の傾向】

美術の学習時間を通して基礎・基本を習得し、画材の特性と表現意図が明確に感じとられるとともに、のびのびと表現しているところが大変素晴らしいと感じました。

【第2学年の傾向】

1年生の既習事項を生かしながら、さらに自分なりの表

課題としては、「文」の画の交わり方、「庫」の「はらい」の長さや方向、さらに「まだれ」の中の「車」の中心が少し右にずれることに注意して書くことが挙げられます。また、画数の少ない「文」は、やや小さめに書くと、バランスが、さらに整います。

〈6年生〉6年生の応募作品は、例年に比べ多くはなかったのですが全体的に力強い作品が多いと感じました。3年生からの書写の学習成果が表れ、「左はらい」や「右はらい」と「とめ」といった筆使いが上手でした。

課題としては、「意」の三つの部分の組み立ての中で「心」が中心からずれている作品が見られたことです。

中学校でも小学校で学んだ楷書の書き方を日常の学習や生活に生かしていくことを期待しています。

（葛巻町立小屋瀬小学校長 高橋 康子）

現の追求がなされてあり、作品の魅力度がより感じられる作品が多くありました。

【第3学年の傾向】

3年間の学習の積み重ねが余るところなく生かされた作品です。一人一人の作品への深い思いが一つ一つの色や形に込められていることが感じられます。

【芸術祭賞】

「静寂の中で」（附属中2年 千葉 菜月）
実際の風景を描きながらも、その場所に対する作者の思いが、独自の感性で色と形で表現されているところが素敵です。

「風は春を通り抜けて」（附属中3年 鎌田 千里）
春を感じさせる色調で緻密に描きこまれた中に、目では感じることでできない風を工夫し表したところに表現力の高さを感じます。

【優秀賞】

「大地の鼓動」（附属中1年 松尾 桃芳）
大木が複雑にしっかりと根を這わしているところに、着眼点の素晴らしさを感じます。根の表現が素晴らしく生命感を感じる作品です。

「逢いに行こう」（附属中2年 鎌田 思）

たくさんさんの木の葉を一枚一枚丁寧に描き込む中に、やさしい光と奥行き感が巧みに表現されている構図の素晴らしい作品です。

「真剣勝負」(上田中3年 山本 花)

鉛筆での作品ではありませんが、丁寧な描き込みがしつかりなされてあります。難しい手の表現もしっかりなされてあります。視線の強さが見る人を惹きつける作品です。

【奨励賞】

「春の木もれ日」(附属中1年 嵯峨 一葉)

着眼点と構図が素晴らしい作品です。優しい木漏れ日、巧みな色彩で表現されてあります。思わず空を見上げている錯覚に陥る素敵な作品です。

「春の盛岡城跡公園」(附属中2年 小林 叶夢)

一点透視が効果的に用いられた構図です。石垣の青い色彩に独特の光とさわやかさを感じさせる作品です。

「Peace!」(上田中3年 佐藤 千明)

丁寧な描き込みと塗り重ねで、色鉛筆ではありませんが、豊かな色彩を感じさせる作品です。背景表現の工夫で自分をより深く表現しようとしています。

(城西中学校教諭 杉本 聡)

中学校書写部門

毛筆条幅入賞

芸術祭賞Ⅱ川上花琉(滝沢・滝沢中3)

優秀賞Ⅱ館澤智子(大宮中3)

毛筆半紙入賞

芸術祭賞Ⅱ熊谷志歩(城東中3)

優秀賞Ⅱ小松功英(城東中1)・岩渕真侑(北松園中2)・

加藤安奈(岩大附属中3)

奨励賞Ⅱ北方美緒(北松園中3)・稲垣花音(滝沢南中3)・

工藤快斗(滝沢二中2)・佐藤 遥(福岡中1)

審査評

平成28年度の中学校部門の応募総数は、昨年より400点程多い、1041点でした。出品校はほとんど変わりませんでした。出品数は久々に千点を超え、嬉しい限りです。全校で取り組んでくださる学校も増加の傾向にあります。お忙しい中、熱心に取り組んでいただいた指導者の方々、生徒の皆さんに感謝申し上げます。

審査会は10月11日に盛岡市立青山小学校で行われました。審査員一人一人が、作品の良さをみとり、取り組みの様子を想像しながら慎重に審査しました。

その中で、入賞・入選された皆さん、本当におめでとう

ございます。12月には岩手県民会館で、その後も各地区で巡回展が開催されます。自分の作品、他の作品もよく見て、

色々な表現の仕方、書きぶりなども学んでいただければ幸いです。そして、これから書く作品に生かしていただくさい。

手書きの機会がどんどん減ってきている現代ですが、手書きの文字の温かさ、文字に心を込める気持ちは、貴重なものとして受け継がれています。美しい文字を書けることの価値を胸にきざみ、これからも更に力を伸ばしてください。ことを期待しています。

さて、各学年の審査で気づいた点をまとめました。今後の参考にしていただければ幸いです。

1年・半紙

習ったばかりの行書に挑戦し、伸び伸びと書かれた作品が多く見られました。また、名前もとても丁寧に書かれています。「和」のへんとつくりのバランスが取れている作品が多くありますが、「音」の字形のとり方が難しかったようです。行書の特徴である「連続」が自然に出るよう、筆脈を意識して書き、これからもっと、行書に慣れ親しんでほしいと思います。

1年・条幅

条幅の大きさに挑戦した姿勢がとても素晴らしく、どの

作品からも気迫が伝わってきました。

2年・半紙

授業で行書に取り組んでいることもあり、行書の特徴を理解し、筆遣いにもなめらかさを感じられる作品が多かったです。名前も本文に調和するように行書で書かれました。「志」の字形のとり方に苦勞の跡が見られました。中心を意識し、筆脈を通すことや字と余白のバランスに気を付けるとさらに魅力のある作品になると思います。

2年・条幅

配置やバランスが良く、堂々とした作品でした。筆の運びにリズムを加えることで、さらに生き生きとした作品にできると思います。

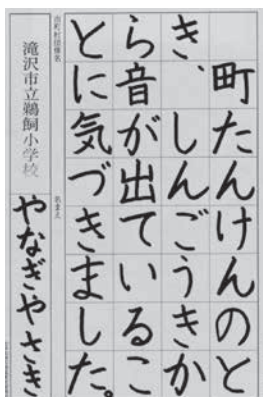
3年・半紙

ほとんどの作品が行書に挑戦しており、入選した作品は線の美しさが際立ちました。漢字と仮名の調和がとれていて、まとまりのある作品が多くありました。課題に仮名が二文字含まれており、その練度が作品の完成度に大きく影響しました。

3年・条幅

出品点数は例年より少なめでしたが、全体的にレベルが高く、書き込まれた作品が多くありました。中学校のまとめの作品として、条幅作品に取り組んだことに敬意を表し

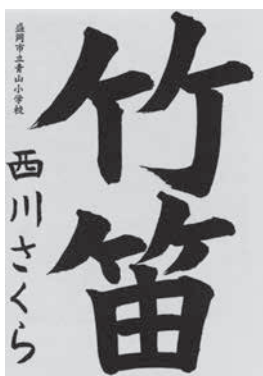
小学校絵画部門・書写部門芸術祭賞



◀ 滝沢市立鵜飼小学校
2年 柳谷 咲希



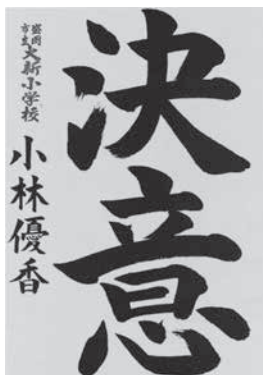
▲ 「いぬわしとなかよし」
盛岡市立城北小学校
1年 須田 涼太



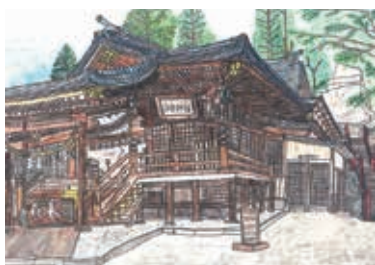
◀ 盛岡市立青山小学校
4年 西川 さくらら



◀ 「夜の闇につつまれた木」
盛岡市立城北小学校
4年 佐藤 杏太



◀ 盛岡市立大新小学校
6年 小林 優香



▲ 「櫻山神社」
盛岡市立杜陵小学校
6年 高澤 覚良

ます。紙面に対してバランスの良い大きさで文字が配置され、見応えのある作品が多かったと思います。

条幅の部で芸術祭賞を受賞した滝沢中学校の川上花琉さんの作品は、懐が大きく、一貫した筆の流れが感じられました。

同じく、半紙の部の芸術祭賞、城東中学校の熊谷志歩さんの作品は、筆圧にリズムが感じられる潤いのある美しい線質が魅力です。細部に気が配られ、まとまりがある洗練された作品です。

たくさんの素晴らしい作品に出逢い、感動いたしました。次回も、県内多くの地区、学校から、たくさんの応募をお待ちしております。

(城西中学校教諭 小野寺弥生)

第69回岩手芸術祭小・中学校美術展 応募状況

部門 項目	部門				合計
	小学校絵画	小学校書写	中学校美術	中学校書写	
応募点数	3,100	2,314	418	1,041	6,873
応募学校数	51	71	16	32	170
入賞者数	39	39	8	10	96
入選者数	432	506	111	223	1,272
入選のうち 巡回展出品数	37	96	15	84	232

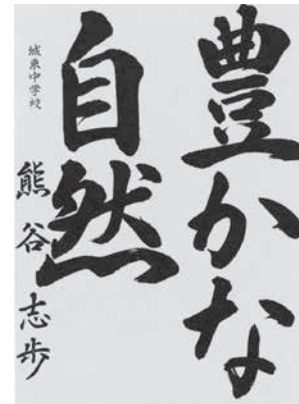
中学校美術部門・書写部門芸術祭賞



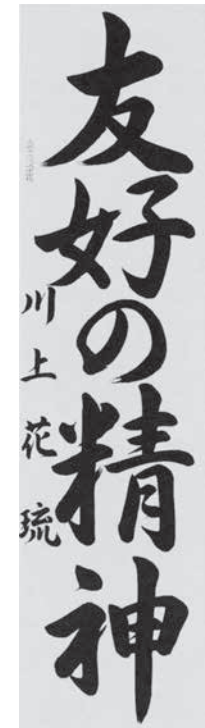
▲「風は春を通り抜けて」
岩手大学教育学部附属中学校
3年 鎌田 千里



▲「静寂の中で」
岩手大学教育学部附属中学校
2年 千葉 葉月



◀盛岡市立城東中学校
3年 熊谷 志歩



◀滝沢市立滝沢中学校
3年 川上 花琉

巡回小・中学校美術展

小・中学校美術展におけるすべての入賞作品と入選作品の中から巡回用に選定した作品を、県内各地で巡回展示した。県内の児童、生徒をはじめ、広く県民に鑑賞の機会を提供するとともに、児童・生徒の創作活動の向上に資するために実施しているもので、今回が40回目になる。
小学校絵画76点、小学校書写135点、中学校美術23点、中学校書写94点、合計328点を巡回展示した。期間は12月17日(土)～平成29年2月5日(日)までの12日間、5市村で開催し、入場者は789名であった。

巡回日程・会場

12月17日(土)・18日(日) イオンタウン釜石
12月23日(金・祝)～25日(日) カメリアホール(大船渡市)
平成29年1月20日(金)～22日(日) 宮古市民文化会館
2月1日(水)・2日(木) 九戸村公民館
2月4日(土)・5日(日) 久慈市文化会館



イオンタウン釜石



宮古市民文化会館

演劇

演劇部門の公演は、県内4か所で行われた。

〔盛岡地区〕

10月7日(金)～10日(月・祝)

盛岡劇場・タウンホール

架空の劇団

「寺シリーズ3部作①寺のショウソウ／②仏壇のない家／③はなやもめ」

〔県央地区〕

12月4日(日)

日本現代詩歌文学館(北上市)

北芸の会

「朗読と芝居」

〔県南地区〕 劇団我夢：公演中止

〔沿岸地区〕

H29年2月26日(日)

釜石地方森林組合

劇団もしよこむ

全国5カ所で公演するなど、活動実績を積み重ねてきた。

今回15周年記念として取りあげたのは「寺のショウソウ」、「仏壇のない家」、「はなやもめ」の寺シリーズ3部作である。これらの作品は、結婚という、一見、縁がなさそうな出来事を寺で展開させることにより、普遍的な人間模様を描いてきた作品である。

1976年を舞台にした「仏壇のない家」から、2001年を舞台にした「寺のショウソウ」そして2036年の近未来を描いた「はなやもめ」まで、足かけ60年にわたる、寺の家族の物語は壮大でありながら、身近で、多くの共感を得たと信じている。

15周年の記念の年に、絶妙のタイミングで県の芸術祭に参加できたことに、運命の巡り合わせを感じた。関係各位に感謝申し上げる。



架空の劇団

(倉持裕幸)

[ON AIR]

〔県北地区〕

12月25日(日)

二戸市民文化会館／大ホール

二戸市演劇協会The・雲人

ミュージカル「誰もがリーダー誰もがスター」

《講評》

架空の劇団

第69回岩手芸術祭演劇部門は、架空の劇団復活15周年記念公演「寺シリーズ3部作一挙再演」と銘打って行われた。架空の劇団は、盛岡市を拠点に2001年に復活再結成し、番外公演や合同公演を含めると、これまで19回の公演を数えている。代表のくらしひろゆきの他、高橋拓という2人の劇作家を抱え、それぞれタイプの異なる作風で、着実に公演を行ってきた。

震災後は番外公演として「瓦礫と菓子パン」リストランテ震災篇一で、被災地の食をテーマにした朗読劇をつくり、横浜や相模原での公演の他、県内の学校などでも上演している。また、青森の劇団「渡辺源四郎商店」との合同公演「震災タクシー」では、青森、盛岡、東京、愛知、福島

北芸の会

「新たな気持ちで取り組む事が出来たであろうか？」前年の講評の文末に、「来年は新たな気持ちで取り組むことにしよう…」と認めた記憶している。

はて、さて…。如何に？

新たな気持ちで取り組むことが出来た…と応えたい。

1部の朗読の詩は地元の詩人の作品を…。2部の芝居も地元作家の作品を取りあげることで会員、賛助会員の賛同を得、2人の作家と交渉を重ね、9月中旬に台本作成し、10月初旬から稽古に入る。昨年4月、20年来稽古場だった建物を解体、昨年の稽古は交流センターや公民館を転々として続けて公演に漕ぎ着けたものの、今回は恵まれた。

会員の1人、建築業を営む方のご厚意で、その方の別宅を借用、おトイレ、風呂完備の別宅は、仙台から月に2度3度と足を運んでく



北芸の会

れる演出者の寝泊まりする場所としても好都合で大助かり！
そのせいか（？）稽古にも熱が入り、実が入り、回数に
して20回足らずの稽古ではあったが：実を結んだ。

観客数は120名。去年より20名余多く、アンケートに
応えて下さった方も70名。その大方が1部にも2部にも「良
かった！」「感動した」「愉しかった」「舞台の装置も良かつ
た！」等々の好評。ホッと一安堵である。十年来の親しい
友人の1人曰く。「去年はどうなるかと思っただけど、今年
の舞台を観てホッとした。まだまだ続けられるネッ！」と。
観客の心に届けたい、想いを伝えたい：。常に抱いて
いるその思いがほんの少しでも叶えられたかな？

来年は33年目の「北芸の会」。はてさて、どのような舞
台に：。僅かな人手、会員8名、賛助会員4名、合計12名。
そして毎年足を運んで下さるお客様の胸に心にシーンと沁
み込む舞台を目指して取り組んでいこう。

(田島俊子)

劇団もじょこむ

劇団もじょこむ釜石公演は2月26日、釜石地方森林組合
2F会議室で行われました。会場の木の雰囲気を活かした
舞台は、お客様からも好評を得ました。また、劇中に市内
店舗の商品を使うことで、釜石の演劇としての役割を一つ

苦労したことだろうと思つた。

歌は、ソロの部分で実力を出し切れた人が多い中、自信の
なさが出てしまった人もいたが、全員で歌つた3部のかけ合い
や、最後の2曲の合唱は素晴らしかった。

ダンスは、バスケットの動きを取り入れ、機敏な動きが
表現されていて全体的には良かったが、からだ全体を使い
きれいでない人もみられたことが、少し残念であった。

演技は、一人一人、自分
の役の特徴を表現できてい
たが声量が小さい人もいて
聞き取りにくく、残念な場
面もあった。

全体的には、前半から後
半への時間の経過に伴っ
て、それぞれの役の性格や、
役割、心の変化を意識して
演じていて良かったと思
う。

(山中ひかる)



The・雲人

提示できたのではないで
しょうか。お客様の年代は
10代〜70代までと幅広く、
男女差はありません。釜石
の娯楽のひとつとして演劇
を定着させるためにも、今
後もジャンルにとらわれる
ことなく作品を創っていき
たいと思っています。

(小笠原 景子)



劇団もじょこむ

The・雲人

今回のミュージカルは、中学校の女子バスケットボール
部の夏合宿が舞台。都会の生活になった部員たちは、自然
の中での暮らしに戸惑い、レギュラーをめぐる対立、
コーチとの確執、地元の子供達との交流など、色々なこと
を通してリーダーとは何か、一人一人の役割とは何かを考
え、子供たちが成長していく物語である。

ミュージカルなので、唄やダンスの曲数も多く、練習は

映像

映像フェスティバル

11月3日(木・祝) 午後1時

もりおか町家物語館 浜藤ホール(盛岡市)

芸術祭賞 〓 該当作品なし

優秀賞 〓 「里地(さとち)の生きものたち」武藤 朗(矢巾町)
奨励賞 〓 「記憶のまち」及川和也(茨城県)・

「境内に彩りを―私達の菊づくり―」久保光雄(金ケ崎町)

《講評》 今年度の映像フェスティバルは、11月3日(木・
祝)、もりおか町家物語館の浜藤ホールで開催されました。
今回は応募作品の点数が少なく、昨年度見られたような
アニメーションやショートムービーなどの作品はありません
でした。けれども内容的には、ドキュメンタリー、ミュー
ジックビデオ、東日本大震災をテーマとした実験的な映像
作品等、バラエティーに富んだものでした。

審査の結果、残念ながら芸術祭賞は「該当なし」となり
ましたが、優秀賞の武藤さんの作品は気の遠くなるような
時間をかけ、根気よく撮影して完成させたすばらしいもの
でした。

また、奨励賞の及川さんは、若い感性と新しい技術を感じさせる実験的な意欲作。同じく奨励賞の久保さんは、丁寧な取材を積み重ねたベテランの味がにじみ出るような作品となりました。

映像フェスティバルでは受賞作品と入選作品の上映に加え、今回、芸術祭賞が該当なしだったこともあり、昨年、一昨年の芸術祭賞受賞作品のアニメーション2作品も参考上映されました。

さらに会場に出席の出品者の方にも登壇していただき、製作での苦労話やこだわり等、さまざまお聞きすることができました。

現在では映像機器の進歩で、誰でも手軽に映像を撮れる時代です。けれど、出品者のみなさんの作品を鑑賞しながら感じるのは、やはり大切なのはテーマ設定や構成、編集など基本的な部分なのだということでした。



映像フェスティバル

身近になった映像ですから、少しの工夫と努力で作品化して、来年度のコンクールに是非、チャレンジして欲しいと思います。

岩手の映像文化をみんなで盛り上げませんか？

(映像部門担当 長内 努)

伝統芸能

能楽 謡と仕舞の会

11月6日(日)

午前11時開演

岩手県民会館中ホール

番組

素謡(観世流・盛岡)

シ海老澤 君夫

小西 幹夫

立野 和男

高橋 八郎

(地)中村 儀郎

菊池 昭二

荒川 礼二

新藤 威

仕舞(喜多流・盛岡)

雨月 シ岡田 仁 マ高橋 雄賢

工藤 典子

柄内 不二

(地)高橋 美恵子

佐々木加奈子

上野 喜代子

藤澤 美和子

藤 名牧野 トモ

仕舞(宝生流・宮古)

経政 名山口 陸美

(地)武田 勤

村山 健一

石垣 保一

素謡(宝生流・盛岡)

シ菊池 英雄

館澤 良子

(地)浅沼 京子

館澤フミ子

山田 陽子

多田 義典

佐々木 康勝

八柳 達也

菊池 忠

多田 義典

仕舞(喜多流・盛岡)

老松 キンダーホーム

キンダーホーム

月宮殿 ひまわり組

ひまわり組(年長組30名)

仕舞(宝生流・宮古)

葵上 佐香 美穂子

(地)武田 勤

佐香 秀彦

村山 健一

石垣 保一

仕舞(観世流・盛岡)

松風 寺菊池 幸子

佐々木昌子
土川 律子
(地)古枝 良子
荒川 冴子
谷藤 政子

仕舞 (喜多流・一関)

放下僧 小唄 千葉万美子
(地)伊藤 洋子
小川 みどり
八重樫 結花
佐々木 典子
佐藤 佳子
佐賀 幸子
小嶋 喜久子

素謡 (喜多流・盛岡)

シ下川原 令子
松虫 マ伊藤 直子
米澤 立
(地)栃内 繁子
藤原 洋子

仕舞 (宝生流・宮古)

歌占 寺村山 健一
佐野 剛章
(地)佐香 秀彦
相澤 努
佐藤 宏明

仕舞 (宝生流・宮古)

女郎花 七加藤 美重子
武田 勤
(地)佐香 秀彦
村山 健一
石垣 保一

紅葉狩

連吟 (宝生流・水沢)
石川 雄一
(地)阿部 勝
岩崎 眞平

素謡 (観世流・盛岡)

葛城 シ佐々木昌子 マ伊東 碩子 関 政子
(地)菊池 幸子
古枝 良子
土川 律子
荒川 冴子

仕舞 (宝生流・盛岡)

鵜之段 蜂谷 哲子
松本 敏之
(地)長澤 健

素謡 (宝生流・盛岡)

シ鈴木 勲
阿漕 マ 遠藤 秀夫
岩館 礼子
(地)岡田 紘子
太田奈々子
田中みつ子
佐々木 正明
佐藤 順一
佐野 剛章
佐藤 タヨ
千田 實
館下 壽

仕舞 (宝生流・宮古)

三山 佐香 秀彦
菊池 新司
村山 健一
(地)佐野 剛章
佐藤 哲夫
吉田 清三

仕舞 (観世流・盛岡)

屋島 き 菊池 昭二
野宮 き 金子 琢磨
海老澤 君夫
岡田 仁
(地)古枝 良子
高橋 弘
山坂 昭二

素謡 (観世流・盛岡)

殺生石 シ高橋 八郎
高橋 孝市
マ小西 幹夫
(地)小田島 幸雄
山坂 昭二
石上 一夫
小野 信太郎
金子 琢磨

素謡 (喜多流・一関)

八重樫 結花
(地)中村 玲子
小川みどり
佐々木 典子
佐藤 佳子
佐賀 幸子
千葉 万美子
小嶋 喜久子

仕舞 (喜多流・盛岡)

融 工藤 瞳子
中道 俊之
善財 清
菅原 岩夫
大光 昭

工藤 慎太郎

伊藤 洋子

仕舞 (観世流・盛岡)

班女 名荒川 冴子

佐々木昌子
千葉マスマ
(地)古枝 良子
土川 律子

柏葉 光利
船弁慶 き 土川 律子

菊池 幸子
千葉マスマ
(地)古枝 良子
荒川 冴子
佐々木昌子

素謡 (宝生流・宮古)

シ武田 勤

加藤 美重子

素謡 (喜多流・盛岡)

シ中道 俊之

大石 仁也 工藤 長彦

鉢木 シ石垣 保一 マ村山 健一
(地)佐香 美穂子

佐香 秀彦
山口 睦美

一本松 マ大光 昭 (地)野田 宗義 善財 清
マ連 神田 健幸 藤野 興吉 菅原 岩夫
大櫻 正行 子守林 尚之 柏葉 光利
附祝言

仕舞 (喜多流・盛岡)

江口 高橋 千賀子

本堂 信子
渡辺 新子
(地)山口 寧子
工藤 睦子
鈴木 明美
金澤 禮子

山口 睦美

《講評》 能楽部門「謡と仕舞の会」は11月6日(日)午前11時より岩手県民会館中ホールにて開催された。今年度も出演は三流儀(観世流、宝生流、観世・喜多流)により演じられた。番組は(素謡9番、連吟1番、仕舞17番)計27番(昨年27番)であった。出演者総数は137(昨年126名)、来場者数はおよそ200(昨年と同じ)であった。番組は、観世流の素謡「雨月」(西行が、雨と月とどち

らがよいかで争う風雅な老夫婦の家に投宿した夜、和歌の徳により住吉明神があらわれる。から始まり、仕舞、素謡と進行し、中ほどに恒例となったキンダーホームひまわり組の仕舞「老松」「月宮殿」を子供らしく可愛く熱心に舞う姿はなんと微笑ましく、鑑賞されている方々の感動の笑顔が印象的であった。後半、素謡、仕舞と続き、終わりに喜多流の東日本大震災犠牲者追善創作謡「一本松」(大津波で唯一生き残った高田松原の「一本松」の思いを謡う)の披露があり、番組を終了した。番組全般にわたって各流儀の出演者の曲目に対する演技は、稽古の努力が窺われ、「謡と仕舞」にその魅力が観客を退屈させることなく鑑賞していただいたことが印象に残った。岩手芸術祭は県内で活動する三流が一同に会するまとない機会であり、会員の研鑽によるレベルの高い芸術発表の場は是非とも維持したいものである。



能楽

しかしながら会員の高齢化とともに盛岡以外の支部からは出演を辞退する方も見受けられ、出演者は減少傾向にある。新規会員の確保、次世代への普及活動により能楽愛好者の裾野を広げる視点はどの流儀にも共通の課題と考える。前段で記載した子供たちが貴重な日本の文化遺産である伝統芸能に関心を持ってもらい継承されることを期待したい。番組記載の時刻と実際の進行時刻との「ずれ」により、来場者に迷惑をかけた昨年の反省を活かし、今回は番組どおりの進行が図られた。

(観世流 菊池昭二)

邦楽

邦楽のつどい 11月20日(日) 午後一時開演

岩手県民会館中ホール

〇：タテ

寿二会
嘉声会
長唄 官女

三味線
稀音家 六貞帆
稀音家 六貞帆

賛助出演 糸音会

長唄 松の緑

○稀音家 六田嘉
藤生 千代子
福士 幸雄
中村 純子
藤村 知子
杵屋 寿々福
杵屋 勝由紀寿
杵屋 寿慧
○杵屋 勝はる寿
稀音家 六貞華
玉澤 ヒナ
廣澤 俊子
谷地 もと子
菊池 幸子
鎌田 聡子

常磐津文字会
常磐津 江戸姿恋の飛脚

賛助出演 糸音会
長唄 越後獅子

○姉 齒和子
三味線

○鈴木 結葵
三味線
菊池 歌奈
松本 祐貴子
杵屋 松紀三

○佐藤 礼奈
常磐津 紫緒
常磐津 治衛
浄瑠璃

○杵屋 喜太郎
伊勢 愛子
杵屋 松紀三

寿二会

長唄 富士の雪

○杵屋 喜太郎
唄

○杵屋 唄
杵屋 寿々福
杵屋 勝由紀寿
中村 純子
三味線

寿二会
長唄 外記猿

○福士 幸雄
三味線
稀音家 六貞華
稀音家 六貞鳳
稀音家 六貞寿
渡辺 祐子
稀音家 六貞帆

○杵屋 勝はる寿
杵屋 勝友可
藤村 知子
杵屋 勝菊可

○杵屋 唄
杵屋 勝寿重
藤村 知子
杵屋 寿二
杵屋 勝由紀寿
三味線

○稀音家 六田嘉
唄
廣澤 俊子
玉澤 ヒナ

○杵屋 勝菊可
三味線
菊池 春香

嘉声会
長唄 桃太郎

よくわかる三味線音楽Ⅹ

常磐津文字会

常磐津 後の月酒宴島台角兵衛

杵屋 寿々福
杵屋 勝はる寿
上杵屋 勝友可

嘉声会 福士 幸雄

三味線

常磐津 紫 緒

○常磐津 治 衛

浄瑠璃

○常磐津 洋志衛

常磐津 てる衛

室 岡 提 子

《講評》 第69回岩手芸術祭参加「邦楽のつどい」は、「芸術は希望」人から人へ 今日から明日へ」をテーマにして、11月20日(日)午後1時より岩手県民会館中ホールで開催されました。当日は、午前中は良い天候と温かな陽気に恵まれましたが、午後からは肌寒い雨模様様の天気となっていました。今年度は糸音会(会主は杵屋松紀三師)の賛助出

演をいただきまして、若いお弟子さんが見事な演奏を披露してくださいました。当日は別会場では歌舞伎公演がありましたが、お忙しいなか多くの皆さまが会場に足を運んでくださいました。たくさんの方々が来場いただき演奏を聞いていただきました。当日は華やかな中にも厳かで緊張感と活気のある演奏会となりました。



邦楽

舞台は、まず寿二会・嘉

声会による18名の合同ステージ長唄「官女」で始まりまし。続いて、前述した賛助出演いただいた糸音会による長唄「松の緑」「越後獅子」が披露され、有名な番組でもあり会場の皆様も聴き入り、素晴らしい演奏が披露されました。日頃の練習の成果がよく出ており、私たち自身が大変勉強になりました。演奏会は、その他に寿二会による「富士の雪」「外記猿」、嘉声会による長唄「桃太郎」、そして常磐津文字会による常磐津「江戸姿恋の飛脚」後の月酒

茶道

茶会

10月2日(日)

盛岡市中央公民館

一席 広間

武者小路千家岩手官休会

主 武 田 守 榮

寄 付

掛物 月の絵 景文筆

本 席

床 不徹斎筆 紅蓮白露秋

花入 手付籠

花 ときのもの

香合 しか 不徹斎在判

釜 真形 浄味造 大西清エ門極

風炉 琉球

先 結界

水指 古丹波 銘 簀 不白箱

棚 官休庵好 梅棚

茶器 吉祥草蒔絵 不徹斎在判

茶碗 黒 銘 青馬 愈好斎箱

替 古御本

茶杓 不徹斎造 銘 南山 共筒箱

昇 斎 造
焯 又 造
左 入 造

(文責 岩手邦楽協会 会長 福士 幸雄)

会員一人一人は、本演奏会で学んだことを活かし、来年度の「邦楽のつどい」に向けて、さらにレベルアップした演奏が披露できるように、また多くの皆様方にご来場いただけるよう、さらに精進と研鑽を積んでいきたいと思いを新たにして稽古に励んでいるところでございます。

ながら、盛会のうちに幕を閉じました。

宴島台 角兵衛」をそれぞれ演奏し、いずれの社中もその物語や情景・心情などに迫り、そして内容に引き込まれる素晴らしい演奏を披露いたしました。さらに、今年で9年目になる講話「よくわかる三味線音楽」では、三味線の皮について、昨今は猫や犬の皮が入手困難となりヤギやカンガルなど開発が進んでいること、日本の伝統音楽、文化の継承と様々な課題、そして常磐津節の名人「常磐津林中」のことについてお話いたしました。演奏会は最後まで熱心に耳を傾けてくださる会場の皆様の支えをいただきながら、盛会のうちに幕を閉じました。

蓋置 信楽 有隣斎箱 春 斎 造
 建水 砂張 大丸屋製 茶碗 薩摩焼
 菓子 仙家の秋 唐物 茶托 錫花菱
 器 赤絵 落葉壺 辰砂 巾筒 黄地緑彩花鳥文善理画 安東 吾
 沈 寿 官

二席 別館和室(書院の間)

煎茶道三彩流岩手支部彩茗会

床 松下点茶過客新 主関 緑 蘭
 寄付 清風与平
 床 本席 一碗清茶一炷香 悠 丈 書
 花入 時のもの 唐 葛香山物
 香炉 祥瑞丸紋山水 真 嶋 芳 木
 炉屏 あんず 川 嶋 芳 木
 涼炉 白泥 松の絵 井 上 春 峰
 ボーフラ 白泥 田能村直外
 茶心壺 黄交趾鳳凰図
 茶合 松画賛
 茶合帛紗 家元好
 急須 万古焼

三席 聖風閣

裏千家淡交会岩手南支部

床 佐藤華岳筆 秋草図 主 荒 川 宗 園
 寄付
 床 本席 円能斎筆 好事不如無 淡々 斎 箱
 花 季のもの

花入 唐物写手付籠 鵬雲斎大宗匠箱 竹 朋 斎 造

四席 大会議室

江戸千家岩手不白会

香合 菊竹蒔絵 鵬雲斎大宗匠在判箱 正 玄 造 主 澤 野 宗 桂
 釜 鵬雲斎大宗匠好箱 桐地文筒 興 斎 造 寄付
 風炉 道安 鵬雲斎大宗匠箱 宗 辰 造 掛物 糸瓜の図 柴 田 真 筆
 風炉先 唐松縁 鵬雲斎大宗匠在判箱 吉 兵 衛 造 床 明月清風云々 大徳寺四三〇世大徹老師筆 大亀老師極
 水指 絵志野 鵬雲斎大宗匠箱 光 右 衛 門 造 花 ときのもの
 薄器 淡々斎好 苦屋棗 在判箱 利 斎 造 花入 鎧胴德利花入 上野焼
 茶杓 土岐二三作 銘 老の友 香合 堆黒 ざくろ 唐物 表 完 作
 茶碗 不見斎手造 赤 銘 かりの音 共箱 立札卓 富士釜 十二代 盛 久 造
 替 白菊絵 淡々斎箱 久 宝 造 釜 富士釜 十二代 盛 久 造
 蓋置 竹一双の内 円能斎在判箱 正 玄 造 水指 色絵透入 耳付 乾山写 九代 半七造
 建水 鵬雲斎大宗匠好箱 唐金 单瓢 茶器 月に雁 如心齐写 不白在判 銘白猿 上野釜の口窯 名 心 庵 箱
 御茶 坐忘斎家元好 双鶴の白 上 寒 雉 造 茶碗 銘白猿 上野釜の口窯 名 心 庵 箱
 菓子 百代草 高 千 代 製 替 秋草虫図 阿漕焼 わんこ兄弟 いわて国体協賛
 器 菊絵鉢 仁 阿 弥 造 茶杓 不白作 一角珠徳写 筒 箱 昇 作
 煙盆 杉 寄木 淡々斎在判箱 小 兵 衛 造 蓋置 夜学 前 端 春 斉 作
 火入 藍 和蘭陀

建水 銀六角捻建水 長野烈作
 お茶 池の白 星野園詰
 菓子 ひさご 大丸屋製
 器 白磁緑釉牡丹彫文 井上萬二作

五席 新館和室

表千家同門会岩手県支部

主高橋宗慶

替 替 神奈川焼 即中齋共箱 井上良齋作
 志野焼 銘溪月 而妙齋共箱
 水指 信楽焼細 銘紅葉狩 而妙齋在判共箱 貞光作
 茶器 溜塗雪吹 惺齋共箱 一閑作
 茶碗 城山窯 三井高棟 苞子の絵 即全作

掛物 寄付 寛画賛 即中齋賛 友月交風

山本紅雲画

共箱

茶約 桑 道安写 十右工門作
 建水 竹溜塗 而妙齋共箱 漆 專 堂 作
 蓋置 織部釉千切 惺齋書付共箱

本席

掛物 沢庵和尚筆 霽水縦横 大亀箱書
 花入 ベネチアガラス 銘瑞雲

菓子器 織部饅頭 山善製
 菓子 旦入作 饅頭蒸器 高桑詰
 茶 南部の白 一粒足櫛形 即中齋在判共箱 一閑作
 火入 緑釉播座阿古陀 十三軒作
 莫入 瓢型 兼中齋在判 左近作
 煙管 如心齋好筋 淨益作

而妙齋箱 イタリヤ製

花 野ボタン

香合 桑菊時絵砧 兼中齋箱 星山作

釜 東陽坊 淨味箱 初代寒雄作

風炉 白葉(仁清写むべの絵) 永楽作

結果 金閣の古瓦を用いる 有馬頼底在判

青塗爪紅刷毛目長板 即中齋在判共箱 元齋作

《講評》 平成28年10月2日、第69回岩手芸術祭茶会が、秋晴れの元、華やかに開催されました。奇しくも前日10月1日は、希望郷いわて国体2016の開会式でした。岩手

県全体が心踊る日を迎えている時の茶会、いつもの様に来て下さるだろうか：という不安もございました。そんな中でのスタートでしたが、受付開始30分前には、いつも通り沢山の方がお待ちになっていました。毎回会議の中で、前回の反省を元に、色々と試行錯誤を重ね、担当して下さいのお席主の方々が、茶会の運営をよりやりやすく出来る様に工夫してまいりました。春の芸術祭は盛岡中心ですが、秋は岩手県下から茶道を愛する方々がお見えになります。駐車場も心配でした。しかし、公民館の職員の方々が一生懸命誘導して下さい、大きなトラブルもなくスムーズにいった様です。そして茶会、皆様にお渡しする記念の会記の裏表紙には、文化プログラム事業のマークを入れました。5つの茶席をまわるのは中々大変な事ですが、それぞれのお席主が御自分の思いを込めた貴重な茶会です。その思いを感じつつ、時折公



茶道

民館の庭に目をやりながら忙しそうに茶席をまわっていらっしゃるお客様方は、とても楽しそうで、今日という一日を満喫していらっしゃる様でした。茶会終了後、お席主の先生、お手伝いの社中の皆さん、お疲れの中にも満足感あふれる笑みを浮かべていらっしゃいました。国体のお手伝いとかでいらっしゃれない方もございましたが、スポーツと文化事業を同時にやられました事、沢山の方々に感謝したいと思います。又、一つの会場で五席の茶会ができるのは他にはなかなかないと聞いています。これからも芸術祭茶会を通して日本伝統文化が末長く継承されていきます事を願っております。

(平野宗恵)

華道

華道展

(前期) 10月28日(金)・29日(土)
 (後期) 10月30日(日)・31日(月)

岩手県民会館 第一展示室・第二展示室

前期

青山流 村上千逢 大志田良雅 宮本絹雅 昆 啓雅
 池坊 相田恵草 木内理華 大日向香玉 小原華芳 小林翠雲 小田中草華 水上美風 水野和翠 佐藤好華 佐

藤弘竹 高清水穂月 中島福秋 継枝育華 大山満月 田口富月 煤孫碧花 中村直峰 川村芳泉 細田芳節 高橋瑞穂 山影喜香

櫻花遠州流 畠山尚隆 高橋尚美 田中尚登

小原流 柏原豊洋 金野豊雅 小笠原豊香 加藤祥苑 竹林弘苑 白崎美華 工藤一香 田山淑子 久保風仙 大平秀湖 藤澤豊榮 後藤英花 藤村一花 今野美佳 河東田豊繁 今野慈華 佐藤豊濟 伊藤峰穂 吉田華千 田村八重華 多田彩花 吉田和子

花芸安達流 水野 純 本田梨奈 中村萌乃

梶井宮御流 戸田瑠志 中村素瑠 鍋倉瑠美

古流松藤会 渡邊理孝

松風花道会 堂前鋭水 古館喜水 外柳恵水 佐藤悦水

紺野芳水 畠山信水

青山御流 小原光衛 滝田晃雅 伊山光雅 桂 静雅

本川公雅 小林友雅 佐々木季雅

清泉古流 三浦一美 田口一宗 鮫名一仙

草月流 駒ヶ嶺幸柳 柳沼紫交 若月 棕 山本雪苑

久慈香紀 三ヶ森早百合 佐々木幸子 古澤恵峰 松尾玉

静 八重檜葉香 鑑 久華 田中千佳子 昆 薫泉 齋藤

沙季 赤石澤華澄 齋藤幸絹 鏡 栄汀 村上秋仙

龍生派 瀬川香寿 関口翠華 千葉桂光 及川春峰 畠

山景華 佐藤慧水 岩渕英水 中野鏡明 名須川華峰 片方華穂

後期

青山流 工藤栄交 佐々木香雅 國分彩雅

池坊 小原紫芳 菊谷華光 桑原露華 佐藤春陽 高橋佳光 高橋翠風 田口芳秀 谷藤桂芳 千葉幸園 千田桂花 照井智光 野中泰華 八戸春水 本間愛香 村井藤月 森田朋月 山崎政華 山下恵風 今野聖峰 福地実峰 氏家敬香

櫻花遠州流 井上喜勝 熊谷尚玉 澤田里律

小原流 阿部豊翠 佐藤彩葉 中村鴻洋 大越映青 ス

ティーヴン・カラー 安倍豊之 海老豊洋 阿部一彩 小

原紀香 菅原豊文 戸谷律子 藤原沙織 藤原枝光 田中

芦舟 一井綾華 小野寺清香 島崎修華 小山田光容 佐

藤翠裕 村山練華 鎌田萌春

花芸安達流 吉田由紀子 永野優瞳 菊池水瞳

梶井宮御流 西郷時峰 伊五澤瑠京 菊池葉貞 佐藤瑠花

古流松藤流 相良昌子

松風花道会 渡辺美水 工藤幸水 高橋桜水 鴨反信水

小野寺祥水 工藤大水 遠藤郁水

青山御流 晴山伶雅 渡辺柳雅 守屋和雅 堀井京雅

田沼香雅 袖林啓雅 加藤久美子

清泉古流 高橋一松 大内一優 松本一葉

草月流 及川交舟 晴山英華 玉山友雅 小山奈々佳

猿子滋苑 西山紅順 浅沼麗紅 野村妙紅 加藤紅苑 石

橋律子 千田芳琴 稲葉華代 大平千理 古館紫映 鶴田

翅幸 尾田貞舟 種市交春 吉田奇昭

龍生派 宮 鳳秀 阿部佳織 伊東華水 出町蕉宝 大

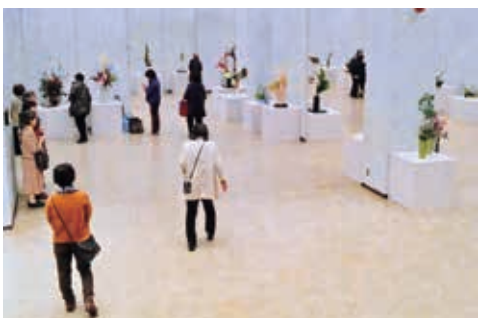
崎蕉英 伊藤良洋 熊谷紀光 大村眞鏡 千葉麗沙 野澤

素光

《講評》 第69回岩手芸術

祭華道展が、『芸術は希望』人から人へ 今日から明日へ』をテーマに開催されました。

前期は10月28日(金)・29日(土)、後期は10月30日(日)・31日(月)の日程で岩手県民会館第1、第2展示室にて当会所属の12流派の会員前後期併せて202点の個人作を展示致しました。入場者数



華道

は、1893名でした。

年々充実した作品が多く、いけばなの楽しさを十分に伝える事が出来たと思います。本年は学校でいけばなを学んでいる学生の出演者が例年より多く、『芸術は希望』のテーマ通りの華道展になったのではないかと思います。

入場者には学生のグループや、子供を連れて来場される方が多く見受けられ、日本の伝統文化が次世代につたえられつつある事が確信できました。これからも会員一同技術研鑽に励み、より良い作品を発表してまいりたいと思っております。

(小原宏華記)

吟詠剣詩舞道

吟詠剣詩舞道祭 10月4日(日) 午前10時開演

岩手県民会館大ホール

第1部(幼少年・青年)

1 峨眉山月の歌 李白 陸中岳風会 赤菽学童クラブ

秋立つ日よめる 藤原敏行

2 雨ニモマケズ 宮沢賢治 陸中岳風会

一関市立油島小学校

45	峨眉山月の歌	李白	県総連	曾我久風	佐々木詠風
44	「恋衣」より海恋し	与謝野晶子	陸中岳風会		
43	山中の月	真 山民	県総連		
42	春望	杜甫	岩手岳風会		
41	山中の月	真 山民	県総連		
40	山中の月	真 山民	陸中岳風会		
39	金陵の鳳凰台に登る	李白	朝翠流源鵬吟詠会		
38	富士山	柴野栗山	県総連		
37	山中の月	真 山民	岩手岳風会		
36	祝賀の詩	河野天籟	岩手朝翠会		
35	山中の月	真 山民	陸中岳風会		
34	潮頭	徳富蘇峰	県総連		
33	峨眉山月の歌	李白	岩手岳風会		
32	天門山を望む	李白	県総連		
31	北上川夜曲	波口龍童	陸中岳風会		
30	両英雄	徳富蘇峰	岩手朝翠会		
29	四海波	本宮三香	朝翠流源鵬吟詠会		
28	訣別	梅田雲浜	県総連	細越晴岳	
第4部(合吟)					
第5部(連吟)					
15	富士山を詠ず	柴野栗山	陸中岳風会		
16	川中島	頼 山陽	県総連		
17	吟舞 岩手富士	渡辺吟神	岩手岳風会		
18	無欲	良寛	吟舞道翠紫流岩手支部		
19	平泉懐古	大槻磐溪	県総連		
20	桜花の詞	逸名	吟舞菊水流菊妙会		
21	大楠公	徳川斉昭	岩手岳風会		
22	川中島	頼 山陽	陸中岳風会		
23	「舞」結婚祝いの詩(テープ)		吟舞道翠紫流稀翠会		
24	「舞」武田武士(テープ)		吟舞菊水流菊妙会		
第3部(寿の部)					
25	金州城下の作	乃木希典	県総連	及川枝岳	
26	富士山	石川丈山	陸中岳風会	小笠原岳勇	
27	心に太陽を持って	山本有三	岩手岳風会	小野寺岳笙	
28	秋浦の歌	李白	陸中岳風会	佐藤好風	
29	事に感ず	于瀆	県総連	千葉紅岳	
30	くれなゐの	正岡子規	県総連	小野妙岳	
31	親思ふ	吉田松陰	岩手岳風会	千葉正岳	
32	子を思う	一茶	県総連	金子水岳	
33	神洲	乃木希典	県総連	村上王岳	
34	海南行	細川頼之	岩手朝翠会	千葉寛鵬	
35	寒梅	新島 襄	県総連	太田櫻岳	
36	獄中の作	橋本左内	朝翠流源鵬吟詠会	谷村紀鵬	
37	中庸	元田東野	県総連	千葉江岳	
38	金州城下の作	乃木希典	岩手岳風会	岩淵岳洲	
第7部(実行委員独吟)					
39	青春	サミエル・ウルマン	県総連副理事長		
40	時に憩う	良寛	詩吟朗詠錦城会盛岡支部長		
41	春夜洛城に笛を聞く	李白	陸中岳風会副会長	小野寺岳蓉	
42	座右之銘	崔 子玉	県総連副理事長	高橋岳遥	
43	座右之銘	(俳句)芭蕉			
44	壇の浦を過ぐ	村上仏山	朝翠流源鵬吟詠会会長		
45	鹿柴	王維	岩手朝翠会会長	伊藤語鵬	

- 63 幸せと吟詠 津田岳養 岩手岳風会会長 津田岳養
 64 席上次韻して楓生に贈る 芦 東山 陸中岳風会会長 小山岳耕
 65 制に応じて三山を賦す 絶海中津 県総連理事長 立身岳元

講評 第23回岩手県吟詠剣詩舞道祭は、平成28年10月9日(日)、岩手県民会館大ホールにて入場者数915人(会員770人・幼少年50人・一般95人)で盛大に行われた。午前10時の開会式は、国旗・芸術祭旗への修礼で始まり、会場全員の国家斉唱と開会の辞(小山岳耕副実行委員長)、主催者挨拶(立身岳元実行委員長)に引き続き、参加者全員により「朗詠」(岩手吟詠会 武田隆岳 先導)の大合吟がホールに響き、続いて御製謹詠(立身岳元実行委員長)が行われ、吟詠発表に入った。

第2部の幼少年の部では、陸中岳風会赤菘学童クラブの「峨眉山月の歌―李白作」「秋立つ日よめる―藤原敏行作」を先頭に、油島小学校児童の「雨ニモマケズ―宮沢賢治作」「ききもせず―西行法師作」の合吟、更に独吟5題が続き将来吟詠界を担うであろう子供達の純真無垢な声が会場に響きわたった。

第2部の一般吟詠・詩舞では、吟詠4団体と詩舞3団体

県支部へ寄附させて頂いた。

(運営役員 中野豪岳)



吟詠剣舞道

による共演15題とテープによる剣詩舞の2題で会場の話題をさらった。

第3部の寿の部では、各吟詠3団体より90歳を超えた会員が矍鑠とした声で吟じられた。約30分の休憩(昼食)後、第4部では、吟詠5団体それぞれを代表しての合吟が披露された。

第5部では、連吟と称される、一つの詩文を複数人で分けて吟ずる形式が披露された。

第6部では、それぞれの団体より是非この人という方を推薦、吟を披露して頂いた。

第7部では、今回の実行委員の方々の独吟が披露された。そして、閉会式では、吟詠剣詩舞道祭副実行委員長の伊藤語鵬先生より閉会の辞、同じく副実行委員長菅原水成先生の万歳三唱で台風10号被災の更なる復興と県民全ての発展とご健勝を願う来年の再会を誓い合った。

振り返って、詩舞道祭の進行形式がパターン化しつつあるので時代に沿って一考を要する、一方で会員外の一般の見学者が最近多くなっている事は喜ばしいと感ずる。とともに若人への普及が急務の課題である。

また、入り口に設けさせていただいた、台風10号による岩手県への義援金箱に多数の方のご賛同を頂き、計104,173円を即岩手日報社を通し日本赤十字社岩手

音楽

合唱

合唱祭

12月4日(日)

12時半開演

岩手県民会館大ホール

プログラム

オープニングの合唱(出演者全員)

岩手県民の歌

指揮 太田代政男
ピアノ 佐藤 文子

曲 田原 耕二
中田 喜直

1 二日会(盛岡市・男声8名)

指揮 宮野 哲美
ピアノ 稲生 創

「啄木短歌集」から
こずかたの
やはらかに
曲 石川 啄木
加藤 學

男声合唱組曲「追憶の窓」から
III 雨後

詞 三好 達治
曲 多田 武彦

2 岩手女子高等学校音楽部(盛岡市・女声11名)

指揮 田村久美子
編曲 信長 貴富

無伴奏女声合唱のための「7つの子ども歌」から
一番はじめは
江戸の子守歌
ずいずいずつころばし
ていんさぐぬ花

3 コールTonan(盛岡市・女声25名)

指揮 山田 靖了
ピアノ 一戸 陽子
文部省唱歌
編曲 萩原 英彦

冬の夜

女声合唱組曲「風の吐息」から

詞 橋爪 文
曲 なかにしあかね

4 合唱団Believe・「トラスすずらん」

(花巻市・滝沢市・混声32名)

指揮 太田代政男
ピアノ 池田 好典
詞 小山 薫堂
曲 久石 譲

Stand Alone
編曲 牧戸 太郎

アメイジング・グレイス

黒人霊歌

訳詞 山ノ木竹志
編曲 池辺晋一郎

5 盛岡市立厨川中学校(盛岡市・女声7名)

世界がひとつになるまで
ピアノ 北川加奈子
詞 松井 五郎
曲 馬飼野康二
編曲 宮澤 裕

いつか王子様が
詞 「モレ」
曲 マチャール

6 女声合唱団ノールパレット(盛岡市・女声23名)

指揮 伊藤 哲也
ピアノ 高橋 尚子

川崎洋の詩による五つの女声合唱曲「やさしい魚」から
鳥が
やさしい魚
詞 川崎 洋
曲 新実 徳英

7 盛岡中央高等学校合唱部(盛岡市・男声4名)

指揮 永井 淳子
ピアノ 木村 杏樹
アメリカ民謡

Amazing Grace

8 岩手県立大学混声合唱団(盛岡市・混声29名)

無伴奏混声合唱のための「カウボーイ・ポップ」から
1 カウボーイ・ポップ
5 ヒスイ
指揮 高橋 信子
詞 岡村 孝子
曲 富澤 裕

9 男声合唱団響流はなまき(花巻市・男声16名)

編曲 富澤 裕
詞 岡村 孝子
曲 富澤 裕

夢をあきらめないで
編曲 富澤 裕
詞 岡村 孝子
曲 富澤 裕

10 混声合唱団アミューズ(奥州市・混声21名)

編曲 高野 司
詞 高野 司
ピアノ 伊藤ゆりか
詞・曲 さだまさし

栄光の架け橋

詞・曲 北川 悠仁
編曲 高野 司

On suuri sun rantas artius

フィンランド民謡
曲 マッセー・ユョナッキ

11 都南混声合唱団(盛岡市・混声50名)

指揮 大橋文四郎
ピアノ 藤原 博子
詞・曲 小椋 佳
編曲 加藤 學
詞・曲 中島みゆき
編曲 加藤 學

14 アンサンブルガリーナ(宮古市・女声11名)

指揮 阿部 亮子
ピアノ 伊藤美也子
LA PASTORELLA SILEVA PER TEMPO 作者不詳
LA VIOLETTA 曲 Autore Ignoto
糸 詞・曲 中島みゆき
編曲 今村 康

すべての山に登れ

詞 Oscar Hammerstein
曲 Richard Rodgers
編曲 北野 實

15 女声合唱団 花野(花巻市・女声26名)

指揮 松田 順子
ピアノ 伊藤 礼恵
今日 詞 工藤 直子
曲 高嶋みどり
Cantate Domino in Bb 詩編96
曲 松下 耕

12 盛岡市立仙北中学校合唱部(盛岡市・女声12名)

女声合唱のための三つの聖母マリア賛歌
指揮・ピアノ 岡本 礼

Ave Maria

曲 鈴木 憲夫
曲 Claudio Monteverdi
指揮 藤原 博子
編曲 Felix Mendelssohn

16 男声合唱団ノールM(盛岡市・男声20名)

指揮 太田代政男
ピアノ 稲生 創
遙かなるロシアの大地〜ロシア音楽メドレー〜
編曲 青木 雅也

13 うたごえ(盛岡市・混声9名)

混声合唱のためのうたごえIIから
詞 井沢 満
曲 武満 徹
島へ

17 女声合唱団しらつめ(盛岡市・女声19名)

編曲 青木 雅也

指揮 小濱 和子
アポリネールの詩による四つの無伴奏小品集「白鳥」から
露宮のともしび
贈物 訳詞 堀口 大學
曲 高嶋みどり

21 矢巾町立矢巾北中学校特設合唱部(矢巾町・同声32名)

指揮・ピアノ 山口浩子
365日の紙飛行機
詞 秋本 康
曲 角野 寿和・
青葉 紘季

18 盛岡コミット混声合唱団(盛岡市・混声23名)

指揮 雫石 環
ピアノ 櫻野 杏里
混声合唱組曲「夕映えの中で」から
詞 大橋 春夫
曲 小栗 克裕
混声合唱のピアノのための「新しい歌」から
詞 谷川俊太郎
きみ歌えよ 曲 信長 貴富

22 男声合唱団松園シルバードックス(盛岡市・男声18名)

指揮 滝沢 三郎
O bone Jesu 曲 G.P.da Palestrina
北上夜曲 詞 菊池 規
曲 安藤 睦夫
編曲 滝沢 三郎

19 矢巾町立不動小学校4年生(矢巾町・同声28名)

指揮 西前 弘幸
ピアノ 澤口 聡子
詞・曲 山崎 朋子

20 矢巾町立不動小学校4年生・矢巾北中学校特設合唱部合同

指揮 芳賀 郁夫
ピアノ 澤口 聡子
詞・曲 杉本 竜一

23 混声合唱団北声会(盛岡市・混声22名)

指揮 山田 靖了
ピアノ 佐々木千夏

絆

Wish〜夢を信じて

ありがとう

365日の紙飛行機

詞・曲 水野 良樹
 編曲 小林真人&ノリ
 詞 秋元 康
 曲 角野 寿和・
 青葉 絃季
 編曲 野田 学

24 Auranova (盛岡市・混声34名)

混声合唱曲集「旅のかなたに」から

指揮 伊藤 哲也
 ピアノ 名須川明子

混声合唱組曲「方舟」から

詞 大岡 信
 曲 木下 牧子

方舟

フィナーレの合唱 (出演者全員)

大地讃頌

指揮 伊藤 哲也
 ピアノ 中村 杏里
 詞 大木 惇夫
 曲 佐藤 眞

岩手県民の歌 (会場のみなさまとともに)

合唱



この岩手県全体のレベルアップは、全日本合唱コンクールでの東北支部大会・全国大会での活躍や、合唱小アンサンブルコンテストで培われてきたアンサンブルする力量の向上が直接的または間接的に影響しているのではないかと感じられた。

フィナーレでは「大地讃頌」と「岩手県民の歌」が高らかに歌われ、感動的に合唱祭が締めくくられた。

その後の合評会でも幅広い年代の団体がそれぞれの特色を生かした合唱を披露していただいたことへの感謝に満ち溢れたなごやかな会となった。

(岩手県立一関第一高等学校教諭 横山 泉)

《講評》 12月4日(日)、第69回岩手芸術祭「合唱祭」が岩手県民会館大ホールで開催され、小学校、中学校、小中合同、高校、大学、一般の合唱団23団体、約500名の皆さんがそれぞれの合唱団の特色を生かした選曲で日ごろの練習の成果を披露された。

今年には岩手国体と全国障害者スポーツ大会が開催されたこともあり、オープニングは出席者全員で「岩手県民の歌」が歌われた。ア・カペラでしつとりと歌われた後、ピアノ伴奏が入って澁刺と歌う演出はとても効果的に感じられた。続いて、小学校1団体、中学校2団体、小学校と中学校合同1団体、高校2団体、大学1団体、一般16団体の歌声がホールに響きわたった。

全体的に伸びやかで柔らかい発声で合唱を楽しんでいる様子が伝わる演奏だったと思われる。人数が少なくても堂々と歌っていた合唱団や、人数が多くても繊細なハーモニーの変化を柔らかく透明な発声で聴かせてくれる合唱団、男声より女声の人数が多いのに少ない男声がしっかり歌っていてパートバランスがよく取れている合唱団など、岩手の合唱のレベルが著しく向上していることを実感した。また、今回は小学校以上の全校種と一般の合唱団が一同に会しての合唱祭となったことは大変意義深いことと思われた。

声楽

声楽部門演奏会

11月5日(土) 午後1時半開演
 岩手県民会館中ホール

1 Gabriel Faure (1845-1924) ガブリエル・フォーレ

Pf 斎藤久実子
 ・ Après un rêve 夢のあと Op.71 (ベニシメズ詩) 門脇 次郎
 ・ Au bord de l'eau 河のほとり Op.81 (ブリュナム詩) 荻原美智子
 ・ Les Roses d'Ispahan ヴェルダン薔薇 Op.394 (リール詩) 花下 美起
 ・ Noël 降誕祭 Op.43-1 (ヴェルテ詩) 丸岡千奈美
 Ludwig van Beethoven (1770-1827) ルー
 ヴィーヴ・ファン・ベートーヴェン
 Pf 内堀 朋子

Die Ehre Gottes aus der Natur 神のみこゝ Op.48-4 小坂 博
 ・ Marnotte マルキッタ Op.52-7 (ゲーテ詩) 駒木 恵
 ・ Wonne der Weimut 悲しむ喜び Op.831 (ゲーテ詩) 新田 順子
 ・ Mit einem gemalten Band 編みられたリボンに添え布 Op.833 (ゲーテ詩) 奥崎由樹子
 ・ Der Kuss くちづけ Op.128 (ヴァイセ詩) 昆野 聡朗
 ・ Ich liebe dich 汝れを愛す Op.128 (ロッセー詩) 松山 裕子

重唱

- ・ Pastoral パストラル (サン・サーンズ作曲) 丸岡千奈美&池野 桂子
- ・ ホフマンの舟歌 (オッフェンバック作曲) 奥崎由樹子&阿部 佳代

2 高校生招待演奏

- 岩手県立不来方高等学校3年 阿部 泰洋
- O del mio amato ben 私の愛する人の ドナウディ作曲 Pf小松 桃
- 岩手県立不来方高等学校3年 竹内 菜緒
- Pf小松 桃
- オペラ「フィガロの結婚」より モーツァルト作曲
- Voi che sapete 恋とはどんなものかしら?

公募出演者による演奏

- ◆森川美希Sop. Pf桂 史子
- ・ Luoghi sereni e cari 明るく 懐かしい地よ ドナウディ作曲
- ・ 小さな空 武満 徹 作曲 エブラウエル編曲
- ◆尾崎夏生Sop. Pf塚田 菜月
- ・ 鷗 三好達治 作詞 木下牧子 作曲
- ・ 夢みたものは… 立原道造 作詞 木下牧子 作曲
- ◆笹原美香 Pf岩下 周二
- ・ Tu lo sai あなたは知っている トレリリ 作曲
- ・ 落葉松 野上 彰 作詞 小林秀雄 作曲

3 日本歌曲をたどって その8

- 木下牧子 抒情小曲集 Pf桜野 杏里
- ・ うぐいす 武鹿悦子詩 花下 美起
- ・ ほんとにきれい ロセッティ詩/吉田映子訳 花下 美起
- ・ ねこぜんまい 武鹿悦子詩 駒木美和子
- ・ 夕顔 金子みすゞ詩 門脇 次郎
- ・ すぐしい日 岸田衿子詩 山崎 尚子
- ・ かぜとかざぐるま 岸田衿子詩 松山 裕子
- ・ つらら まど・みちお詩 駒木 恵
- 信時 潔 Pf小笠原宜子
- 小倉百人一首より 池野 桂子
- ・ 月見れば 大江千里/歌
- ・ 久方の 紀 友則/歌
- ・ 花の色は 小野小町/歌 阿部 佳代
- 中国名詩五首より
- ・ 偶成 朱熹
- ・ 春望 杜甫 小坂 博&山口 剛
- 重唱 櫻花の歌より
- ・ いにしへの 伊勢大輔

《講評》 第69回岩手芸術祭声楽部門演奏会は、公募による出演者3名と特別出演の高校生2名、声楽研究会会員16

名の歌唱およびその伴奏者7名の出演を得て、3部構成で行われた。聴衆は昨年を上回り、300名を超えた。

第1部では、昨年に引き続きフランスの名作曲家フォーレの曲4曲と、ドイツの作曲家ベートーベンの歌曲6曲。その他の作曲者の重唱曲を披露した。この日のため会員同士で勉強会を重ね、互いに批評し合いながらレベルを高めあってきた。本番でその成果がはつきりと現れ、良いスタートがされた。

第2部では、高校生2名の招待演奏と公募による一般3名の演奏があった。高校生のふたりは、過日第70回全日本学生音楽コンクール全国大会で1位、入選となっただけに若々しく張りのある見事な演奏ぶりです。聴衆を魅了した。一般の3名の方々は得意の曲を披露した。それぞれの方々の演奏は個性がはつきり表れ、みな魅力的で、聴衆から盛んな拍手をいただいた。



声楽

第3部は日本歌曲をたどって(その8)として、現代日本を代表する作曲家、木下牧子の曲を7曲、日本の作曲家の草分けといわれる信時潔の作曲6曲が演奏された。日本歌曲は親しみのある金子みすゞ、まど・みちお、岸田衿子等の詩と、小倉百人一首や中国の名詩に曲をつけた作品で、歌い手は10名。歌い手全員が歌詞の内容を大切にすることを特に意識してきただけあって、聴衆の皆さんからメロディも詩(詞)もとても良くて楽しく聴けたと大好評だった。今後、岩手の声楽レベルを更に上げるため、会員同士の勉強会を充実させ、更に、声楽を目指す若い人たちの養成にも積極的にあたっていきたい。

(門脇次郎)

弦楽

ソロと室内楽の調べ

10月2日(日) 午後2時開演

岩手県民会館中ホール

第1部 ヴァイオリン独奏

ヴァイオリン協奏曲第7番ト長調第一章アレグロ:ペリオ
 ピアノ 三神 樹美
 シヤコンヌ.....ヴィタリー

川目 奨平
伊藤 玲子
サラサート
ピアノ 亮輔

ヴァイオリン協奏曲第一番二長調第一楽章アレグロマエストロ
ピアノ 林 秀

バガニーニ
菊地彩江子
ピアノ 林 秀

スペイン交響曲二短調Op.21第一楽章アレグロ ノン トロツポ
井原 梢
ピアノ 鈴木 恵

ラロ
井原 梢
ピアノ 鈴木 恵

第2部 弦楽合奏

合奏協奏曲Op.6-12二長調ヘンデル

第一楽章 ラルゴ

第二楽章 アレグロ

第三楽章 ラルゲット エ ピアノ

第四楽章 ラルゴ

第五楽章 アレグロ

ノロ Vn 1st 米倉久美 Hrnd 畠山亜希子 Vc 埴仲比

古

弦楽オーケストラのためのシンフォニア第一番二長調
.....メンデルスゾーン

第一楽章 アレグロ

第二楽章 アンダンテ

第三楽章 アレグロ ヴィヴァーチェ

Cond 牛渡 克之

Vn 亀谷由美子 菊池 昭子 小林 亮子

馬場 雅美 米倉 久美

渡辺めぐみ (大森 響生(大) 丸山 周(高))

Va 片桐 薫 熊谷 啓幸 藤澤 英子

Vc 石原 博史 加藤 眸 埴 伸比古

Cb 小林 照雄

Cemb 長谷川恭一

《講評》 今年の「ソロと室内楽の調べ」は、第1部では小、中、高校生5名によるヴァイオリン独奏、第2部は会員、学生、音楽愛好家による弦楽合奏だった。

第1部は、盛岡市立向中野小学校6年の太田夢梨がベリオ作曲、ヴァイオリン協奏曲第7番ト長調、第一楽章を演奏した。続いて盛岡市立本宮小学校6年の川日奨平がヴィタリー作曲、シヤコンヌを演奏した。続いて盛岡市立大慈

寺小学校6年の服部亮輔がサラサート作曲、チゴイネルワイゼンを演奏した。中学校からは岩手大学教育学部附属中学校3年の菊地彩江子がバガニーニ作曲、ヴァイオリン協奏曲第一番二長調第一楽章を演奏した。高校生では、白百合学園中学校3年の井原梢がラロ作曲、スペイン交響曲二短調第一楽章を演奏した。耳慣れている名曲が揃い、若いフレッシュな演奏は大いに聴衆を魅了した。



弦楽

第2部はヘンデル作曲の合奏協奏曲二長調、メンデルスゾーン作曲弦楽オーケストラのためのシンフォニア第一番二長調の2曲を弦楽研究会会員、高校生、大学生、県内弦楽器愛好家17名で演奏した。今年度は指揮者に岩手大学教育学部准教授の牛渡克之氏を迎え、とても音楽的で美しいハーモニーを奏でることが出来た。

小、中、高校生による演奏もあり、若手のこれからの成

長や岩手の弦楽界のますますの発展が大いに期待できる演奏会であった。
(田口 博子)

三曲

三曲演奏会

10月16日(日) 午後1時半開演

岩手県民会館大ホール

1 山田流船越喜実乃社中

独楽とまり

石川潭月 作詞

箏本手

船越喜実乃

畑中 央子 福士 史恵 作曲

箏替手

熊谷佐代規

菊地佐代樹

三絃

栗津佐紀枝 藤沼佐代邦

2 県南支部 生田流後藤延子社中・都山流

桜変容

柳井美加奈 作曲

I 箏

高野 清恵

吉田 峯子 菊地みゆき

II 箏

石川 美花

高橋 明里 榎森 愛久

十七絃

後藤 延子

岩池 清子 菅野 智

尺八

岩渕 植子

伊藤麻理子 石川 千恵

鳥海 院山

那須かおる

六串 観山 梅原 新吉

3 生田流菊池玉悦松社中・都山流

さすらいのセクステット

坂本 勉 作曲
江戸信吾 編曲
I 箏 菊池玉悦松 藤原玉悦美 戸塚玉悦淑茂
II 箏 古山玉悦恵 平野玉悦光 川村 佳子
十七絃 武蔵 南美
木村玉悦枝
尺八 遠山 天山

4 琴古流童門会
八橋検校 作曲
伝

5 琴古流竹友社
尺八本手 吉田 斗童 安達 嘉男
尺八替手 鈴木 星童
下野虚霊 作詞・作曲 不詳

6 生田流細田雅邦社中・都山流
尺八 高橋 竹朋 佐藤 竹園 小野寺扇輔
佐藤 竹玲 国久 朋縹
壽萬才 唯是震一 作曲
I 箏 細田 雅邦
II 箏 田村 雅蕉 齊藤都美寿 和田 郷子

9 生田流佐藤叡子社中・都山流
尺八 戸館 敬子 内村 朋
尺八 高橋 法聖
I 箏 遠田 敏子 畠山知恵子
II 箏 阿部 菊子 片岡 明美
十七絃 吉田 コウ
尺八 遠山 天山

10 都山流佐藤韻社・生田流細田雅邦社中
秋風辞 喜志邦三 作詞
尺八 伊藤 衡山 及川 式山 立野 呈山
菊池 捷山 國分 憬山 遠山 天山
村井 堆山
加藤 雅道 佐藤 雅陵 田村 雅蕉
筑後 雅仁 佐々木雅正 佐々木雅浄
細田 雅邦 小瀬川雅恵

11 琴古流 竹心会
尺八本手 石川 戡 佐藤 政孝 中村 嘉国
渡瀬 典子
八橋検校 作曲
山川直春 替手手付

尺八 遠山 天山
7 都山流岩手県支部
本曲 紅葉
尺八I部 千葉 大山 及川 政山 伊藤 衡山
千田 聡山 立野 呈山 遠山 天山
照井 我山 佐藤 秋山 工藤 盛山
六串 観山 犬亦 星海 伊藤 大楽
細川剣丈山 地紙 鶯山 及川 式山
菊池 穂山 菊池 捷山 國分 憬山
丑館 統山 村井 堆山 高橋 遼山
小野 典山 小野寺鸞峰

8 生田流岩手宮城会・琴古流
飛鳥の夢 作詞 不詳
I 箏 松坂 尚子 熊谷 由恵 宮城道雄 作曲
藤原 珠久 関川 和子 高橋 宜子
青木 榎子 小原 京子 横山 彩子
大山 幸子
坂本 知子 佐々木正子 岩渕 律子
東海林みや 高橋 秋美 坂本シゲ子
大清水健治 川内 容子 小笠原美知子
及川実沙子 小野ケイ子

尺八替手 高橋 法聖 鈴木 萬平 白石 文子
熊谷みき子

9 生田流佐藤叡子社中・都山流
いつかどこかで 佐藤義久 作曲

《講評》 第69回岩手芸術祭公演は、岩手三曲協会137
回定期演奏会として、岩手県民会館大ホールで10月16日に
延べ127人の出演で11曲を演奏した。

今回の演奏曲目の大きな特長は、古典曲が1曲のみで、昭和に作曲されたものが5曲、平成に作曲されたものが3曲、古典をベースに昭和の時代に手を加えられた曲が2曲と伝統の古典曲が極端に少ないプログラム編成になった。しかし、伝統の古典曲が少なく物足りなさを感じながらも、伝統や形式にとらわれない楽器の特色を生かした自由に変更に富んだ曲を鑑賞することが出来、充実した内容の演奏会であった。

「独楽とまり」は弾き語り曲で箏と三絃の掛け合いを巧みに



三曲

利用し物語を表現し楽しく聴くことが出来た。平成に作曲された「桜変容」と「いつかどこかで」は、おなじみのメロディーや心地よいメロディーに魅了された。

また、「さすらいセクステット」は色々な技巧をたくみに使いながら幅広い表現で特に尺八の音が印象的だった。「飛鳥の夢」は県内の宮城会の合同演奏で、24名の糸乱れぬ演奏は相当の練習の成果であり感動的な演奏であった。「秋風の辞」は箏、尺八、三絃いわゆる三曲で落ち着いた秋の情景を演じた。「壽万歳」は4つの楽器の重層的な響きを楽しむことが出来た。「乱」と「六段二重奏」は共に1600年代に活躍した八橋検校の作曲した古典曲に手を加えた曲で、特に「六段二重奏」は「六段」の原曲に変化と幅を持たせた二重奏形式の曲で、新たな感覚で古典曲を聴く事が出来た。また「下野虚霊」は琴古流古典本曲で尺八曲の原点である江戸時代からの虚無僧曲であり、それに対し「紅葉」は昭和の初期に洋楽の手法を取り入れて作曲された二部合奏曲で、同じ尺八曲でも時の流れを感じる事が出来た。

各曲とも充分の練習の成果があり、すばらしい演奏会であったが、一般の方々は日常あまり三曲の演奏を聴く機会が無いので、一人でも多くの人たちに聞いてもらう日頃の努力の必要性を演奏会のたび

にいつも感じる反省点である。

(伊藤衛山)

吹奏楽

吹奏楽演奏会

11月23日(水・祝) 午後2時開演
盛岡市民文化ホール大ホール

【第48回定期演奏会 もりすいコンサート】

“Introduction and Fiesta for Japanese Percussion and Wind Orchestra”

「序奏と祭り」～和太鼓とウインドオーケストラのために～

建部 知弘 作曲

“Rhapsody for Trombone and Wind Ensemble”

ラプソディ フォー トロンボーン Gordon Langford 作曲

“Les trios notes du Japan”

三つのジャポニズム

I 鶴が舞う II 雪の川 III 祭り 真島 敏夫 作曲

「黄昏通りの道化師達」～夕日に輝く色彩のいたずら～

私のお気に入り My Favorite Things

追憶のテーマ、Theme of the Way We Were

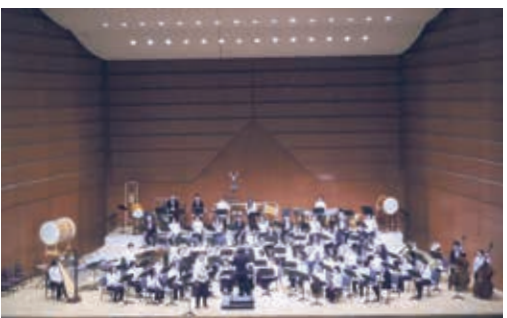
君微笑めば、When You're Smiling

「アメリカン・グラフィティIX」～アカデミー、グラミー賞受賞曲メドレー～

《講評》 今回の盛岡吹奏楽団の「第48回定期演奏会」は、ゲストに東京都交響楽団の首席トロンボーン奏者の小田桐寛之さんにソリストとしておいでいただきました。

プログラムもトロンボーンを中心とした内容としてクラシックからポピュラーな曲までを揃えて演奏いたしました。今回は岩手国体の開催もあり、春先、秋口ともに学校行事が例年と異なり演奏会の前後に重なり、集客上、なかなか大変な日程ではありましたが、何とか800名を超すお客様をお迎えすることができました。

さて、今回のプログラムは、第一部に建部音楽監督の作品として和楽器を中心とした曲から始まり、小田桐さんによる「ラプソディ フォー トロンボーン」のソロ曲、そして岩井先生と



吹奏楽

ともに吹奏楽のポップスの曲を作り続けた真島敏夫さんの「三つのジャポニズム」を演奏いたしました。

真島先生も昨年惜しまれつつお亡くなりになりました。

2部構成の第二部は、ポップスを中心にトロンボーンを正面に出しながら表現できたと思います。

盛岡吹奏楽団はあと2年で創立50年。定期演奏会も50回を迎えます。

次回定期演奏会は半世紀を迎えるプレコンサートになりますので、これまで以上に精進しながら、団員一同、頑張っていきたいと思えます。

(盛岡吹奏楽団団長 安倍洋)

ピアノ ピアノ演奏会 10月15日(土)

ジュニアの部 午後3時開演

一般の部 午後5時開演

岩手県民会館中ホール

ジュニアの部

1 春 イ長調 W.F.バツハ

「25の練習曲」より ブルグミュラー

ステイリアンヌ ト長調Op.100-14

- 2 蝶々 ゲール 内藤 雪乃
遠藤 空琉
- 3 「お母さん、聞いて」の主題による12の変奏曲
ハ長調K.265 モーツァルト 牛崎 舞
- 4 「四季」より 1月 炉端で イ長調 Op.37a
チャイコフスキー 小林 鈴菜
- 5 ソナタ 第8番 ハ短調Op.13「悲愴」第1楽章
ベートーヴェン 丹代 有紗
- 6 ソナタ 第11番 イ長調K.331
第3楽章「トルコ行進曲」 モーツァルト
「四季」より 4月 松雪草 変ロ長調Op.37a
チャイコフスキー 中村 菜々花
- 7 即興曲 第2番 変ホ長調Op.90-2 シューベルト 菅原 由唯
- 8 ソナタ 第8番 ハ短調Op.13「悲愴」第1楽章
ベートーヴェン 有原惇乃介

- 9 ソナタ ホ長調K.135 スカルラッチェ
「映像」第2集より 金色の魚 ドビュッシー 千葉 流楓
- 一般の部(審査制)
- 1 インヴェンション No.107.136.123.15 J.S.バッハ 片倉 文子
- 2 ソナタ 第17番 ニ短調Op.31-2 ベートーヴェン 桂 史子
- 3 ソナタ 第1番 嬰ハ短調Op.11 シューマン 佐藤 陽十
- 4 バラード 第1番 ト短調Op.23 ショパン 勝文子玲子
- 5 ソナタ 第2番嬰ト短調Op.19「幻想ソナタ」
第1楽章 スクリャーピン 佐々木絵理
- 6 エチュード 第4番嬰ハ短調Op.104 ショパン 船歌 嬰ハ長調Op.60 ショパン 佐藤 南美
- 第8回右手芸術祭ピアノ演奏会(審査制)「芸術祭賞」受賞者演奏
即興曲 変ロ長調Op.142-3 シューベルト
ノクターン 第6番 変ニ長調 フォーレ 鈴木 幸也

《講評》 第69回右手芸術祭ピアノ部門ピアノ演奏会(審査制) 出演者 ジュニア部門8名(丹代さん当日欠席)、一般部門6名 最後に、第68回ピアノ演奏会芸術祭受賞者鈴木幸也さんの招待演奏がありました。審査員はピアノの林 苑子先生・佐々木素先生・松岡 淳先生。ジュニア部門は県内の小・中高生が出演し、一般部門の審査員の先生よりコメントをいただけたというメリットがあります。

一般部門は18歳以上で、県内在住もしくは県内に戸籍のある方を対象に募集されます。

今年のジュニア部門は、秋の運動会などと重なり、思いの外出演者は少なかったものの、出演されたお子さんたちは、一般部門の審査員の方々よりコメントを頂き、大変有意義なコンサートになったと思います。

一般部門は、現役の学生



ピアノ

のみならず、現在ピアノ教師として社会で活躍している方たちが出演し、とても新鮮で好感が持てました。毎日忙しく明け暮れている中、練習してステージに立つという事は並大抵の事ではありませんが、その困難にめげず果敢に挑戦してくれた事は、賞賛に値すると思うのです。特にピアノという楽器は、ほかの楽器に比べて音が非常に多く、オーケストラの各パートの音を10本の指で演奏しなければならぬほど大変なのです。

今年 of 出演者6名のうち、厳正な審査の結果芸術祭賞該当なし、審査員特別賞 佐藤陽十さん・桂 史子さんの2名に決まりました。

この芸術祭の狙いは一般社会人として活躍している方が多く出演される事です。来年度は70周年を迎えますので、それを記念して新しい試みを考えたいと思っております。

聴衆の方々は年々増え始め、今まではジュニア部門が終ると帰られてしまう人が多かったのですが、最後まで残って出演者を応援し、入賞者を祝福している多くの姿にスタッフ一同喜びに沸きました。

(滝沢昭子)

ギター

ギター音楽の夕べ

11月19日(土) 午後5時半開演
岩手県民会館中ホール

第1部

独奏

カプリチオ……………S・シユナイター 晴山翔太郎
 マラゲーニア……………スペイン民謡 三上 純礼
 フェア……………A・ヨーク 佐藤 典子
 ラリアーネ祭……………L・モツアーニ 阿部和佳奈
 『椿姫』の主題による幻想曲…F・タレガ (アルカス)

二重奏

ブレリアス：作曲者不詳 フラメンコ研究会 工藤 進
 田村 一真
 海の見える街……………久石 譲 1st 樋口 卓子
 2nd 樋口 知志
 無言歌……………F・メンデルスゾーン
 1st 齋藤 忠孝
 2nd 三浦 晃可

第2部

合奏

真珠とりのタンゴ……………G・ビゼール ナ・デイ・フェゴ
 ティコ・ティコ……………S・アブレウ

フォーラギターアンサンブル
 ベサメ・ムーチョ……………C・ベラスケス
 ショーロ……………J・ペルナンブコ
 ブレイビスギターアンサンブル

シバの女王の入城

……………G・F・ヘンデル
GEBERS (ジープス)

アルヴァマー序曲……………J・バーンズ

岩手大学ギターアンサンブル
 指揮 小原 孝一

第3部

独奏

シャコンヌ……………G・F・ヘンデル 菊池 静男
 11月のある日……………L・プロウエル 鈴木 大
 グラナダ……………L・アルベニス 橋本 博行
 セビリーヤ……………L・アルベニス 中嶋 亮三
 City of Tokyo ……R・Okazaki 樋口 知志
 フーガ……………J・S・バッハ 三浦 晃可
 マジヨルカ……………L・アルベニス 大森 圭一
 ベネズエラ風ワルツ第1番・第4番
 ……A・ラウロ 望月 麻千

講評

第69回岩手芸術祭参加「第40回ギター音楽の夕べ」は、独奏者14名(うちフラメンコ1名)、二重奏2組、合奏5団体の参加の下、平成28年11月19日、県民会館中ホールにて行われた。聴衆数は168名、出演者数は61名であった。

第1部は晴山翔太郎のカプリチオの初々しい独奏で幕を開け、フラメンコの独奏・二重奏と第2部のギター合奏をささみ、第3部の望月麻千のベネズエラ風ワルツの4の演奏で幕を閉じた。

今年プログラム構成の中で、第1部工藤進のブレリアス(作曲者不詳)の独奏、樋口卓子と樋口知志の海の見える街(久石譲)の二重奏の他、第2部ブレイビスギターアンサンブルのベサメ・ムーチョ(C・ベラスケス)とジープスのシバの女王の入城(G・F・ヘンデル)の合奏、そして第3部中嶋亮三のセビリーヤ(L・アルベニス)、樋口知志のシティ・オブ・トゥキョウ(R・オカザキ)、



ギター

大森圭一のマジヨルカ(L・アルベニス)の演奏が印象に残った。

今回は、演奏直前に指を怪我して出演を急遽取り止めざるを得なかった方が有ったりして出演者が昨年より若干減少はしたが、小学生から老若男女の成人までの方々の独奏・合奏を楽しく聴くことが出来た。

(佐藤 匡)

舞踊

洋舞

モダンダンス公演

平成28年10月23日(日)午後2時開演
岩手県民会館大ホール

第1部

「コスモスの揺れる丘で」川上愛咲子 菅原幸奈 小原万奈 竹田真鈴 鈴木茉央 関根佳子 青木花 大久保永遠 川上茉莉子 月折胡柚 石川綾柙 大内葵衣 佐藤立恩 関根亜子 藤堂ひかる

「巡礼」佐々木佑季乃

「月あかり」柏崎郁乃 長澤ほのか 三浦千明

「The Rose」杉村香菜(振付) 金子幸菜 金子芽依

「プレリユード」細田心渚 渡邊さら 渡辺菜月 熊谷百姫 佐々木優衣 吉田咲季 吉田奈由 金彩美 金 愛美 ホール美沙紀 藤堂あさひ 三宅由莉 吉田果穂 石川遥花 福地歩実

「明日へ」安藤季華

「月のこえ」関根佳子

「あの空の下で」相澤彩香 笹森佑帆 花坂茉椰 関根和子 杉村香菜

第2部

「雨の木」相澤彩香 安藤季華 大志田千鶴子 柏崎郁乃 金子芽依 金子幸奈 川上愛咲子 齋藤貴子 佐々木佑季乃 佐々木ゆり子 笹森佑帆 杉村香菜 関根和子 高橋彩乃 長澤ほのか 中村麻美 中村たから 花坂茉椰 丸山ちはや 三浦千明 村井七海子 金田尚子

《講評》

第69回岩手芸術祭洋舞部門公演は、「金田尚子舞踊研究所モダンダンス公演」として、平成28年10月23日、岩手県民会館大ホールにて行われました。

第1部は、「小品集」とし全国各地で行われた。全国舞踊コンクール上位受賞作品をはじめ、ジャンルにこだわらない作品を上演しました。

「黎明」柏崎郁乃

「祈り」三浦千明

「月不見月」長澤ほのか

「ピエロの休日」鈴木茉央 関根佳子 吉田乃唯 青木花 大久保永遠 川上茉莉子 月折胡柚 石川彩柙 大内葵衣 佐藤立恩 山本凜 渡辺果歩 河村春歩 木幡さやの 佐藤奈穂 関根亜子 藤堂ひかる 野田愛理 細田心渚 渡邊さら 渡辺菜月

「Only the winds」高橋彩乃

「あの日の声を探して」関根和子

「冬の標」相澤彩香

「森へ行こう」川上愛咲子 菅原幸奈 小原万奈 竹田真鈴 鈴木茉央 関根佳子 吉田乃唯 青木花 大久保永遠 川上茉莉子 月折胡柚 石川綾柙 大内葵衣 佐藤立恩 関根亜子 藤堂ひかる

「あとのまつり」中村たから(振付)

「籠の中の私」杉村香菜(振付)

「メドレー」*石川綾柙 大内葵衣 佐藤立恩 山本凜 渡辺果歩 河村春歩 木幡さやの 佐藤奈穂 関根亜子 藤堂ひかる 野田愛理

*細田 心渚 渡邊さら 渡辺菜月 熊谷百姫

第2部は、

抽象作品「雨の木」を上演しました。

岩手県民会館でしか味わうことが出来ない独特な舞台空間と舞踊が織り成す幻想的な世界を表現することが出来たと思っております。開催にあたり、ご支援、ご協力いただきました関係者のみなさまに心から感謝申し上げます。

(金田尚子)



洋舞

日舞

日本舞踊公演

11月27日(日) 午前10時開演
岩手県民会館大ホール

第1部

1、清元 花がたみ……………若柳 力代
若柳 衣江

2、長唄小曲	舞妓……………	水本	葵
3、長唄	手習子……………	水本	菜々子
4、清元	お染久松……………	木村	美都
5、長唄	越後獅子……………	木村	詩乃
6、大和楽	あやめ……………	熊谷	心琴
7、長唄	梅の栄……………	熊谷	伽音
8、義太夫	槽のお七……………	藤倉利枝子	
9、清元	神田祭……………	三浦	敏子
10、長唄	連獅子……………	水木	愛沙美
		水木	歌昭
		水木	ま優
		水木	優吉
		水木	優瑤
		水木	扇升
		水木	聖千優
11、長唄	藤娘……………	水木	歌慶
12、大和楽	江戸風流……………	水木	優鶴
		水木	猿優

第2部

1、御挨拶	君が代松竹梅……………	水木	歌寿
2、長唄			

3、長唄	都鳥……………	水木	優林
4、長唄	春の調べ……………	水木	優葵輔
5、長唄	橋弁慶……………	水木	萬優
6、長唄	藤娘……………	水木	聖千優
7、長唄	島の千歳……………	水木	歌終
8、長唄	鷺娘……………	水木	歌蓮
9、義太夫	五人三番叟……………	水木	紅耶
		水木	歌筭
		水木	雀優
		水木	紅巴
		水木	愛歌
		水木	雀優
		水木	歌尋
		水木	歌林
		水木	春翠
		高橋	花
10、長唄	俄獅子……………	水木	優紅
		水木	楓
11、義太夫	団子売り……………	水木	歌昭
		水木	歌津良
12、長唄	連獅子……………	水木	紅菽

13、長唄	槍をどり……………	水木	歌梗
		水木	佑歌
14、清元	青海波……………	水木	歌優
		水木	歌史
		水木	優紅
		水木	澄歌
		水木	楓
		水木	愛歌
		水木	優翠

《講評》 今回の日本舞踊公演は、岩手県邦舞協と岩手県邦舞協会会長水木歌優氏が主宰する「歌優会」が恩師を偲んで水木流日本舞踊公演として開催されました。

この日は、水木流東京水木会理事長水木佑歌氏をお迎え致し、第1部12番、第2部14番と26番が上演されました。岩手県邦舞協会副会長の若柳力代氏、若柳衣江氏に依る清元「花がたみ」で格調高く幕を開け、初々しくあどけない子供達の演目が続き、新名取の水木愛沙美の義太夫「槽のお七」など華やかに第1部12番が続きました。

第2部の始めに水木佑歌、水木流東京水木会理事長そして水木歌優会主の後挨拶と新名取が紹介されました。

次に長唄「君が代松竹梅」から始まり、優雅に勇壮に次々

と演じられ、長唄「鷺娘」、若手による義太夫「五人三番叟」、きりりと艶やかな長唄「俄獅子」、そして特別出演、水木佑歌氏の長唄「槍をどり」の華麗な姿、最期に会主水木歌優を中心に七人による清元「青海波」で爽やかに華やかに幕を閉じました。

どの演目も出演者の熱意が観客の皆様へ伝わり、大きな拍手でこたえられておりました。又若手の方々が次々と育っており、明るい未来を感じさせる心あたたまる盛大な日本舞踊公演でした。

恩師である水木歌澄先生も泉下で満面の笑みを浮かべてお喜びのことと思えます。

(若柳衣江)



日舞

演 芸

民謡

岩手民謡まつり

平成28年11月6日(日) 11時開演

岩手県民会館大ホール

第1部 紅葉織りなす民の唄

- 1 踊 南部よしやれ節 南部よしやれ舞踊団
- 2 唄 北海鱈釣り唄 唄／井上 るみ子
- 3 唄 長者の山 及川 久美子
- 4 踊 外山節 米澤 吉次
- 5 唄 津軽山唄 岩手もりおか会
- 6 唄 津軽甚句 唄／山本 樹
- 7 唄 新相馬節 氏家 庄八
- 8 唄 相馬流れ山 工藤 政二
- 9 唄 南部木挽唄 佐藤 文司
- 10 踊 道南口説 北山 勝彦
- 11 唄 北海道説 中屋敷 晃
- 12 唄 白浜音頭 北上やよい会
- 13 唄 貝殻節 三上 悟
- 14 唄 新山 ナツ子 小野 ふぢえ

14 踊 秋田船方節

平原会社中 唄／照井 陽子

15 踊 秋田甚句

南部よしやれ舞踊団 唄／井上 るみ子

16 唄 米節

武田 幸子 清水 啓子

17 唄 沢内甚句

岩手もりおか会 唄／三上 紀子

18 踊 南部俵積み唄

田中 令子

19 唄 秋田酒屋酩酊唄

大山 カツ

20 唄 灘の酒造り祝い唄

浅沼 京子

21 唄 なかおくに

唄／中屋敷 晃

22 踊 おいせ坂

平原会社中 唄／二代目 井上 成美

23 唄 気仙坂

浅沼 紀

24 唄 南部長持唄

小原 新蔵

25 踊 新さんさ時雨

岩手もりおか会 唄／中田 桂敏

26 踊 花笠音頭

佐藤 信子

27 唄 文字甚句

玉川 ツヤ子

28 唄 外山節

北上やよい会

29 踊 朝の出がけ

- 30 唄 淀川三十石舟唄 中田 桂敏
- 31 唄 よさこい鳴子踊り 井上 るみ子
- 32 踊 津軽甚句 唄／松内 とり子
- 33 踊 気仙大漁御祝い唄 南部千代連

唄／岩崎 博

13 踊 チヤグチヤグ馬っこ

山下 ユキ (基菊会)

14 外山節

岩手もりおか会

15 佐渡おけさ(踊り)

地方：菊池 ひろみ

器楽演奏・次世代の唄声コーナー

- 1 津軽じょんから節(曲弾き) 佐藤 竜雅
- 2 江差追分(前唄) 川村 治穂 (不来方会)
- 3 生保内節(踊り) 岩月福田会
- 4 南部牛追唄 地方：菊池 きよ子
- 5 道南口説 清水水 優花 (好池会)
- 6 秋田船方節 藤井 有咲 (成美会)
- 7 タント節 佐々木 麻里 (竹水会)
- 8 南部木挽唄 阿部 伊祥 (竹水会)
- 9 南部よしやれ節 佐々木 美香 (竹水会)
- 10 ソーラン節(合唱) 佐々木 有加 (竹水会)
- 11 沢内甚句(合唱) 阿部 行浩 (竹水会)

第2部 民謡民舞大賞決定戦

- 1 唄 南部馬方節 佐々木 隆
- 2 唄 南部牛追唄 井上 正明
- 3 唄 沢内甚句 小田島 シゲ子
- 4 唄 外山節 前田 美穂子
- 5 踊 南部よしやれ節 岩手もりおか会
- 6 唄 南部木挽舞唄 唄／北條 真由美
- 7 踊 こきりこ麦や節 田村 孝
- 8 唄 外山節 南部千代連
- 9 唄 酒屋流し唄 佐藤 一子
- 10 唄 南部牛追唄 藤原 善美
- 11 踊 おいせ坂 山上 衛
- 12 唄 南部酒屋酩酊唄 唄／漆原栄美子
- 13 唄 南部牛追唄 小田島 リツ子

- 14 唄 南部駒ひき唄 佐藤 信
 15 唄 古調沢内甚句 佐々木 深里
 16 唄 南部牛追唄 藤野 君子
 17 唄 秋田酒屋唄 大滝 一秋
 18 踊 さんさ時雨 南部よしゃれ舞踊団
 唄／菊池 ひろみ
 19 唄 南部馬方節 作山 幸三
 20 唄 萩刈唄 蜂谷 和子
 21 唄 南部木挽唄 玉川 光雄
 22 踊 黒田節 成美会
 23 唄 南部酒屋配摺唄 前堂 るり子
 24 唄 南部木挽唄 小野寺 夏樹
 第3部 民謡特撰集
 1 踊 本荘追分 南部千代連
 2 唄 生保内節 唄／菊池 ひろみ
 3 唄 黒田節 照井 陽子
 4 踊 真室川音頭 小松 正宏
 5 唄 小諸馬子唄 北上やよい会
 6 唄 江差追分(本唄) 岩崎 博
 7 唄 相馬二遍返し 川村 治穂
 8 踊 沢内甚句 米澤 廣次
 平原会社中

- 9 踊 秋田節 唄／北條 真由美
 唄 岩手もりおか会
 10 唄 南部牛追唄 唄／三上 紀子
 11 踊 くるくる節 岡本 由雄
 12 唄 八戸小唄 唄／油井 幸子
 13 唄 ワイハ節 油井 幸子
 14 踊 秋田音頭 越田 仁蔵
 唄／漆原 栄美子
 15 唄 南部馬方節 松内 とり子
 16 唄 津軽じょんから節 千葉 栄人
 17 唄 道南口説 館澤 基菊
 18 唄 磯浜そだち 二代目 井上 成美
 19 唄 津軽音頭 佐藤 カツ子
 20 唄 佐渡おけさ 中岩持 勝子
 21 唄 船漕ぎ流し唄 中里 福次郎
- 《講評》 本年も『岩手民謡まつり』は午前11時より岩手県民会館大ホールに於いて、岩手のお祝い唄を代表する「南部よしゃれ節」で華々しく幕を開けた。
 今回は例年の3部構成に加え「器楽演奏・次世代の唄声

コーナー」を設けた。このコーナーでは15曲もの子ども達の津軽三味線演奏、踊り、合唱等が披露され、大人顔負けの演技に会場からは沢山の拍手や歓声が沸き起こった。

また、本公演では平成14年より毎年優れた演技者に芸術大賞を贈り、過去15名もの大賞受賞者が誕生している。今年も唄が19名、踊り5演目、合計24もの演目数に、岩手県合唱連盟名誉会長太田代政男氏を審査員筆頭に、本協会役員藤沢清美・工藤末三郎・近藤英一・照井真実都らは甲乙つけ難かったと語られた。第69回岩手芸術祭民謡民舞大賞は、南部牛追唄を熱唱した山上衛、民舞で黒田節を見事に舞った成美会所属の井上ひとみがそれぞれ受賞した。今回は熟年の唄を僅差で抑え、民謡・民舞とも若手が健闘した。

1部【紅葉織りなす民の唄】33曲、器楽演奏・次世代の唄声15曲、第2部【民謡民舞大賞】24曲、第3部【民謡特



民謡

撰集】21曲と若手とベテラン勢の唄手が舞台上に勢揃いし、全国の民謡を会場いっぱいに届けた。
 今後は集客力の向上を踏まえて、更なる演目に工夫を凝らしたい。

- ◆民謡功労者
 渡辺義光(尺八・三味線)・小原新蔵(唄)・和賀千代淑(踊り)
 ◆芸術大賞入賞者
 大賞 山上 衛／南部牛追唄(唄)
 井上ひとみ／黒田節(踊り)
 入賞 橋場昭喜治／南部牛追唄(唄)
 玉川光男／南部木挽唄(唄)
 岩手漆原会／おいせ坂(踊り)
 岩手もりおか会／南部よしゃれ節(踊り)
 (三上 紀子)

新舞踊

新舞踊発表会

平成28年10月22日(土)10時半開演
 花巻市文化会館

オープニング

1	花巻ばやし	花巻支部	
2	真室川音頭		
3	花巻ばやし	花巻支部	とし美会
4	祝いしぐれ	花巻支部	有扇会
5	山形大黒舞	花巻支部	洋子社中
6	人恋酒場	花巻支部	裕康会
7	四万十川	北上支部	やよい会
8	ソーメン音頭	花巻支部	新友会
9	南部のふるさと	花巻支部	有扇会
10	浮草の川	花巻支部	とし美会
11	雪の細道	花巻支部	崇扇会
12	花は咲く	花巻支部	邦扇会
13	人生桜	花巻支部	勺洗会
14	伊勢めぐり	花巻支部	春陽会
15	風よ	花巻支部	有扇会
16	ちようちんの花	気仙支部	満月会
17	木更津くずし	気仙支部	舞の会
18	人生男船	気仙支部	野の花会
19	越前雪の宿	花巻支部	藤洗会
20	花巻雨情	花巻支部	甲扇会
21	花巻雨情	花巻支部	泉会

20	大輪	花巻支部	有扇会
21	浪花節だよ人生は	北上支部	やよい会
22	春曆	花巻支部	裕康会
23	男の海峡	花巻支部	とし美会
24	はぐれ雲どこへ	気仙支部	満月会
25	南部よしゃれ節	花巻支部	洋子社中
26	春さのさ	花巻支部	有扇会
27	長崎の雨	花巻支部	裕康会
28	二月堂	花巻支部	とし美会
29	おかえり ただいま	花巻支部	春陽会
30	河内おとこ節	花巻支部	裕康会
31	俺の出番はきつとくる	気仙支部	舞の会
32	じよんがら子守唄	花巻支部	新友会
33	華の手古舞	北上支部	幸の会
34	陽だまり人生	気仙支部	野の花会
35	正調生保内節	花巻支部	洋子社中
36	鶴の岬	花巻支部	勺洗会
37	雪の向島	花巻支部	とし美会
38	竜虎伝	花巻支部	有扇会
39	白虎隊	北上支部	幸の会
40	龍飛崎灯台	花巻支部	崇扇会
41	人道	花巻支部	泉会

42	大鴉く故郷を偲んで	気仙支部	満月会
43	職人	花巻支部	藤洗会
44	ソーラン祭り節	花巻支部	邦扇会
45	人生いろいろ	北上支部	やよい会
46	北斗の星	北上支部	幸の会
47	南部のふるさと	花巻支部	甲扇会
48	名将時宗	花巻支部	有扇会
49	まつり	花巻支部	裕康会
50	独楽	花巻支部	とし美会

新花巻音頭

花巻支部

《講評》 第69回岩手芸術祭参加舞台等部門・演芸部門は第18回岩手県新舞踊協会芸術舞踊発表会「賢治の郷に舞う祝宴の舞」のタイトルで、好天に恵まれた平成28年10月22日(土)、花巻市文化会館において盛大に開催された。

午前9時45分の開場に合わせて入場がはじまり、10時30分開演、オープニングは今年、宮澤賢治生誕120年に因み賢治がこよなく愛したと言われる花巻祭りの、花巻ばやし踊り裏表を三味線、笛、太鼓の生演奏に合わせて披露、また今年の研修事業として旅行と研修を兼ねて山形県真室川町に外向き研修した真室川音頭の輪踊りと座敷踊りで開

幕し途中、高橋トシ新会長の挨拶を挟み全50曲を発表した。今年は第18回目の発表会であるが、各会の競演の場でもあり又、生徒の技術向上と合わせ会員同士の和を築く絶好の機会でもある。

踊り終えてホッとしている人を讃えている光景、これから出演する人たちを励ましている様子、何とも言えない心の和む温かい気持ちを感じる時でもある。

今年の開催期は秋の後楽期や行事等とも重複する時期、曜日であったようにも見受けられ、今後の検討課題としたい。然し、全体を通じ終始、舞台と観客が一体となっている雰囲気の中で、全演目に大きな声援と拍手を頂いて終演したことは、主催者としてこの上ない喜びであり今後の活力としたい。

(事務局 鈴木孝四郎)



新舞踊

県民文芸作品集

県民文芸作品集は、県民の文芸活動の振興を目的として、県民から広く文芸作品を公募し、その中の優秀作品を掲載し刊行しているものであり、今回は47集となる。

会議等の運営

5月12日 文芸部門第1回実行委員会
(公募要項の決定等)

7月1日～8月31日 公募期間

8月26日 文芸部門事務局会議

9月1日～30日 作品選考期間(種目毎に審査会開催)

10月7日 県民文芸作品集選考結果発表

(入賞・入選者への通知、ホームページ上での公表、マスコミ報道解禁)

2月15日 文芸部門第2回実行委員会

(文芸部門の運営状況の報告、次回の公募要項の決定等)

応募状況

平成28年7月1日から8月31日まで、小説、戯曲・シナリオ、文芸評論、随筆、児童文学、詩、短歌、俳句、川柳

種目	賞名		受賞作/作者		選者
	優秀賞	奨励賞	受賞作	作者	
小説	優秀賞	奨励賞	召される日/多田加久子	ポプラ スイッチ/汐見 遥	柏葉 幸子 斎藤 純
	奨励賞	優秀賞	絵画I/今和 立 若葉/句坂日名子	シラカバ姫/ヒラニフ高原 の桃源郷/こむろこうじ	中村 好子 昆 明子
戯曲・シナリオ	奨励賞	優秀賞	飛立記/日本人	賢治神話/検証五点/鈴木 守 エクソダス「J」の群れ/藤倉清光	望月 善次 牛崎 敏哉
	優秀賞	奨励賞	為政者は常にドラマを創る/大伴宿祢家持の自署/永井雍子	ご朱印ブーム/岩淵眞理子	須藤 宏明 野中 康行
随筆	奨励賞	優秀賞	大晦日のすき焼き/平澤和志 忘れ得ぬ一句/加藤美奈子	「私」を着ていたあの頃/風張沙樹	須藤 宏明 野中 康行
	優秀賞	奨励賞	航太は地球の宝もの/えむ おはら	セルフジャッジ/加藤典夫	高橋 昭 藤原 成子 齋藤 英明
児童文学	奨励賞	優秀賞	ダブル・スイム/今和 立 「春」三題/荒田正信		

【受賞作品・作者及び選者】

の九種目の作品を公募した。応募作品は485点であった。

作品審査

種目ごとに審査を行い芸術祭賞、優秀賞、奨励賞及び入選作品を決定。事務局では結果をとりまとめ、10月7日に入賞・入選者へ通知するとともに、岩手県文化振興事業団のホームページ上で公表した。またマスコミ報道の解禁に合わせて、10月7日に岩手日報、また10月20日には盛岡タイムス紙面に記事が掲載された。

表彰

芸術祭賞、優秀賞及び奨励賞受賞者33名の表彰式を12月17日に行った。
(会場・サンセール盛岡)

刊行

受賞作品等を掲載した県民文芸作品集を12月10日に刊行した。



種目	賞名		受賞作/作者		選者
	優秀賞	奨励賞	受賞作	作者	
詩	優秀賞	奨励賞	ウロコ雲/照井良平	昆虫記/佐藤岳俊	山下正彦 伊藤諒子
	奨励賞	優秀賞	海のまらうと/藤倉清光	逃げ水の距離/鈴木和子	岡田絃子 鈴木八重子 鷹野真智子 松田久恵 吉田史子
短歌	奨励賞	優秀賞	悔恨の日々/東根ただし 猫に問う/田浦 将	父の硫黄島/工藤百合枝	鈴木八重子 鷹野真智子 松田久恵 吉田史子
	優秀賞	奨励賞	初秋の夕日/高橋和枝	女能/岩淵洋子	小畑白流 菅道程 伊藤紫水 大石文雄 大畑善昭 名井清子 犬股百合子
俳句	奨励賞	優秀賞	浦祭/和城弘志	恵み/及川良治	小原金吾 塩釜アツシ 佐藤岳俊
	優秀賞	奨励賞	雑詠/宇部 功	雑詠/及川洋一郎	
川柳	奨励賞	優秀賞	雑詠/柳清水広作	雑詠/佐藤 忠	

文 芸 祭

小説大会

10月22日(土)

岩手県民会館会議室・参加者9名

講師

柏葉幸子(作家・県民文芸作品集選者)

斉藤 純(作家・県民文芸作品集選者)

《講評》 今年度の小説大会は、岩手県民会館第3会議室を会場に、県民文芸作品集の応募者や一般の方々への参加を得て開催された。参加者は常連の方に加え、初めて参加された方やこれから小説に挑戦しようと思っっている方、年代も20代から90代までと、人数は多からずとも、多様なストーリーを持ち合わせた。

小説大会は、県民文芸作品集の選者が講師を務め、応募作品の選評を主な内容としている。柏葉さんと斎藤さんには、作品集の選者と小説大会の講師をお願いして3年目となる。

最初に講師から、今年の県民文芸作品集応募作品の総評と創作にあたっての注意点を話していただいた。「小説の一番のポイントは、書きたいことをただ書くのではなく、書

きたいことを読んでもらうように書くことである」と、講師は2年前から一貫してお話されている。今回もそのポイントを中心に、伝えるべきことは文字にすること、記号を多用して読者に頼らないこと、タイトルは悩みに悩んでつけること等の技術的なことや、なんのために小説を書くのか考えること、作品の肝を考えるときは自分の気持ちを考え、書くときは、それを伝えたい読者のことを考えること等、小説に向かう姿勢についても具体的に述べられた。

その後、参加者の個々の作品について講評していただき、質疑応答の時間を設けた。

今年のアンケートにおいて、「ほかの参加者の作品を事前に読みたい。個々の講評を聞くのみでは分かりにくい」「作品を応募していない参加者にとってはアウェイ感がある」とのご意見をいただいたが、これはここ数年の懸案事項でもある。一作品30枚の原稿を参



小説大会

加人数分事前送付するとなると、時間的かつ物理的な面でそう容易ではない。とはいえ、この小説大会は、講師から直に講評をいただける貴重な機会である。事務局としても、参加された皆さんには自身の作品作りをするうえで、少しでも多くのことを収穫していただきたいし、満足な時間とさせていただきたい。そのためにも、皆さんからのご意見を参考に、資料の工夫などをし、参加者の増にもつながるような大会運営をしていきたい。

(藤村恵玉)

戯曲大会

平成28年11月19日(土)・20日(日)

盛岡劇場タウンホール・参加者53名入場者92名

運営委員

昆 明男・倉持裕幸・高村明彦

《講評》 今回の戯曲大会は、日本劇作家協会東北支部と提携し、第69回岩手芸術祭戯曲大会／2016年度日本劇作家協会東北支部企画「東北演劇見本市in盛岡2016」として開催した。

メイン企画は、短編演劇コンテスト「東北 劇の陣」で

ある。この企画は、日本劇作家協会東海支部から始まった、短編演劇コンテスト「劇王」の流れをくみ、全国各地で開催されている。

上演時間20分以内、登場人物3人以内、数分で転換できる簡素な舞台装置、という制限のもと、観客投票と特別審査員の得点を合計しチャンピオンを決定するというもの。

東北各地から招待した参加チームは6チーム。青森、秋田からは1チームずつ、宮城、福島からは2チームずつが招待された。残念ながら山形からの参加チームは無かった。

地元岩手では「もりげき王」と題した同様の短編演劇コンテストを「もりげき八時の芝居小屋」で開催し、上位2チームが参加切符を得ており、合計8チームでチャンピオンを争う。

審査は、一般観客は一人一票、特別審査員は3名で、観



戯曲大会

客票と同数を持ち、それを振り分ける。

審査員は、東北以外から3名、東京、熊本、そしてニューヨークから招待した。予選は一組4チームで争われ、上位2チームが翌日の決勝に進出。決勝では4チームの争いとなった。東北各地から集まった参加チームは、それぞれ個性的でなおかつ面白く、審査も僅差で決着がついた。

チャンピオンになったのは宮城代表、井伏銀太郎「イーハトーヴの雪」。この作品は、震災直後に、身内を探しに遺体安置所を訪れた葬儀業の男が登場する一人芝居である。未だ身内が見つからず、見知らぬ他人の棺の前に、線香を立て、水筒で持ってきたコーヒーを入れ、訥々と心情を語った。

短編演劇コンテストの他「越境する東北の演劇」と題し、震災後の演劇に関するシンポジウムを行った。今年震災の被害に遭った熊本演劇人、河野ミチユキ氏と、東日本大震災の義援金を集めるリーディングイベントを全米で仕掛けた、山形で小中学校時代を過ごしたJames八重樫氏、東京の柳井祥雄氏を交えたシンポジウムは、5年以上が経った震災と東北演劇の現在を浮かび上がらせた。

(倉持裕幸)

文芸評論大会

10月9日(日)

岩手大学農学部1号館会議室・参加者19名

運営委員

望月善次・牛崎敏哉

《講評》 岩手芸術祭文芸祭「文芸評論の部」は、今回で第11回目となり、岩手大学農学部第一会議室を会場に、10月9日(日)午後1時から開催された。参加者19名と、昨年と同数の人数であった。

はじめに『県民文芸作品集』文芸評論選者であり、本文芸祭実行委員である望月善次より開会挨拶と、「石川啄木生誕130年記念、宮澤賢治生誕120年をめぐって」2016国際啄木学会盛岡大会、「賢治100首」(カルタ、英訳付)を中心として」と題して



文芸評論大会

随筆大会

11月6日(日)

岩手県民会館会議室・参加者16名

講師

須藤宏明(県民文芸作品集選者)

野中康行(県民文芸作品集選者)

ミニ講演があり、続いて同じく選者・牛崎敏哉「宮沢賢治研究の現状」として盛岡高等農林時代の文芸同人誌「アザリア」についてのミニ講演があった。

次は応募者による研究発表で、国際啄木学会会員の赤崎学氏が「啄木・モダニスト説の再検討／「日本近代短歌史の構築」を読む」と題して発表された。

続いて『県民文芸作品集』文芸評論部門入賞者の研究発表で、まず奨励賞の永井雍子氏が「為政者は常にドラマを創る」と題して「大伴宿祢家持の自署」について、続いて優秀賞の鈴木守氏が「賢治神話」検証五点」と題して宮沢賢治について発表された。

最後は招待講演として、県立水沢高校教諭で、東京農業大学短期大学部非常勤講師である城守寛氏より、「宮沢賢治と植物」という演題にて、具体的な画像を通して貴重な所蔵資料持参により、講演していただいた。各々の発表後のわずかな時間ではあったが、活発な質疑応答が展開された。

全体は予定通り午後4時に終了、続いて同会場にて、希望者15名による懇親会が開かれた。次回は更なる参加者を目指したい。

(牛崎敏哉)

《講評》 今年度の随筆大会は、岩手県民会館第3会議室を会場に、県民文芸作品集の応募者の参加を得て開催された。一昨年は盛岡市、昨年は北上市と、随筆大会は盛岡と盛岡以外の地区を隔年で開催することとしている。今年も盛岡市での開催であったが、参加者のほとんどが盛岡市以外からの参加であり、ここに、随筆大会の開催地を毎年替えていることの意義と、その需要を実感した。同時に、随筆に親しんでいる方が県内の各地にいらっしゃることを共有する良い機会となった。

今年も講師は、県民文芸作品集の選者である盛岡大学文学部教授の須藤宏明先生と、岩手日報随筆賞の受賞経験のある野中康行先生のお二人にお願いした。

例年に倣い、最初に講師のお二人から県民文芸作品集応募作品についての総評をいただいた。県民文芸作品集の随筆は原稿用紙4枚という規定がある。その中で、起承転結

があり、主語、述語、時系列そして場面がしっかりして、読者にとって分かりやすい文章であるか、ということが、随筆を書く上での基本であることを示されたうえで、心がこもっていること、うったえるものがあることが、作品集の賞の選考の決め手になっていることをお話しされた。

その後、参加者の個々の作品についての具体的な講評をいただき、参加者からの質問にも答えていただいた。話題を共有できるように、参加者の作品を、資料として事前に送付していることもあり、他の参加者の作品についても質問できることは、この大会の持ち味のひとつである。

先に述べた、今回の開催地である盛岡市と参加者の居住市町村の関係も一因かと思われるが、これまでの人数と比べると、今年は少ない参加者数であった。これは少し残念ではあったが、一方で、一人ひとりの作品の講評、質問の



随筆大会

時間が多く持てたことで、参加された方から満足の声が多くあったことは、喜ばしいことであった。
参加された方にとって充実した時間となり、人数の大小が大会の良し悪しに関わることはないよう、今後も大会運営に臨みたい。

(藤村恵玉)

児童文学大会

11月13日(日)

オガールプラザ 情報交流館(紫波町)
参加者61名

運営委員

高橋 昭 加藤典夫 千葉留里子

《講評》 児童文学大会は、一般の方々、「県民文芸作品集」の応募者、岩手児童文学の会会員の参加を得て行われた。

○「県民文芸作品集」の応募作品の選評と合評

選者の藤原成子氏が、「推敲を重ねるひたむきさと完成度を求める強い意志が重要」と述べながら、芸術祭賞の加藤典夫さんの作品をはじめ、入賞・入選の中の5作品の講評を行った。その後、合評希望のあった次の3作品について

て、参加者より感想や意見が活発に出された。

「世捨てびとのイオリ」 藍沢 篠(佳作)

「春」三題」 荒田正信(奨励賞)

「セルフジャッジ」加藤典夫(芸術祭賞)

○講演 演題「童謡詩人 巽聖歌と童話作家 新美南吉

講師 郷土史家 内城弘隆氏

聖歌は紫波町の出身の詩人。童謡「たきび」の作詞者で知られる。南吉は、子どもたちから親しまれている「こんぎつね」など、数多くの児童文学作品を遺した。

内城氏は、二人のおいたちと出会いにふれた後、聖歌が南吉の創作活動を一貫して励まし続けたこと、咯血し永眠した南吉の遺稿を世に出す努力をしたこと、小学校国語教科書の編集者として「こんぎつね」の採用の働きを行い、全部の教科書会社が採用する先駆けとなったことなど、映像を交えて紹介された。また、



児童文学大会

詩の大会

10月16日(日)

花巻市定住交流センター12階第1会議室・
参加者25名

選者

上斗米隆夫・山下正彦・伊藤諒子

運営委員

北原陽子・兒玉智江・松崎みき子

《講評》 紡ぎ出された想いは、その人の環境という縦糸と人生の横糸によって編み込まれ、一編の詩となる。

ポブデザインは、反戦・差別・環境とほとぼる想いをギターにのせて人々に語りかけ、ノーベル文学賞を受賞した。

本年度の文芸祭には、様々な想いをのせた22の作品がよ

せられた。残念ながら文芸祭賞該当なしという結果になってしまった。次年度に期待して寸評を述べたい。
 優秀賞「七月に居る」(佐々木もなみ) 盛岡の夏はさんさの太鼓の音にはじまる。初夏の風、光がさわやかに切り取られている。その時を全身で受けとめて就活・テスト・アイスコ―ヒーを描くパステル画を思わせる。



短歌大会

10月8日(土)

盛岡市勤労福祉会館(盛岡市)・出詠者101名・参加者79名

奨励賞「この道」(小田島周子)身近かなことを主題としながらふと思う「助けなきゃ良かった」に生きることの辛さをかきとめた。
 奨励賞「いのちの集積場」(藍沢 篠)自分の若さ、何の役にもたたないと悩む姿がえがかれている。ゴミ袋に入れて捨てるという表現がすばらしい。
 佳作「頑固一徹」(ルディアひろこ)七五調のリズムが頑固な男を良く表している。彼の生き方への共感と郷愁が込められた作品となっている。

佳作「リハビリテーション」(藤野なほ子)リハビリに来る老を見つめ、それでも「心に灯をともしよう」と立つ。
 佳作「哀歌」(田村博安)自分はどこから来て、どこへ行くのかと自然を対象としてえがき出している。
 佳作「放射能がふりかかった町」(兒玉智江)人の住めない町にも花は咲き鳥はうたう。
 佳作「その穴は」(糠塚 玲)自己の内側を見つめる。
 新人賞「よだかの唄」(阿部双葉)5年前のあの日を見ずみずしい感性でえがき出した。今後の作品が楽しみ。
 (山下正彦)

選

山内義廣

運営委員 赤澤篤司・外館克裕・山本 豊

《講評》

文芸祭賞

廃校を見おろす丘に教へ子の耕す畑は長く畝立つ

菅野絹子(盛岡市)

情景がしっかりと描写されていて、内容が読者に素直に伝わってくる歌であり、故里の土地を守って農家をしている教へ子の気持ちと、作者の教へ子に対する愛情も滲み出ている歌であるとの高い評価を受けた。

優秀賞

黄ばみたる作文のたばをひらくとき訓導なりし父が息づく

岡田絃子(盛岡市)

生徒たちの作文を大事に保管していた教師であった父親に対する作者の思いが、抑制された表現のなかに込められていて、読者に深く沁み入ってくる内容の歌であるとの高い評価を得た。

奨励賞

朝顔の手拭い一枚飾られて菓子屋今日より夏となるらし

菊田 顕(奥州市)

季節感がうまく表現されていて、爽やかな印象を与える内容であり、素材も、人があまり気に留めないようなところをしっかりと見て表現し、街のなかの一断面を詩情ある風景として捉えた作品であるとの高い評価を得た。

選者賞

菊池哲也選

草刈り機刃は青き光帯ぶ琥珀混合油とくとく入れれば

菊池 陽(盛岡市)

瀧本慶子選

復興の発掘に出でし遺跡群太古に続くいのちを思ふ

田澤和子(盛岡市)

藤井永子選

依託せし稲田に寄れば穂も株もみつしりとして秋陽

抱けり

八重樫勲子(北上市)

八重嶋勲選

老をいふ庭師の腕は衰へず梯子に登る足もと確か

高橋八重子(盛岡市)

山内義廣選

弔慰金わづかを受けてこの夏も骨なき父の墓守り来し

初森テル(二戸町)



短歌大会

出詠者101名は昨年と同数であるが、出席者は8名少ない79名であった。出席者が少なかったのは残念であるが、出詠者は同数であったことは、短歌作者の高齢化が進んでいる中で喜ばしいことである。高齢となっても歌を作り続けてゆくことを望む次第である。(山本 豊)

俳句大会

10月15日(土)

岩手県公会堂

(盛岡市)・出席者88名

選者 小畑柚流・

小菅白藤・川原道程・

伊藤紫水・大石文雄・

大畑善昭・名久井清流・

犬股百合子

運営委員 山火律子・

佐々木昌子・長谷川かよ子・

北田祥子・兼平玲子・

工藤幸子



俳句大会

《講評》 文芸祭俳句大会は、すばらしい秋晴れに恵まれ開催された。参加者は88名、昨年より9名増えた。これは、近年の参加者減少の対策として、参加費を二千元から千五百円に下げたことが功を奏したのかもしれない。3句投句(選者は拝辞)で237句。選者8名が祭賞候補を各2句、計16句を選出。投票と意見交換を繰り返して3賞を決定した。

「文芸祭賞」

赤い羽根胸の鼓動の上に挿す

盛岡市 工藤 好子

「優秀賞」

鮭のぼる城下鍛冶町一里塚

盛岡市 和田 タケ

「奨励賞」

集落といふには淋し蕎麦の花

盛岡市 芳賀 越夫

「赤い羽根」については、「胸に挿す」に類想が心配されたが、スマホで調べた範囲では、「鼓動の上」との発想、表現は無しとのことで、そのユニークさから大賞に決定。「一里塚」は「鮭のぼる」の季語と共に風土性が評価された。

「蕎麦の花」は、過疎化の問題等多くの社会性を表現して佳句であるが、「淋し」は言ってほしくないとの意見が

多く3位となった。

選者賞は次のとおり。

「小畑柚流選」

人の世の哀れに似たり捨案山子

下館 幸男

「小菅白藤選」

わだかまり解けし文読む後の月

菊池 節子

「川原道程選」

梳る窓辺に冬の気配急

高橋 和枝

「伊藤紫水選」

洪水の傷癒えぬまま山粧ふ

佐々木淑子

「大石文雄選」

棒稻架の士卒のならば蝦夷の地

吉田 孝子

「大畑善昭選」

湯上りのやうな木々立ち霧深し

佐々木ヒロ

「名久井清流選」

戦前かもしれぬ新米炊きにけり

渡辺 紀子

「犬股百合子選」

豊の秋岩手の選手駆けてゆく

榊原 康二

(山火律子)

川柳大会

10月22日(土)

いわて県民情報交流セン

ター・アイーナ

501号(盛岡市)・参加者

61名

川柳大会

選者 伊藤豊志・

中里陽子・宮野 裕・

宇部 功・佐藤岳俊・

塩釜アツシ・

小原金吾



《講評》 その先の川柳界発展のため、若い方の参加を望んだが皆無であった。川柳人口が減っている訳ではないが、ネット社会である。個人的に楽しんでいる人が多く、組織的な動きへ組み入る人は少ない。大会という人と人との触れ合いの楽しさを知っていただくには、どうしたらいいのか、考えなければならない。

さて、例年通り、各選者が推す特選7句を県川柳連盟役員が第2次選考に当たり、三賞を決定した。

文芸祭賞

奥州市 佐藤岳俊

銀河へと伸びる賢治の文庫本

宮沢賢治の遺した言葉に「世界全体幸福にならない
ちは、個人の幸福はありえない」というのがあるが、そ
の思想は銀河へと続いているのである。賢治から学ぶ
べきことは多い。それを詠み切っている。

優秀賞

洋野町 野口一滴

風に耐え葦一本が明日へ向く

いろいろな苦難を乗り越えて行かねばならぬ人生。こ
れからもそうであろうが、明日へ向くには人間として考
えて進まねばならぬのである。人生観が沁みている。

奨励賞

洋野町 柳清水広作

ボロボロの軍手にだつてある思想

格差社会が叫ばれているが、弱い者の立場にだつて、
思いを表に出す権利はあるのである。ベテランらしい表
現力を醸し出す。

その他の特選句

手を握るダリの森から出るために 盛岡市 徳田ひろ子
じゃが芋のような彼氏で良しとする 青森県 八木田幸子

アートフェスタいわて2016

岩手芸術祭受賞作品・推薦作家展+岩手県美術選奨受賞者作品展

岩手県立美術館と岩手芸術祭実行委員会共催事業岩手県
立美術館企画展「アートフェスタ2016―岩手芸術祭受
賞作品・推薦作家展+岩手県美術選奨受賞者作品展―」は、
平成29年3月4日(土)～3月26日(日)まで、岩手県立美術館で
開催された。

この展覧会は岩手芸術祭に集う美術家たちの作品を広く
県民に紹介する場として、平成15年度から開催しており、
今回14年目を迎えた。

今年度は、岩手芸術祭美術展の受賞（芸術祭賞、優秀賞、
奨励賞）作品に加え、日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、
書道、写真、デザイン、現代美術、水墨画の10部門それぞ
れから推薦された美術家たちの作品100点を、平成26年
度岩手県芸術選奨を受賞した美術家5名の作品と合わせて
展示した。

会期中には部門別のギャラリートーク（作品解説会）が
行われ、観覧者が作品への理解を深めた。
鑑賞者数は3525人であった。

出品点数

日本画 7点
洋画 17点

肩の荷が下りると無重力になる
農守る案山子の原画ボクである

（熊谷岳朗）

大船渡市佐々木七草
洋野町 野口一滴

版画	7点
彫刻	7点
工芸	9点
書道	17点
写真	12点
デザイン	7点
現代美術	6点
水墨画	11点
合計	100点

部門別ギャラリートーク

3月4日(土)	工芸・彫刻・日本画
3月5日(日)	版画・洋画
3月12日(日)	水墨画・書道
3月19日(日)	デザイン・現代美術
3月25日(土)	写真

企画・運営委員

片山道子（日本画）・石川西三（洋画）・鈴木和雄（版画）・
清武英司（彫刻）・阿部裕之（工芸）・吉田晨風（書道）・
菊池克美（写真）・竹村育貴（デザイン）・小笠原卓雄（現
代美術）・鈴木孝男（水墨画）・吉田尊子（美術館）

テーマ募集

第69回岩手芸術祭を開催するに当たり、芸術文化の創造と発展をイメージさせるテーマを懸賞募集した。

1 応募期間

平成28年4月～5月31日

2 応募総数

297点(135人)

3 選定方法

6月22日(水)選定委員会を開催し、選定を行った。

〔委員〕 山田 靖了(実行委員会副会長・合唱)

屋形場正蔵(実行委員会副会長・地域)

竹村 育貴(美術部門実行委員長・デザイン)

滝沢 昭子(ピアノ)

北原 陽子(詩)

山火 律子(俳句)

4 選定結果

優秀作【岩手芸術祭テーマ】

「芸術は希望」 人から人へ 今日から明日へ」

長内 潤子さん(滝沢市)

○佳作

「創造は明日への希望 夢を乗せ 君につなごう 岩手の芸術」

宮澤リツ子さん(滝沢市)

「凜として きらめく文化 未来につなぐ 夢・希望」

佐藤 博志さん(盛岡市)

「明日へつなぐ 岩手の芸術 咲き誇れ 香り高く」

加藤美津男さん(一関市)

「広げよう! 飛びたとう! 岩手のパワー 岩手の芸術」

及川 正浩さん(盛岡市)

※優秀作作者は10月8日(土)の開幕式典において表彰した。

実行委員会名簿

【実行委員会】

会長 柴田 和子

副会長 山田 靖了

監事 浅倉 伸

屋形場正蔵

橋本 博行

区分	委員長名		所 属
	委員長	副委員長	
主催者	松下 洋介	菅野 洋樹	岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課総括課長 岩手県文化振興事業団 理事長
美術	鈴木 孝男	柴田 和子	岩手県芸術文化協会会長
演劇	坂田 裕一	浅倉 伸	デザイン部門 現代美術
伝統芸能	菊池 昭二	立身 岳元	能楽
音楽	山田 靖了	菊池 昭子	吟剣詩
	滝沢 昭子	山田 靖了	弦楽
	橋本 博行	滝沢 昭子	合唱

舞 踊	演 芸	文 芸	小・中美術展	地 域
小柳 玲子	水木 歌優	北原 陽子	加藤 均	屋形場 正蔵
洋 舞	日 舞	詩 謡	短 歌	九戸村文化協会
				岩手県小・中学校美術展協会
				雫石町芸術文化協会

【美術部門実行委員会】

部門	委員長名	部門	委員長名
日本画	西川 善有	書 道	佐藤 平泉
洋 画	石川 西三	写 真	太田 信子
版 画	日山 登啓	デザイン	菊池 克美
彫 刻	鈴木 和雄	現代美術	竹村 育貴
	清武 英司		吉田 康則
工 芸	曾根 達也	水墨画	小笠原 卓雄
	阿部 裕之		浅倉 伸
	竹田 康夫		鈴木 孝男
			北村 義美

第69回岩手芸術祭実行委員会 収支予算書（最終予算）

1 収入の部

(単位：千円)

科 目	予算額	主 な 内 容
負担金	10,730	主催団体、巡回美術展開催市町
入場料	1,026	美術展入場料
諸収入	320	広告料、預金利子
繰越金	1,438	第68回会計より
計	13,514	

2 支出の部

(単位：千円)

科 目	予算額	主 な 内 容
実行委員会	1,590	功労者表彰、新聞広告、印刷物製作
美術展	2,707	印刷物製作、会場使用料、部門負担金
巡回美術展	1,925	写真パネル製作、作品輸送、印刷物製作
小・中学校美術展	353	小中学校美術展協会負担金
巡回小・中学校美術展	31	〃
演劇	420	部門負担金
映像	119	賞金、部門負担金
伝統芸能	738	部門負担金
音楽	934	〃
舞踊	720	〃
演芸	362	〃
移動公演	268	〃
県民文芸作品集	1,072	選者謝金、賞金、作品集買上
文芸祭	402	部門負担金
予備費	1,873	
合計	13,514	

音 楽				伝 統 芸 能				映 像	演 劇	部 門									
弦 楽	声 楽	合 唱	詩 舞 道	吟 詠 剣	華 道	茶 道	邦 楽	能 楽											
増田真紀子	菊池昭子	丸岡千奈美	山口剛	小濱和子	山田靖了	村上岳星	立身岳元	小原宏華	猿子慈苑	平野宗蕙	鈴木宗基	室岡提子	福士幸雄	佐野剛章	菊池昭二	長内努	澤田綾香	坂田裕一	委員名
演 芸				舞 踊		音 楽				部 門									
新 舞 踊	民 謡	日 舞	洋 舞	ギ タ ー	ピ ア ノ	吹 奏 楽	三 曲	管 弦 楽											
鈴木孝四郎	高橋トシ	三上紀子	藤沢清美	水木妙歌	水木歌優	久慈幸恵	小柳玲子	佐藤勝政	橋本博行	成瀬ゆかり	滝沢昭弘	小智弘	安倍一洋	立野呈山	伊藤衡山	斎藤 弦	寺崎 巖	委員名	

【舞台等部门実行委員会】

詩		児童文学		随 筆	文 芸 評 論	シ ナ リ オ		戯 曲 ・ 劇 本	部 門
北原陽子	兒玉智江	松崎みき子	千葉留里子	高橋 昭	野中康行	牛崎敏哉	望月善次	倉持裕幸	昆 明 男
		川 柳		俳 句				短 歌	
		熊谷岳朗	柳清水広作	佐藤岳俊	長谷川かよ子	佐々木昌子	山火律子	山本 豊	外 館 克 裕
									赤 澤 篤 司

【文芸部門実行委員会】

実行委員会事務局
 事務局次長 佐々木一成 (県文化振興事業団事務局長)
 事務局次長 佐々木仁志 (県芸術文化協会事務局長)
 事務局員 花坂 正彦 (県文化振興事業団総務部総務課長)
 事務局員 竹原久美子 (県教委事務局生涯学習文化課)
 千葉 達也・藤村 恵玉・鈴木 宣子 (県文化振興事業団総務部)
 岩崎 桂子 (県芸術文化協会)

事務局日誌抄

4月 1日 テーマ作品募集開始（応募締切5月31日）

5月 10日 美術部門第1回実行委員会

〃 舞台等部门第1回実行委員会
文芸部門第1回実行委員会

24日 第1回実行委員会

【議題】第68回収支決算、テーマ募集、第69回開
催要綱、実行委員会会則等、実施計画、
収支予算、役員の選出について ほか

29日

アートフェスタいわて2016第1回企画・
運営委員会

舞台等部门事務局員会議

美術部門第2回実行委員会

文芸部門事務局員会議

美術展作品受付

美術展作品審査（3賞決定）

第2回実行委員会

【議題】開幕式典の実施、感謝状贈呈候補者につ
いて

6月

2日 美術部門事務局員会議

22日 テーマ選定委員会（テーマ決定）

10月 1日
8日

美術展開催（4期に分けて展示。～10月23日）
開幕フェスティバル・功労者表彰

7月

1日 作品等の公募要項配布（美術展、県民文芸作
品集、映像コンクール、声楽演奏会、ピアノ
演奏会、小・中学校美術展）

11月 5日
23日

巡回美術展開催（5市町。～12月4日）
美術部門・映像部門表彰式・祝賀会

12月

2日 小・中学校美術展開催（～4日）

10日 県民文芸作品集第47集刊行

17日 文芸部門（県民文芸作品集）表彰式・祝賀会

〃 巡回小・中学校美術展開催（5市村。～2月5日）

4月

記録集刊行

5月 12日

会計監査

1月 31日

アートフェスタいわて2016第2回企画・
運営委員会

2月

舞台等部门第2回実行委員会

13日 美術部門第3回実行委員会

15日 文芸部門第2回実行委員会

〃 第3回実行委員会

【議題】第69回岩手芸術祭の実施結果について、
収支予算の補正について

3月

アートフェスタいわて2016開幕

4日（～3月26日）

硬筆

小1年 がっこうにいくと、るみさんが、「おはよう。」といました。

小2年 町たんけんするとき、しんごうきから音がでていることに気づきました。

毛筆

	半紙課題	条幅課題
小3	大	
小4	竹 笛	
小5	文 庫	
小6	決 意	
中1	和 音	古典に学ぶ
中2	初 志	感謝する心
中3	豊かな自然	友好の精神

(4) 小学校の書体はかい書、中学校の書体はかい書または行書とする。

(5) 毛筆作品の氏名は墨書すること。(表装しない)

硬筆・毛筆とも、氏名をひらがなで書いた場合は欄外に漢字氏名を鉛筆で書くこと。学年は書かなくてもよい。

(6) 作品の左上部に校名(〇〇立〇〇学校)を記すこと。(ゴム印可)

(7) 規格に合わない作品は審査しない。

2 出品方法

(1) **出品目録**(下記の通り)、**出品者名簿**(今年度より迅速な受付・結果処理のため、書写作品についても出品者名簿を添付すること。様式は美術作品のものと同じ)を様式に従い出品校で作成し、必ず添付すること。(各様式は岩手県教育研究会美術部会ホームページからダウンロードのこと)

(2) 県内小中学校を通しての出品となるので、児童・生徒及び保護者から応募の申し出があった場合は、各学校にて対応すること。

(3) 例年四千点を超える応募があり、スムーズな受付事務のためにも出品目録・出品者名簿の正確な記入・締切を厳守すること。

※出品目録 省略



開幕ポスターデザイン
佐々木 海太郎



公募ポスターデザイン
佐々木 海太郎



美術展ポスターデザイン
吉田 康則

〒020-0841 盛岡市羽場17-55-2
盛岡市羽場小学校内 加藤 均 宛
TEL019-638-1049

中学校美術作品送付先

〒020-0013 盛岡市愛宕町1-1
盛岡市立下小路中学校内 大坂 忍 宛
TEL019-623-7358 (7359)

小・中学校書写作品送付先

〒020-0878 盛岡市肴町1-6
盛岡市立杜陵小学校内 吉田 淳子 宛
TEL019-623-1338 (1339)

★小・中学校美術展にかかわるお問合せは羽場小学校副校長加藤均へ
お願いします。 TEL019-638-1049

10 審査

岩手県小・中学校美術展協会会長が委嘱した審査員により審査する。

11 入選入賞者の発表

入選・入賞者は審査終了後、出品学校長宛通知するほか、入賞者については岩手日報を通じて発表する。

12 褒賞

すぐれた作品に対し、各部門ごとに芸術祭賞、優秀賞、奨励賞、その他の賞を贈る。

13 展示

展示は入選・入賞作品のみとし、展示方法は岩手県小・中学校美術展協会へ一任する。

14 展示期間

平成28年12月2日（金）から12月4日（日）までの3日間とする。
（12月2日～3日は9時から17時まで、4日は9時から16時まで）

15 展示会場

盛岡市内丸 岩手県民会館

16 巡回展

第69回岩手芸術祭巡回小・中学校美術展開催要項にもとづき、県内各地で巡回展示する。（作品は学年別、書写、絵画作品300点程度）巡回コースおよび日程については後日決定する。（巡回展の事務局は岩手県文化振興事業団総務部）

17 協賛

小・中美術作品応募について

1 募集する作品

- (1) 種目 絵画、版画、デザイン（平面）とする。
- (2) 主題 自由
- (3) 画材 クレヨン、パス、水彩などいずれでもよい。
- (4) 用紙 原則として4つ切（36cm×54cm）とする。台紙に貼り付けないこと。但し、版画の用紙が4つ切より小さい場合には、作品を台紙に貼りつけ4つ切サイズにそろえること。

2 出品方法

- (1) 出品票・出品目録・出品者名簿を指定の様式に従い出品校で作成し、必ず添付すること。（各様式は岩手県教育研究会図工・美術部ホームページからダウンロードのこと）
- (2) 出品票は作品裏面右下に天地を正しくして糊付けすること。
- (3) 作品は丸めたり折ったりしないで応募すること。
- (4) 県内小中学校を通しての出品となるので、児童・生徒及び保護者から応募の申し出があった場合は、各学校にて対応すること。
- (5) 例年三千点を超える応募があり、スムーズな受付事務のためにも出品票・出品目録・出品者名簿の正確な記入・締切を厳守すること。
- (6) 入賞作品は、県教育長室への展示などのため、返却が翌年度になる場合がある。

小・中書写作品応募について

1 募集する作品

- (1) 種目
小学校1・2年は硬筆、3年以上は毛筆半紙（国産半紙判）とする。
中学校は毛筆半紙か条幅のいずれか一人一点とする。
- (2) 用紙
硬筆用紙は、岩手県書写書道研究会の書写コンクール硬筆用紙（B5判4ます×8ます：1ます2.5cm）とする。
毛筆半紙は国産半紙判、条幅は縦書きとする。
- (3) 課題

を貰える。)

審査員 林 苑子 (ピアニスト)

佐々木 素 (ピアニスト)

岡岡 淳 (昭和音楽大学講師、ピアニスト)

9 表彰

審査制を取り入れた演奏部門として、最も優れた演奏に対して芸術祭賞を贈る。

副賞として一般社団法人岩手県ピアノ音楽協会より芸術祭賞には賞金30,000円。その他に、1年間一般社団法人岩手県ピアノ音楽協会が主催するコンサート及び第70回岩手芸術祭に招待演奏する資格が与えられる。

その他、部門賞として各審査員から審査員特別賞を贈る。

10 演奏内容

ジュニア部門 10分以内の任意の曲 (ソロ、連弾)

一般部門 20分以内の任意の曲 (ソロ、連弾)

エントリー後の曲目の変更は認められません。

11 参加料

ジュニア部門 出演料 12,000円

チケット負担金 3,000円 (3枚分)

計 15,000円

一般部門 出演料 15,000円

チケット負担金 3,000円 (3枚分)

計 18,000円

12 応募方法

所定の申込書に記入の上、それぞれの参加料を添えて9月7日(水)までに、下記申込先に現金書留にて郵送すること。(当日消印有効)

〒020-0117 盛岡市緑が丘2-2-11

一般社団法人岩手県ピアノ音楽協会 事務局

電話・FAX019-661-2927

13 その他

(1) 連弾の出演料は、ワンステージとする。但し、チケットは、出演者人数分の負担とする。

(2) 問合わせ先は、申込先に同じ。

URL <http://tototyan.wix.com/piano>

E-mail iwatepref_piano@iaa.itkeeper.ne.jp

※申込書 省略

第69回岩手芸術祭 小・中学校美術展作品募集要項

1 趣 旨

第69回岩手芸術祭の一環として、県内小・中学校児童、生徒の書写・美術を展示し、広く県民に児童、生徒の作品について鑑賞の機会を提供するとともに、本県小・中学校の書写・美術教育の振興をはかる。

2 主 催

岩手県教育委員会 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社 IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手

3 後 援

盛岡市 NHK盛岡放送局 岩手県小学校長会 岩手県中学校長会 岩手県小学校教育研究会国語部会 岩手県書写書道教育研究協議会 岩手県小学校教育研究会図工部会 岩手県中学校教育研究会美術部会

4 運 営

第69回岩手芸術祭実行委員会、岩手県小・中学校美術展協会

5 応募資格と出品点数

岩手県内の小学校・中学校に在籍している児童、生徒の作品で個人制作、各部門1人1点とする。

6 応募作品

○平成28年度に制作した作品で、各部門の定める規定に合致するものとする。

○出品料は無料とする。

○書写の応募作品は返却しない。美術作品について返却を希望する学校は、出品目録に記入すること。

7 出品方法

作品は学校を経由して所定の出品票(書写は不要) 出品目録及び出品者名簿を必ず添付して出品すること。

各様式は、岩手県教育研究会美術部会ホームページ(<http://www.iwarte.com/>)からダウンロードのこと。必ずホームページを開いて名簿の様式を確認の上、応募してください。

8 受付期間

平成28年9月21日(水)から10月3日(月)まで。10月3日(月)必着のこと。

9 送 り 先

小学校美術作品送付先

テレビ放送等について、1年間主催者が使用できるものとします。

- ・作品は上映発表会終了後、約1ヵ月以内にお返しいたします。
- ・不測の事故などによる作品の損傷等については当方での責任は負いかねますので念のためコピーでの保存をお勧めいたします。
- ・音楽、映像、写真等で著作権のあるものを利用するときは、各自で著作権使用許可の手続きを済ませてください。
- ・撮影にあたり、人物の肖像権、プライバシーの権利等に十分配慮してください。

※ 応募票 省略

第69回岩手芸術祭声楽部門演奏会 出演者公募要項

1 趣 旨

県内に在住する声楽研究者に、日頃の活動成果を発表する機会を提供し、広く県民に披露することにより、地域の音楽文化の振興に寄与することを目的とする。

2 主 催

岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団、岩手県芸術文化協会 岩手日報社、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手

3 後 援

盛岡市 NHK盛岡放送局

4 運 営

第69回岩手芸術祭実行委員会、岩手声楽研究会

5 募集内容

演奏日時	平成28年11月5日（土）午後1時30分より
会 場	岩手県民会館中ホール
応募資格	年齢18歳以上の岩手県在住者、又は岩手県に本籍がある者
演奏内容	歌曲・オペラのアリア等、ひとり8分以内
伴奏者	各自、準備すること。事務局でも斡旋可能。
申込締切	平成28年8月31日（水）
出演経費	12,000円（チケット負担金含む）

応募方法	所定の申込用紙に記入の上、下記申込先に郵送すること。
そ の 他	・著作権料のかかる曲目は演奏者の負担とする。 ・公募出演は連続2年までとする。
申込み・問い合わせ先	（〒020-0133）盛岡市青山一丁目20-26 丸岡 千奈美 宛（電話019-647-1850）

※出演申込書 省略

第69回岩手芸術祭音楽部門ピアノ演奏会 出演者公募要項

1 趣 旨

県内に居住するピアノ学習者及び演奏家に、日頃の活動成果を発表する機会を提供し、広く県民に披露することにより、地域の音楽文化の振興に寄与することを目的とする。

また、ピアノ音楽の活性化を願い、ジュニア部門は従来通り演奏会を行い、一般部門はピアノコンクールと演奏会に分かれていたが、昨年度から審査制を導入した演奏部門のみを行っている。

2 主 催

岩手県教育委員会 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社 IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手

3 後 援

盛岡市 NHK盛岡放送局

4 運 営

第69回岩手芸術祭実行委員会（一社）岩手県ピアノ音楽協会

5 開催日時

平成28年10月15日（土）（開場14：30）ジュニア部門 15：00～
一 般 部 門 17：00～

6 会 場

岩手県民会館中ホール

7 応募資格

一 般 部 門 県内在住もしくは、県内に本籍がある18歳以上（年齢制限なし）の方。

ジュニア部門 一般部門と同じ条件で高校生以下の方。

8 審査員

第69回岩手芸術祭実行委員会が委嘱した下記の審査員により、審査を行う。（ジュニア部門及び一般部門の演奏者に対して審査員のコメント

(盛岡市盛岡駅西通1-7-1)

会 費 2,000円 (昼食、発表誌) 懇親会3,000円 (希望者)

宿題と選者 (各題2句吟)

「本」 宮古市 伊藤 豊志 選
「ふわり」 盛岡市 中里 陽子 選
「力」 花巻市 宮野 裕 選
「守る」 盛岡市 宇部 功 選
「雑詠」 奥州市 佐藤 岳俊 選

席題と選者 (題は当日10時発表)

「 」 花巻市 塩釜アツシ 選
「 」 盛岡市 小原 金吾 選

投 句 用紙自由・住所、氏名、電話番号明記、投句料1,000円
締 切 平成28年10月8日(土) 消印有効
投句先 〒028-3309
紫波町北日詰大日堂18-2 熊谷岳朗宛
019(676)3751

賞 文芸祭賞、優秀賞、奨励賞ほか

事務局 熊谷 岳朗
〔〒028-3309 紫波町北日詰大日堂18-2
電話019(676)3751〕

運 営 岩手県川柳連盟

第69回岩手芸術祭 [映像部門] 岩手県映像コンクール

主 催 岩手県教育委員会 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手
日報社 IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ
エフエム岩手

後 援 盛岡市 NHK盛岡放送局

運 営 第69回岩手芸術祭実行委員会 岩手県演劇協会

運営協力 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

《作品募集要項》

1. 題 材 自由です。ただし、全国規模のコンクールで入賞した作

品は応募できません。

2. 規 格 基本的にDVDビデオまたはブルーレイとします。
注:その他のメディアでの応募の際は事前にご相談ください。

3. 時 間 3分以上30分未満

4. 応募資格 岩手県在住または岩手県出身の方ならどなたでも応募で
きます。

5. 応募点数 応募点数の制限はありません。ただし、1作品1ディス
クとします。

6. 出品料 1作品につき1,000円。

7. 締 切 り 平成28年8月31日(水) 当日消印有効

8. 応募方法 本要項末尾の「応募票」(又はコピー)に必要事項を記
入し、ケースに貼り、ディスク等にも題名、氏名を明記
し、出品料を添えて応募してください。

9. 応 募 先 〒020-0878 盛岡市肴町4-20 永卯ビル3階
いわてアートサポートセンター内 岩手県演劇協会
※問合せ先も同じ (TEL 019-604-9020)

10. 入賞発表 9月下旬、岩手日報紙上に掲載の予定。入賞者には直接
通知します。

11. 作品上映 《岩手芸術祭・映像フェスティバル》
日時:平成28年11月3日(木・祝)午後1時～
会場:もりおか町家物語館浜藤ホール〈入場無料〉
入賞作品の上映発表と講評を行います。
県内各地で開催する「岩手芸術祭巡回美術展」の展示会
場でも映像部門の受賞作品を上映します。(但し、メディ
アや会場の都合により上映できない場合もあります)

12. 表 彰 入賞者の表彰は平成28年11月23日(水・祝)盛岡市内「サ
ンセール盛岡」で行います。

13. 審 査 員 ・中村好子 (IBC岩手放送)
・道又 力 (脚本家)
・こむろこうじ (岩手県演劇協会副会長)

14. 賞 (1) 【芸術祭賞】 1点 (賞状・賞金)
(2) 【優 秀 賞】 1点 (賞状・賞金)
(3) 【奨 励 賞】 2点 (賞状・賞金)
(4) 【部 門 賞】 若干 (賞状)

15. 応募細則 ・入賞作品の著作権は応募者に帰属しますが、上映及び

(岩手県文化振興事業団総務部内)
〔〒020-0023 盛岡市内丸13-1
電話019(654)2235 FAX019(625)3595〕

(5) 児童文学
日 時 平成28年11月13日(日) 午前10時～午後2時30分
会 場 オガールプラザ紫波町情報交流館大スタジオ
(紫波町紫波中央駅前2-3-3)
内 容 ①県民文芸作品集応募作品の選評と合評
②講演「童謡詩人 巽聖歌と童話作家 新美南吉」
講師 郷土史家 内城弘隆
③歌「いっしょに歌おう 巽聖歌の世界」
ゲスト テコ&コロ

事 務 局 千葉留里子
〔〒020-0114 盛岡市高松2-25-30
電話019(661)6672〕

運営委員 高橋 昭 加藤 典夫 千葉留里子

(6) 詩
日 時 平成28年10月16日(日) 午前10時～午後3時頃
会 場 なはんプラザ
〔花巻市定住交流センター〕第1会議室
(花巻市大通り1-2-21)
会 費 1,000円(当日受付。資料代ほか。)
応募作品 未発表作品3篇以内、A4判原稿用紙使用、1編につ
き3枚以内で右とじのこと。ワープロ原稿はA4判に
印字のこと。選者の講評をご希望の方は82円切手を貼つ
た返信用定形封筒に本人宛先を記入の上、同封のこと。
投 稿 料 1,000円郵便為替同封のこと。
(為替の入っていないものは受けません)
選 者 上斗米隆夫 山下 正彦 伊藤 諒子
表 彰 文芸祭賞、優秀賞、奨励賞、佳作ほか。
応募期間 平成28年7月1日(金)より9月1日(木)《必着のこと》
事 務 局 岩手県詩人クラブ文芸祭「詩の大会」事務局
(応募先) 〔〒020-0124 盛岡市厨川3-7-3 東野方 北原陽子
電話019(641)3476〕
運営委員 北原 陽子 兒玉 智江 松崎みき子

(7) 短 歌
日 時 平成28年10月8日(土) 午前10時～午後3時頃
会 場 盛岡市勤労福祉会館(盛岡市紺屋町2-9)
会 費 出詠料1,000円、当日会費1,000円(弁当代含む)
(後日、互選のための詠草集に同封いたします払込取
扱票にて払い込むこと)
詠 草 1首(未発表作品、はがきを使用のこと)
選 者 菊池 哲也 瀧本 廣子 藤井 永子
八重嶋 勲 山内 義廣
表 彰 優秀作品には、文芸祭賞、優秀賞、奨励賞の賞状に、
それぞれ副賞を添えて贈るほか、各選者賞、互選高
点歌賞を贈る。
応募締切 平成28年8月31日(水) 必着
事 務 局 山本 豊
(応募先) 〔〒028-4125 盛岡市玉山区好魔字夏間木70-446
電話・FAX019(682)0103〕
運営委員 赤澤 篤司 外館 克裕 山本 豊

(8) 俳 句
日 時 平成28年10月15日(土) 午前10時～
会 場 岩手県公会堂(盛岡市内丸11-2)
会 費 1,500円(「県民文芸作品集」入選作品集代を含む)
作 品 当季雑詠3句(投句締切 午前11時30分)
選 者 小畑 柚流 小菅 白藤 川原 道程
伊藤 紫水 大石 文雄 大畑 善昭
名久井清流 犬股百合子
表 彰 優秀作品には、文芸祭賞、優秀賞、奨励賞の賞状に、
それぞれ副賞を添えて贈るほか、各選者賞を贈る。
事 務 局 佐々木昌子
〔〒020-0611 滝沢市菓子856-74
電話019(688)2046〕
運営委員 山火 律子 佐々木昌子 長谷川かよ子
北田 祥子 兼平 玲子 工藤 幸子

(9) 川 柳
日 時 平成28年10月22日(土) 午前9時30分～
会 場 アイーナ501号室

第69回（平成28年度）岩手芸術祭『文芸祭』開催要項

- 1 趣 旨
第69回岩手芸術祭の一環として、『文芸祭』を開催し、文芸活動の振興を図る。
- 2 主 催
岩手県教育委員会 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社 IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手
- 3 後 援
開催地市町村教育委員会 NHK盛岡放送局
- 4 運 営
第69回岩手芸術祭実行委員会
- 5 応募及び大会参加資格
岩手県在住者（経験者も含む）、岩手県出身者及び本籍が岩手県にある方
- 6 種目毎の大会の内容
- (1) 小 説
日 時 平成28年10月22日（土） 午後2時～
※10月14日までにお申し込みください。
会 場 岩手県民会館会議室（盛岡市内丸13-1）
内 容 「応募作品講評」 講師 柏葉 幸子 斎藤 純
運営委員 第69回岩手芸術祭実行委員会事務局
（岩手県文化振興事業団総務部内）
〔〒020-0023 盛岡市内丸13-1
電話019(654)2235 FAX019(625)3595〕
- (2) 戯 曲
日 時 平成28年11月19日（土） 20日（日）
会 場 盛岡劇場タウンホール（盛岡市松尾町3-1）
内 容 「東北演劇見本市in盛岡2016」
①短編演劇コンテスト「東北 劇の陣」
・予選1組 19日（土） 開場13時30分 開演14時
・予選2組 19日（土） 開場18時30分 開演19時
・決勝 20日（日） 開場13時30分 開演14時
②シンポジウム「越境する東北の演劇」
19日（土） 開演17時
入 場 料 通し券（予選1組・予選2組・決勝）2,500円〔前売のみ〕

- 予選1組・予選2組・決勝 各1,000円〔前売〕1,200円〔当日〕
※シンポジウムは無料
- 事 務 局 高村 明彦
〔〒020-0051 盛岡市下太田沢田68-18
電話019(658)1108〕
- 運営委員 昆 明男 倉持 裕幸 高村 明彦
- (3) 文芸評論
日 時 平成28年10月9日（日）
午後1時～5時（12時30分受付）
会 場 岩手大学農学部一号会議室
（盛岡市上田3-18-8）
内 容 小講演と研究発表
講演 牛崎 敏哉「最近の賢治研究をめぐって」
望月 善次「啄木研究情報」
城守 寛「宮沢賢治と植物」
研究発表（4～6人）
★発表資格：次の1.又は2.のいずれかを満たす方
1.『県民文芸作品集（評論の部）』応募者。
2.9月5日（月）までに事務局へ発表趣旨（A4判、1枚程度）と共に申し出た方。
なお、希望者多数の場合は、運営委員によって選考する。
- 参 加 費 無料
事 務 局 宮沢賢治記念館内 牛崎 敏哉
〔〒025-0011 花巻市矢沢1-1-36
電話0198(31)2319 FAX0198(31)2320〕
- 運営委員 牛崎 敏哉 望月 善次
そ の 他 懇親会（参加費 1,000円）
- (4) 随 筆
日 時 平成28年11月6日（日）午後1時～
※10月31日までにお申し込みください。
会 場 岩手県民会館会議室
（盛岡市内丸13-1）
内 容 県民文芸作品集応募作品の講評
講師 須藤 宏明 野中 康行
運営委員 第69回岩手芸術祭実行委員会事務局

9 応募先

電子メール：geijyutsu69@iwate-bunshin.jp

標題に「県民文芸作品集応募作品」と明記すること。作品を受信した旨の返信をするので、上記アドレスからのメールを受信できる設定しておくこと。

郵送：〒020-0023 盛岡市内丸13番1号 岩手県民会館内

岩手県芸術文化協会『県民文芸作品集』係

封筒、はがきの表に「県民文芸作品集（作品種別を記入）応募作品」と朱書きすること。

10 審査結果

芸術祭賞、優秀賞、奨励賞については、平成28年10月7日（金）に岩手県文化振興事業団のホームページ上で発表するほか、入賞、入選者には本人宛通知する。

11 表彰

種目ごとに審査のうえ、芸術祭賞（1点・賞金3万円）、優秀賞（1点・賞金2万円）、奨励賞（2点・賞金各1万円）を贈る。

○表彰式 平成28年12月17日（土）（会場：サンセール盛岡）

12 作品の発表

芸術祭賞、優秀賞及び奨励賞に入賞した作品は、『県民文芸作品集』に掲載する。なお、詩、短歌、俳句及び川柳の4種目については、入賞作品のほか、佳作、選者賞などの入選作品についても掲載する。

13 『県民文芸作品集』刊行予定日

平成28年12月10日（土）

14 個人情報の取り扱い

応募者の個人情報は審査結果の公表を含む作品集刊行業務の範囲内に限り利用する。ただし、入賞、入選者については、報道機関等に氏名及び居住市町村名の情報提供を行う場合がある。

別表

種目	内容	応募書式	枚数	選者
小説	1人1篇	原稿用紙を使用し、右とじにすること。規格はB4判で20字×20行400字詰のものに縦書きとする。ワープロ等を使用する場合もこの規格に割付けたものとする。	30枚以内 点字は40枚以内	柏葉 幸子 斎藤 純
戯曲・シリオ	①演劇一幕もの ②ラジオドラマ ③テレビドラマ	行あけ等を明確にすること。（ワープロ等使用の場合は、A4判も可）	50枚程度 点字は66枚程度 （①～③を明示）	昆 明男 中村 好子
文芸評論	研究的内容のものも可とする。	文芸評論については、ワープロ等を使用する場合、字数制限内であれば原稿用紙使用にこだわらない。	30枚以内 点字は40枚以内	望月 善次 牛崎 敏哉
随筆		随筆については、上記書式の外、題名、氏名、性別、年齢、住所、電話番号、受賞歴等を記入した別紙をつけること。（右の枚数に別紙は含まない。）	4枚 点字は6枚	須藤 宏明 野中 康行
児童文学	フィクション、ノンフィクションを問わない。少年少女詩、童謡の場合は3篇以内とする。	児童文学については、ワープロ等を使用する場合、26字×23行で20枚（11,960字）以内でもよい。 〈点字の場合〉省略	30枚以内 点字は40枚以内	高橋 昭 藤原 成子 齋藤 英明
詩	3篇以内とする。	A4判規格原稿用紙、又はA4用紙に20字×20行で縦書きとする。行空け明記。右とじ。（ワープロ等を使用する場合についてもこの規格によること）欄外に住所、氏名、年齢、電話番号、1篇毎の原稿枚数、通し番号（1-1、1-2…）を明記すること。	1篇につき 3枚以内	上斗米隆夫 山下 正彦 伊藤 諒子
短歌	未発表作品10首	原稿用紙B4判400字詰1枚に10首、欄外に題名を明記すること。ワープロ等を使用する場合もこの規格に割付けされたものとする。 ※住所等は裏面に記入すること。	1人1枚に限る。	岡田 紘子 鈴木八重子 鷹鷲真智子 松田 久恵 吉田 史子
俳句	雑詠5句	はがきを使用すること。（句数が不足しないよう注意すること。） 〈点字の場合〉点字用紙を使用すること。	1人1枚に限る。	小畑 柚流 小菅 白藤 川原 道程 伊藤 紫水 大石 文雄 大畑 善昭 名久井清流 犬股百合子
川柳	雑詠7句		1人1枚に限る。	小原 金吾 塩釜アツシ 佐藤 岳俊

事務局 佐々木海太郎 〒020-0024 盛岡市菜園2-8-18-306
グラフィコ内 TEL 019-623-8322

現代美術

出品作品 「現代美術」とは、1945年以降に現れたさまざまな傾向の前衛的な美術を指します。ここでは、平面、立体、映像、インスタレーション、音響を含むものなど、様式や技法にとらわれない表現を扱います。「現代美術」は、「ものを見ること（視覚認識）」や「社会をどう見つめるか」ということを常に問題にしてきました。みなさんの新鮮な作品をお待ちしています。

大きさ 大きさは、
$$\left\{ \begin{array}{l} \text{立体、インスタレーション} = \\ \text{床面積15㎡以内} \times \text{高さ8m以内} \\ \text{平面} = 10㎡以内 \end{array} \right\}$$

出品点数・出品料 1人2点まで、1点3,500円、2点5,000円

審査員 梅津 元（埼玉県立近代美術館主任学芸員）

事務局 浅倉 伸 〒020-0862 盛岡市東仙北2-2-29
TEL090-7337-7232（直通）

水墨画

作品の規格 (1)作品寸法 F 8 (38×45.5) 以上～和紙全紙をメド
(2)表装 額装（アクリル使用のこと。ガラス使用不可。）・軸装

出品点数・出品料 1人1点 3,000円

出品申込 8月26日（金）までに事務局に申込みこと。

審査員 鈴木 孝男（岩手県水墨画協会会長）
岸本カヨ子（ 〃 副会長）
工藤 瑞則（ 〃 副会長）
粒針 秀郎（ 〃 幹事）

事務局 北村義美 〒020-0106 盛岡市東松園2-12-4
TEL・FAX019-661-8923

第69回（平成28年度）岩手芸術祭『県民文芸作品集』第47集公募要項

- 趣 旨
第69回岩手芸術祭の一環として、『県民文芸作品集』を刊行し、文芸活動の振興を図る。
- 主 催
岩手県教育委員会 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社 IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手
- 後 援
盛岡市 NHK盛岡放送局
- 運 営
第69回岩手芸術祭実行委員会
- 応募資格
岩手県在住者（経験者も含む）、岩手県出身者及び本籍が岩手県にある方。
県外の応募者にあつては岩手県との関わりを記入すること（かつて居住した岩手県の市町村名など）。
- 公募種目
別表のとおり
- 応募上の注意
(1) 未発表の創作作品であること。
(2) ペン、又は、ボールペンを使用し、鉛筆は使用しないこと。（ワープロも可）
(3) 投稿後の訂正は認めないので、推敲のうえ、かい書で清書して、完全原稿で応募すること。
(4) 応募作品は返却しないので、必要とする場合はコピーをとっておくこと。
(5) 応募作品の末尾（別紙可、短歌にあつては裏面）に 住所、^{ふりがな}氏名（筆名を使用する場合でも、本名を必ず記入すること。） 年齢、性別、電話番号及び（お持ちの方は）電子メールアドレスを記入すること。
- 応募締切
平成28年8月31日（水）当日消印有効（受付開始は7月1日（金）とする。）

出品点数・出品料 1点4,000円、1点増すごとに1,000円加算
審査員 高橋貞夫（日展会員） 菊池房江（岩手工芸美術協会会長）
工芸セミナー（審査講評を兼ねながら）
9月4日（日）午後2時～3時
北ホテル2階会議室
事務局 竹田康夫 〒028-4134 盛岡市下田陣場41-43
TEL019-683-1425

書道

作品の種別・規格

種別	漢字、かな、篆刻・刻字、漢字かな交じり書 （近代詩文書等）、前衛書
仕上がり寸法	横1辺182cm（6尺）以内 縦1辺242cm（8尺）以内 面積 1.48㎡（16平方尺）以内 重量15kg以内
仕立	額、裱装（帖、軸装は認めない） ガラス入りは認めない（アクリルは可）

出品点数・出品料 1人1点4,500円

審査員 佐藤平泉（奥州市） 斎藤溪石（滝沢市） 堀内青巒（二戸市）
野田杏苑（滝沢市） 吉田晨風（盛岡市） 佐々木飛鴻（盛岡市）
佐竹松濤（奥州市） 津志田沙苑（盛岡市） 日澤竹圓（滝沢市）
松戸亮濤（奥州市）

鑑賞会 10月16日（日）午後2時～3時 会場にて実施する。

事務局 佐々木飛鴻 〒020-0107 盛岡市松園2-11-3
TEL019-663-2595

写真

出品作品 テーマ 自由。種類 モノクロ、カラー、デジタル いずれも可。未発表作品であること。
サイズ 単写真・組写真・連写真を問わずいずれも全体の仕上がりは、外寸42cm×51cm以上外寸120cm×210cmまでとする。
(3)木製パネルに限る。
(4)いずれもそのまま展示できるように、裏面に紐をつける。特に組写真は1枚のパネルに、また、連写真は連結して搬入すること。
(注) 連結しない写真、蝶番の使用など他の作品に傷をつけ

るようなもの、及びガラス入り額等破損の恐れのあるものは受け付けない。

審査員 佐藤仁重（日本写真家協会会員）
審査 9月4日（日）午前10時 公開審査とする（搬入場所）
出品点数・出品料 1人2点まで。42cm×51cm以上長辺100cmまで3,000円。
左の寸法を越える長辺210cmまで4,000円。高校生1,000円。
その他 展示は原則として入選作以上で1人1点とする。
応募等の詳細は岩手県写真連盟ホームページ（iwsr.web.fc2.com）参照
事務局 山田博彦 〒020-0116 盛岡市箱清水1-17-10
TEL019-661-7277

デザイン

応募資格 一般・大学生・専門学校生・高校生
出品作品 平面デザインに限ります。（立体及び半立体は不可）社会的規範に反する作品は展示しない場合があります。
・作品はすぐに展示できるように、パネル裏面に必ず吊り金具、ひも等をつけること。
A部門. ポスター及びイラストレーション
B部門. 課題作品＝（盛岡ロータリークラブ協賛）21世紀の地球環境を考える。（地球をとりまく環境全般をテーマとします。）
「盛岡ロータリークラブ」は明記すること。マークは位置指定のみでも可。

作品の体裁・規格

- (1) A部門. 自由作品はB全判パネル（103cm×72.8cm）
B2判パネル（72.8cm×51.5cm）
- (2) B部門. 課題作品はB全判パネル（103cm×72.8cm）
タテ位置に限る。
・出品目録の種別欄には、出品部門（A部門またはB部門）を記入のこと。

出品料 1点3,000円（高校生は1,000円）、1点増すごとに1,000円加算（高校生は500円加算）

審査員 長谷川羊介（クリエイティブディレクター）
村上由美子（岩手デザイナー協会会長）
審査 9月4日（日）午前10時～11時30分 公開審査（搬入場所）

15 その他

- (1) 出品作品の不慮の災害による損害については、主催者はその責を負わない。
- (2) 搬入・搬出及び荷造りの費用は、出品者の負担とする。
- (3) 出品作品が本芸術祭の記録集、主催団体等が運営するインターネットのホームページ、報道及び広報などに掲載される場合があることを出品者があらかじめ容認の上、出品するものとして取り扱う。
- (4) 報道機関の取材等に対しては、出品者の氏名、居住市町村名の情報提供及び作品の写真撮影を許可することがある。
- (5) 別紙、出品目録及び出品票に記入された個人情報、審査結果の通知、展示目録等印刷物の作成、表彰式の開催案内など、岩手芸術祭美術展の運営業務の範囲内に限り利用するものであり、それ以外の目的には一切使用しない。

日本画

- 作品の規格** (1)作品は、すべて枠付として表装すること（ガラス抜き）を原則とし、軸装も許可する。
(2)100号以内とする。
(3)寸法は、枠付ではかること。
(4)作品はすぐ展示できるよう、金具、吊具は必ずつけること。

出品点数・出品料 1点3,000円、2点5,000円

審査員 西川善有(盛岡市) 片山道子(盛岡市) 豊間根久子(山田町)

事務局 片山道子 〒020-0083 盛岡市志家町9-5
TEL019-623-3931

洋画

出品作品 出品者の創作によるオリジナル作品で平面（油彩、水彩等）及び立体作品。ただし、音響、電気による作品及び動物、悪臭を発する作品、腐敗する可能性のある作品を除く。作品は額装し、すぐ展示できるよう、金具、吊具、ひも、針金等を必ずつけること。

大きさ・重さ [立体] 縦、横、高さ、各1.7m以内 重量50kg以内
[平面] 縦、横、額（ガラスなし、アクリル可）含み2m以内（規格木枠の場合はS130号以内）突出50cm以内
作品の保護のための額縁等（画面より厚みを持ったもの）で額装のこと。

出品点数・出品料 1人1点 4,000円

招待 本年度の洋画部門芸術祭賞受賞者は、次年度に限り招待する。出品は本人の意思にゆだねる。

審査員 洋画部門理事

合評会 10月10日（月・祝）午後1時～ 審査員と出品者による合評会を開催する。

事務局 日下信介 〒020-0887 盛岡市上の橋町7-57
県立盛岡第二高等学校内 TEL019-622-5101

版画

出品作品 版種は自由。公募展未発表の自作の版表現されたもので、複数表現できるもの。
（手彩色手法の作品は認めない）作品には題名とサインを必ず記入してください。

大きさ 額装を含めて縦・横、180cm以内の陳列に支障のないもの。

出品点数・出品料 2点まで3,000円、3点まで5,000円

審査員 阿部陽子（版画家、国画会会員）、田村晴樹（画家）

合評会 10月23日（日）午後2時から審査員を囲んで。

事務局 鈴木和雄 〒028-3601 矢巾町高田9-40-15
TEL019-611-0575

彫刻

作品の規格 出品作品は、大きさ2m×2m×2m以内のオリジナル作品とし、会場汚損並びに観客に危害を及ぼすおそれのある作品及び仏像彫刻を除く。ただし、50kgを超過する作品については、展示・運搬は出品者が行うものとする。

出品点数・出品料 1点3,000円（高校生は1,000円）、1点増すごとに1,000円加算

審査員 佐藤淳一（東北生活文化大学教授）

事務局 曾根達也 〒028-3615 紫波郡矢巾町大字南矢幅9-1-1
県立不来方高等学校内 TEL019-697-8247

工芸

出品作品 美術工芸並びに産業工芸等、いずれの性格のものでもかまわないが、**創作性の高い未発表のもの**であること。

大きさ・重さ [壁面] 180cm×150cm以内

[立体] 50cm×50cm×50cm以内

立方体でない場合は、おおよその換算による大きさとす。重量50kg以内

に提出すること。

なお、出品物を受け付けたときは、受付証を交付するので、搬出のときの引換証とすること。

8 搬入

(1) 直接搬入

部 門	搬入場所	搬入日時
写真	岩手県公会堂大ホール	9月3日(土) 10時～16時
日本画	岩手県民会館4階和室	
版画/デザイン/水墨画	岩手県民会館第1展示室	
洋画/工芸/書道/現代美術	岩手県民会館第2展示室	
彫刻	岩手県民会館地下収蔵庫	

(2) 輸送搬入

部 門	あて先	搬入日
写真	〒020-0023 盛岡市内丸11-2 岩手県公会堂内 芸術祭美術展写真部門受付	9月3日(土)に限る。 ※輸送業者に配達日を指定 すること。 (梱包表面に「美術展○○ 部門出品物」と大きく朱書 きのこと。)
日本画	〒020-0023 盛岡市内丸13-1 岩手県民会館和室内 芸術祭美術展日本画部門受付	
洋画/版画/彫刻 /工芸/デザイン /水墨画	〒020-0023 盛岡市内丸13-1 岩手県民会館展示室内 芸術祭美術展○○部門受付	

※書道、現代美術作品の輸送搬入は認めない。

※輸送搬入の場合の出品受付証、出品目録、出品料は8月30日(火)までに各部門事務局あて送ること。

9 審査及び発表

審査は、第69回岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱した審査員により、9月4日(日)に搬入会場で行い、部門ごとに、芸術祭賞(1点)、優秀賞(1点)、奨励賞(2点)及び部門賞を贈る。審査の結果は、本人あて通知する。

10 展示作業日

岩手県民会館 〈第1期〉9月30日(金)9時～21時
 〈第2期〉10月6日(木)9時～21時
 〈第3期〉10月12日(水)9時～21時
 〈第4期〉10月19日(水)9時～21時

11 展 示

展示は、入賞・入選作品並びに招待作品とし、展示方法は実行委員会

に一任のこと。

ただし、彫刻は裏面記載のとおりとする。

12 搬 出

(1) 直接搬出

部 門	搬出日時	搬出場所	注 意
写真・デザイン・ 現代美術	10月4日(火) 16時～17時	岩手県民会館 第1・2展示室	搬出指定日時に搬出 しない場合は、実行 委員会の指定する業 者により荷造り、送 料とも着払いで返送 する。
洋画・彫刻	10月10日(月・祝) 16時～17時		
工芸・書道	10月16日(日) 16時～17時		
日本画・版画・ 水墨画	10月23日(日) 16時～17時		

(2) 輸送搬出

部 門	搬出日時	注 意
写 真	10月4日(火)16時～17時	*輸送による搬出を希望す る場合は事前に部門事務 局へ申し出の上、指示に 従うこと。
洋 画/彫 刻	10月10日(月・祝)16時～17時	
工 芸	10月16日(日)16時～17時	
水墨画	10月23日(日)16時～17時	

※上記に記載された部門以外の輸送搬出は認めない。

13 表彰式

入賞者については、平成28年11月23日(水・祝)に行う表彰式において表彰する。(会場：サンセール盛岡)

14 巡回美術展

岩手県民会館での本展終了後、各部門の芸術祭賞1点、優秀賞1点、奨励賞2点及び部門賞のうち部門推薦作品(最大4点)、計8点を県内市町において巡回展示する。

○巡回期間：10月下旬～12月上旬

○開催場所：一戸町コミュニティセンター、久慈市文化会館、岩泉町民会館、奥州市文化会館、宮古市民文化会館、山田町中央公民館

※巡回美術展終了後の作品は県民会館(アートフェスタいわて出品作品は県立美術館)で保管する。搬出費用については出品者の負担とするが、具体的な日程等は別途通知する。

(様式2)

年 月 日

第 回岩手芸術祭実行委員会
会長 様

団体名
代表者
住所
氏名
電話番号

第 回岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認に係る事業報告について
年 月 日付け岩手芸術祭第 号で承認された事業が終了したので、関係書類を添えて報告します。

記

- 1 事業の名称
- 2 事業の主催者
- 3 事業の実施期間
- 4 会場
- 5 出演者・出品者数
- 6 入場者数

(添付書類)

事業の収支決算書、後援者、プログラム・パンフレット、事業の内容を撮影した写真等を添付すること。

第69回岩手芸術祭美術展公募要項

- 1 趣 旨
県民の優れた芸術文化活動の成果を発表し、広く県民に鑑賞の機会を提供することにより、本県芸術文化の創造と発展に寄与するとともに、豊かな県民性の高揚に資する。
- 2 主 催
岩手県教育委員会・岩手県文化振興事業団・岩手県芸術文化協会・岩手日報社・IBC岩手放送・テレビ岩手・めんこいテレビ・岩手朝日テレビ・エフエム岩手
- 3 後 援
盛岡市 NHK盛岡放送局
- 4 展示会場及び日時
岩手県民会館展示室
〈第1期〉写真・デザイン・現代美術
10月1日(土)～10月4日(火)
10時～17時(最終日は16時まで)
〈第2期〉洋画・彫刻
10月7日(金)～10月10日(月・祝)
10時～17時(最終日は16時まで)
〈第3期〉工芸・書道
10月13日(木)～10月16日(日)
10時～17時(最終日は16時まで)
〈第4期〉日本画・版画・水墨画
10月20日(木)～10月23日(日)
10時～17時(最終日は16時まで)
- 5 応募資格
岩手県内在住者、本籍が岩手県にある者、岩手県出身者または岩手県内学校の卒業生。(書道、洋画部門は高校生以下を除く。)
- 6 公募作品
公募作品は日本画・洋画・版画・彫刻・工芸・書道・写真・デザイン・現代美術・水墨画の10部門とし、各部門の公募要項(裏面)による。作品は未発表作品とする。
- 7 作品の受付、返還
作品は所定の出品目録とともに下記のとおり所定の期日に搬入し、作品の裏面には所要の事項を記入した出品票をはりつけ、各部門の受付所

- ウ 事業の資金計画が十分なものであること。
- エ 営利を目的としないものであること。
- オ 事業の実施に当たっては、事故防止対策、公衆衛生対策等に十分の措置が講ぜられているものであること。

3 承認の手続

会長は、主催者からの申請書を受理した場合は、2の基準に基づいて審査し、結果を申請者に文書により通知するものとする。

4 主催者の責務

- (1) 事業の主催者及び関係者は、岩手芸術祭の趣旨に反する行為を行ってはならない。
- (2) 事業の主催者及び関係者は、2に掲げる基準の趣旨に反する行為を行ってはならない。
- (3) 事業の主催者は、所属する職員や関係者等が、前2号に該当する行為を行っている疑いがある場合は、会長に報告するとともに、必要な調査を行い、その事実が判明した場合は速やかに是正するとともに、その結果を会長に報告しなければならない。
- (4) 事業の主催者は、前号に係わり、会長から是正等についての指示があった場合は、これに従わなければならない。

5 承認の取消

事業の主催者が4の(4)の指示に従わないときは、会長は、承認を取り消すこととする。

6 事業実施報告

事業の主催者は、事業の終了後、1か月以内に事業報告書（様式2）を会長に提出しなければならない。

（様式1）

年 月 日

第 回岩手芸術祭実行委員会
会長 様

〔申請者〕

団体名

代表者

住所

氏名

電話番号

第 回岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認について
下記事業について、第 回岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認を受けたいので、関係書類を添えて申請します。

記

- 1 事業の名称
- 2 事業の目的
- 3 事業の主催者
- 4 事業の実施期間及び会場

（添付書類）

- 1 事業概要（内容、入場料、後援団体等）が明らかになる書類
- 2 事業の収支予算書
- 3 主催者が民間団体の場合は、会則、役員名簿、会員名簿、活動状況等団体の性格・内容が明らかになる書類
- 4 その他必要と認める書類

祭の発展に資することを目的とする。

(感謝状を贈呈されるもの)

第2条 感謝状を贈呈されるものは、個人又は団体であって、次の各号の一に該当するものについて行う。

- (1) 岩手芸術祭の運営に携わり、多年にわたり芸術祭の発展に貢献したものの
- (2) 岩手芸術祭公募作品の審査員又は選者として、多年にわたり部門の発展に尽力したもの
- (3) 岩手芸術祭の各部門の指導者として、永年にわたり後進の育成に尽力したもの
- (4) その他特に表彰に値する功績があると認められたもの

(方法)

第3条 顕彰は感謝状を贈呈して行い、その氏名及び団体名並びに事績を顕彰録等によって公表する。

- 2 感謝状には、記念品を併せて贈ることができる。
- 3 故人の場合は、感謝状その他を遺族に贈り追彰する。

(実施)

第4条 感謝状を贈呈されるものは、岩手芸術祭実行委員会において承認されなければならない。

- 2 感謝状及び記念品は、岩手芸術祭実行委員会会長の名によって授与する。
- 3 その他この規程に関し必要な事項は、別に会長が定める。

附則

この規程は、昭和55年5月21日から施行する。

附則

この規程は、平成元年9月5日から施行する。

岩手芸術祭実行委員会感謝状贈呈に関する選考基準

1 趣旨

この基準は、岩手芸術祭実行委員会が感謝状を贈呈することについて、必要な事項を定めるものとする。

2 感謝状を贈呈される者

感謝状を贈呈される者は、次の各号に該当する者とする。

ただし、刑罰（道路交通法関係を含む。）を受けて2年を経過しない者は対象としない。

- (1) 岩手芸術祭の運営に携わり、概ね10年以上にわたって、岩手芸術祭の発展に貢献した者
- (2) 岩手芸術祭公募部門の審査員又は選者として、概ね10年以上にわたって部門の発展に尽力した者
- (3) 岩手芸術祭各部門の指導者として、概ね20年以上にわたって後進の育成に尽力した者で、概ね60歳を超えている者
- (4) その他岩手芸術祭の運営等に携わり多大な功績を示し、特に表彰に値すると認められる者

岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認事務手続要領

1 申請手続

主催者は、当該事業が実施される期日（ポスターその他の印刷物等に「岩手芸術祭協賛事業」の名義を印刷する場合は、その印刷日）の遅くとも1か月前までに、岩手芸術祭実行委員会会長（以下「会長」という。）あての申請書（様式1）を提出するものとする。

この申請書には、次の書類を添付しなければならない。

- (1) 事業の概要（事業の目的、実施日時、会場、事業内容、事故防止対策、公衆衛生対策、入場料、共催・後援団体名等）
- (2) 事業の収支予算書
- (3) 主催者が民間団体である場合は、定款、寄附行為、会則、役員名簿、会員数、活動状況等当該団体の性格及び内容を明らかにする書類

2 承認の基準

岩手芸術祭協賛事業の名義の使用を承認する基準は、次のとおりとする。

- (1) 主催者が、次のいずれかに該当するものであること。
 - ア 国又は地方公共団体（公社、公団を含む。）
 - イ 公益法人（宗教法人を除く。）
 - ウ 新聞、ラジオ、テレビ等の報道機関
 - エ 岩手芸術祭の趣旨に沿う事業を実施しようとする企業等
 - オ 芸術文化団体、実行委員会その他の公益的団体（芸術文化活動そのものを目的としたものに限る。）
 - カ その他上記に準ずると認められるもの。
- (2) 事業の内容が、次の各号に適合するものであること。
 - ア 事業の内容が岩手芸術祭の趣旨に沿うものであること。
 - イ 事業が、特定の範囲ではなく、一般の人に公開されるものであること。

第1条 この規程は、岩手芸術祭に関する功勞について顕彰し、岩手芸術

（目的）

岩手芸術祭実行委員会感謝状贈呈に関する規程

（補則）

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

第5条 委員会の事務を処理するため、必要に応じて、一般社団法人岩手県芸術文化協会に事務局を置く。

2 事務局に次の職員を置く。

(1) 事務局長 1人

(2) 事務局次長 2人

(3) 事務局員 若干名

3 事務局の職員は、委員の中から委員長が指名する。

4 事務局長は、委員会の事務を掌理する。

5 事務局次長は、事務局長を補佐する。

6 事務局員は、事務局長の命を受けて、委員会の事務を処理する。

（事務局）

第4条 委員会の会議は、必要に応じて、委員長が招集する。

2 会議の議長は、委員長がこれに当たる。

（役員）

第3条 委員会に委員長を置く。

2 委員長の選任は、委員の互選とする。

3 委員長は、委員会の業務を統括する。

（委員）

第2条 委員会は、一般社団法人岩手県芸術文化協会の推薦に基づき、第69回岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱する20人以内の委員をもって構成する。

2 委員の任期は、委嘱を受けた日の属する年度の末日までとする。

（趣旨）

第1条 この規程は、第69回岩手芸術祭実行委員会会則第8条第4項の規定に基づき、美術部門実行委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

第69回岩手芸術祭美術部門実行委員会運営規程

第69回岩手芸術祭運営組織

【実行委員会】

区分	種目	実行委員
主催者	日本画、洋画、版画、書道、現代美術、水墨画、彫刻、写真、工芸、イブ、モノ、デザイン、現代美術、水墨画	4人 局長 事務局長 事務局員 事務局員 事務局員
	音楽、邦楽、茶道、能楽、吟詠詩舞道、三曲、キター	2人
	日舞、洋舞、民謡、新舞踊	1人
音楽	川柳、俳句、戯曲、小説、随筆、文芸評論	2人
	絵画、書写	1人
	詩、短歌、文学、文芸評論	2人
舞踊	小学校美術	2人
	中学校美術	2人
	小学校	1人
合計		21人

岩手芸術祭実行委員会（会長）

岩手芸術祭実行委員会事務局

事務局局長
事務局員
事務局員

事務局次長
事務局員
事務局員

事務局次長
事務局員
事務局員

事務局次長
事務局員
事務局員

岩手芸術祭実行委員会事務局

事務局局長
事務局員
事務局員

事務局次長
事務局員
事務局員

事務局次長
事務局員
事務局員

事務局次長
事務局員
事務局員

【部門実行委員会】

部門	種目	部門実行委員
美術10	日本画、洋画、版画、書道、現代美術、水墨画	2人
	音楽、邦楽、茶道、能楽、吟詠詩舞道、三曲、キター	2人
	日舞、洋舞、民謡、新舞踊	1人
舞台19	川柳、俳句、戯曲、小説、随筆、文芸評論	2人
	絵画、書写	1人
	詩、短歌、文学、文芸評論	2人
文学9	小学校美術	2人
	中学校美術	2人
	小学校	1人
合計		76人

(実行委員)

第3条 この会は、次に掲げる実行委員22人以内をもって組織する。

- (1) 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課総括課長の職にある者
- (2) 公益財団法人岩手県文化振興事業団理事長の職にある者
- (3) 一般社団法人岩手県芸術文化協会の会長及び副会長の職にある者
- (4) 一般社団法人岩手県芸術文化協会会長の推薦に基づき岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱した者
- (5) 岩手県小・中学校美術展協会の会長又は事務局長の職にある者

(役員)

第4条 この会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 2人
- (3) 監事 2人

2 会長は、一般社団法人岩手県芸術文化協会の会長又は会長の職務代理の職にある者をもって充てる。

3 副会長及び監事は、実行委員の中から会長が委嘱する。

4 役員は、相互にこれを兼ねることができない。

(役員の仕事)

第5条 会長は、この会を代表し、会務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ定める順序により職務を代理する。

3 監事は、この会の財務を監査する。

(実行委員の任期)

第6条 実行委員の任期は、委嘱を受けた日から1年間とする。

(実行委員会)

第7条 この会の会議は、実行委員をもって構成し、岩手芸術祭の開催に係る次に掲げる事項について議決する。

- (1) 総合的な企画及び運営に関すること。
- (2) 事業計画及び予算に関すること。
- (3) 事業報告及び決算に関すること。
- (4) その他この会の運営に関する重要な事項

2 会議は、会長が召集する。

3 会議の議長は、会長がこれにあたる。

4 会議は、実行委員会の過半数の出席をもって開会し、出席者の過半数をもって決する。

(部門実行委員会)

第8条 岩手芸術祭の各部門の円滑な運営を図るため、必要に応じ、部門実行委員会を置く。

2 部門実行委員会は、次に掲げる事項について協議し、各部門の運営にあたる。

- (1) 各部門の企画及び実施に関すること。
- (2) 各部門の予算及び決算に関すること。
- (3) 実行委員会から付託された事項に関すること。
- (4) その他各部門の運営に関し必要な事項

3 部門実行委員会委員は、会長が委嘱する。

4 部門実行委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(事務局)

第9条 この会の事務を処理するため、公益財団法人岩手県文化振興事業団に事務局を置く。

2 一般社団法人岩手県芸術文化協会に事務局の分室を置く。

3 事務局には、次の職員を置く。

- (1) 事務局長 1人
- (2) 事務局次長 2人
- (3) 事務局員 若干名

4 事務局長は、公益財団法人岩手県文化振興事業団事務局長の職にある者をもって充て、その他の職員は会長が委嘱する。

(経費)

第10条 この会の運営に要する経費は、負担金その他の収入をもって支弁する。

(会計年度)

第11条 この会の会計年度は、実行委員会の設置の日に始まり、その年度の末日に終わる。

(補則)

第12条 この会則に定めるもののほか、この会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この会則は、平成28年5月24日から施行する。

第69回岩手芸術祭開催要綱

1 趣 旨

県民の優れた芸術文化活動の成果を発表し、広く県民に鑑賞の機会を提供することにより、本県芸術文化の創造と発展に寄与するとともに、豊かな県民性の高揚に資する。

2 名 称 第69回岩手芸術祭

3 主 催 岩手県教育委員会 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社 IBC岩手放送 テレビ岩手めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手

4 後 援 盛岡市 NHK盛岡放送局

5 運 営 第69回岩手芸術祭実行委員会

6 期 間 平成28年10月1日～平成29年2月

7 会 場 岩手県民会館ほか

8 開催行事

(1) 開幕式典

(2) 美術展（巡回美術展）

日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真、デザイン、現代美術、水墨画

(3) 小・中学校美術展（巡回小・中学校美術展）

小学校絵画、小学校書写、中学校美術、中学校書写

(4) 演 劇

(5) 映 像

(6) 伝統芸能

能楽、邦楽、茶道、華道、吟剣詩舞道

(7) 音 楽

合唱、声楽、弦楽、三曲、吹奏楽、ピアノ、ギター

(8) 舞 踊

日舞、洋舞

(9) 演 芸

民謡、新舞踊

(10) 移動公演

(11) 文 芸

ア 県民文芸作品集

小説、戯曲・シナリオ、文芸評論、随筆、児童文学、詩、短歌、俳句、川柳

イ 文芸祭

小説大会、戯曲大会、文芸評論大会、随筆大会、児童文学大会、詩の大会、短歌大会、俳句大会、川柳大会

9 参加作品

(1) 美術、映像及び文芸の作品並びに声楽及びピアノの演奏発表は、本県関係者の中から公募する。公募要項は、各部門の種目ごとに定める。

(2) 公募以外の部門の発表、展示等については、各部門が企画し、実行委員会の決定を経て実施する。

(3) 参加作品は、実施種目ごとに一般公開する。公募作品については、実施種目ごとに公開する範囲を定めるものとする。

(4) 小中学校美術展の作品の公募は、岩手県小中学校美術展協会が県内の小・中学校を通じて行うものとする。

10 表彰等

(1) 特に優れた美術、小・中学校美術、映像及び文芸の作品並びに演奏発表に対しては、審査のうえ、芸術祭賞（文芸祭賞）、優秀賞及び奨励賞を贈る。また、実施種目ごとに部門賞及び入選等を設けることができる。

(2) 展示、発表作品の審査を行うため、公募部門ごとに審査会又は選者をおく。

審査員及び選者は、第69回岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱する。

11 開催経費

経費は、主催する機関、団体の負担金及びその他の収入をもって充てる。

12 協賛参加

芸術祭に自主的に参加を希望する公演、展示等は、実行委員会会長の協賛参加承認を得て行うものとする。

13 国民文化祭への協賛参加

会期を考慮し、第31回国民文化祭（愛知大会）へ協賛参加するものとする。

14 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会文化プログラムへの参加

第69回岩手芸術祭実行委員会会則

（名称）

第1条 この会は、第69回岩手芸術祭実行委員会という。

（目的）

第2条 この会は、岩手芸術祭を円滑かつ総合的、効果的に運営することを目的とする。

編集後記

- ◆「岩手芸術祭」は芸術の秋を彩る県内最大の文化の祭典として定着していますが、69回目となる今回も、10月から翌年2月にかけて県内各地で様々なイベントが開催されました。多くの皆さまに御参加いただき、感謝申し上げます。
- ◆今年には自然の驚異と向き合うこととなりました。公募作品の制作も終盤を迎え、完成間近だったであろう8月末のことでしたが、台風10号が岩手県を直撃しました。道路が寸断されるなど、沿岸や県北地区を中心に大きな被害が出ましたが、このことで、芸術祭の運営にも少なからぬ影響がありました。美術や文芸の公募作品が締切に間に合わなかったり、会場が被災したことで巡回美術展が中止になったりしたのです。出品が叶わなかったことは残念ですが、皆さんが作品と向かい合った時間が、次回作への糧となれば、と願わずにはいられません。
- ◆また、今年には「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」が開催された年でもありました。国体開催は私たちが東日本大震災復興の架け橋として、スポーツを通じ、全国からの支援に対して感謝の気持ちを表す機会であると同時に、豊かな自然との共生を通して育まれてきた文化・芸術を広く発信する場となりました。岩手芸術祭がその一翼を担うことができたのは大きな喜びでした。これから、末長く

芸術祭が続いていくよう、取り巻く環境の変化に適応していきたいと考えています。

- ◆本記録集は、デジタルブックとして、インターネットを通してどなたでも閲覧いただけるようになっております。
- ◆内容は今まで通り、第69回岩手芸術祭の実施報告書として作成し、今後の資料としても御活用いただけるよう、各種目のプログラム、公募要項、入賞者名簿、講評・選評等をまとめています。今後の県民の芸術文化活動に係る参考資料として関係機関、関係団体など多くの方々にご覧いただければ幸いです。

- ◆第69回岩手芸術祭も記録集の完成をもって一切の事業が終了します。各方面の方々に支えられながら、今年もこの芸術祭を開催できましたことに改めて感謝申し上げます。

「第69回岩手芸術祭」

発行 日 平成29年4月30日

編集・発行 第69回岩手芸術祭実行委員会

(〒020-0023)

盛岡市内丸13-1

第69回岩手芸術祭実行委員会

(岩手県文化振興事業団総務部内)

電話 019(654)2235

印刷・製本 川口印刷工業株式会社

盛岡市羽場10-1-2

電話 (019) 632-2211

第69回岩手芸術祭市町村別応募状況一覧

市町村名	部門	美術展応募点数											県民文芸作品集応募点数										
		日本画	洋画	版画	彫刻	工芸	書道	写真	デザイン	現代美術	水墨画	計	小説	戯曲・シナリオ	文芸評論	随筆	児童文学	詩	短歌	俳句	川柳	計	
盛岡市	盛岡市	9	51	23	5	13	100	75	42	27	53	398	3	5	2	17	5	19	31	61	15	158	
	八幡平市		1					1				2						3	1	2		6	
	岩手町		1				1	2				4	1			4	1	3	5	1	2	17	
	雫石町		6				1					8									1	1	
	葛巻町		2					4				6							1	1		2	
	滝沢市	2	9	1		1	11	4	2	3	10	43		1						1		2	
	紫波町	1	6	2		5	9		1			26							1	6	5	12	
	矢巾町	2	5	1	3	1	4	2				19									2	2	
	小計	14	81	27	8	20	126	87	46	30	67	506	4	6	2	21	6	25	39	74	23	200	
	中部	花巻市	1	5	3		5	11	9	2	2	5	43	2		1	7		12	5	23	12	62
遠野市			2			6	5	3			3	19				1				1	2	4	
北上市			11		2	5	6	3		4	6	37	1	1		2		10	6	26	2	48	
西和賀町																				2		2	
小計		1	18	3	2	16	22	15	2	6	14	99	3	1	1	10	0	22	11	52	16	116	
南	奥州市	1	9	3	4	1	5	3			1	27	2	1		5		2	9	17	2	38	
	金ヶ崎町		1					1				2				2				2		6	
	一関市	3	13	1	1	2	3	1			18	42				2		5	2	10		19	
	平泉町	2						1				4				1				2		3	
小計	6	23	4	5	3	8	6			20	75	4	1		10	0	7	11	31	2	66		
沿岸南部	大船渡市		3	1			2	1			2	9				1	3	2	2		1	9	
	陸前高田市					2	2				1	5							2	1	2	5	
	住田町																	1				1	
	釜石市		9	2	1	2	6	4	1		2	27	2			1		3	1		1	8	
	大槌町							1	2			3											
小計		12	3	1	4	10	6	3		5	44	2			2	3	6	5	1	4	23		

市町村名	部門	美術展応募点数											県民文芸作品集応募点数										
		日本画	洋画	版画	彫刻	工芸	書道	写真	デザイン	現代美術	水墨画	計	小説	戯曲・シナリオ	文芸評論	随筆	児童文学	詩	短歌	俳句	川柳	計	
宮古市	宮古市	1	18				1	17	5	1	1	1	45	1	1	1	4	2	3	1	4	5	22
	山田町	12	1						1			14								1	1	2	
	岩泉町		1									1							3	1	1	5	
	田野畑村		1				4	1				6											
	小計	13	21				5	18	6	1	1	1	66	1	1	1	4	2	3	5	6	6	29
	久慈市	久慈市		3						9			12	3					1		2	7	1
洋野町			1									1							1	2	3	6	
野田村			1									1											
普代村												0								1	1	2	
二戸市			9					5	2			16							1		2	3	
一戸町			2					1			1	4								2		2	
小計			20					2	6	11		1	40	3				1		4	12	7	27
県外			1		3	3	1				2	10	1	1		1	1	12	3	2	3	24	
合計		34	176	37	19	53	191	131	52	38	109	840	18	10	4	48	13	75	78	178	61	485	

《第69回岩手芸術祭開催状況》

事業名		期 日	会 場	入場料金	入場者数
開幕式典・開幕フェスティバル		10月8日(土)	岩手県民会館／大ホール	無料	1,100人
美術展	1期 写真 現代美術	10月1日(土)～10月4日(火)	岩手県民会館／展示室	300円 高校生以下無料	4,144人
	2期 洋彫 画刻	10月7日(金)～10月10日(月・祝)			
	3期 工書 芸道	10月13日(木)～10月16日(日)			
	4期 日本画	10月20日(木)～10月23日(日)			
巡回美術展	美術展及び映像コンクール入賞作品(82点)	11月5日(土)～11月6日(日)	一戸町コミュニティセンター	無料	1,207人
		11月11日(金)～11月13日(日)	山田町中央公民館		
		11月23日(水・祝)～11月27日(日)	Zホール(奥州市)		
		11月30日(水)～12月1日(木)	宮古市民文化会館		
		12月3日(土)～12月4日(日)	久慈市文化会館		
小・中学校美術展	小・中学校書写、絵画	12月2日(金)～12月4日(日)	岩手県民会館／展示室	無料	2,050人
巡回小・中学校美術展	小・中学校美術展入賞作品(328点)	12月17日(土)～平成29年2月5日(日)	イオンタウン釜石など5会場	無料	789人
演劇	「架空の劇団」公演	10月7日(金)～10月10日(日)	盛岡劇場／タウンホール	1,800円(1,500円) 大学生以下1,000円以下	610人
	「北芸の会」公演	12月4日(日)	日本現代詩歌文学館(北上市)	700円	120人
	「二戸演劇協会The雲人」ミュージカル公演	12月25日(日)	二戸市民文化会館／大ホール	高校生以上500円 中学生以下無料	
	「劇団もしよこむ」公演	H29.2月26日(日)	釜石地方森林組合2階	500円	
	劇団我夢公演	中止	—	—	—
映像	映像フェスティバル	11月3日(木・祝)	もりおか町屋物語館	無料	40人
伝統芸能	茶 会	10月2日(日)	盛岡市中央公民館	2,300円(2,000円)	806人
	吟詠剣詩舞道祭	10月9日(日)	岩手県民会館／大ホール	無料	915人
	謡と仕舞の会	11月6日(日)	岩手県民会館／中ホール	無料	330人
	華道展	10月28日(金)～31日(月)	岩手県民会館／展示室	300円	1,893人
	邦楽のつどい	11月20日(日)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	353人

事業名	期 日	会 場	入場料金	入場者数	
音楽	ソロと室内楽の調べ	10月2日(日)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	241人
	ピアノ演奏会	10月15日(土)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	300人
	三曲演奏会	10月16日(日)	岩手県民会館／大ホール	1,000円	492人
	声楽演奏会	11月5日(土)	岩手県民会館／中ホール	900円 中学生以下無料	324人
	ギター音楽の夕べ	11月19日(土)	岩手県民会館／中ホール	700円(500円) 中学生以下300円	168人
	吹奏楽演奏会	11月23日(水・祝)	盛岡市民文化ホール／大ホール	1,000円(700円) 小学生以下無料	878人
舞踊	合唱祭	12月4日(日)	岩手県民会館／大ホール	1,000円(800円) 高校生以下700円(500円)	850人
	洋舞発表会	10月23日(日)	岩手県民会館／大ホール	2,500円(2,000円)	1,000人
	日本舞踊公演	11月27日(日)	岩手県民会館／大ホール	3,000円	1,300人
	新舞踊発表会	10月22日(土)	花巻市文化会館／大ホール	2,000円(1,500円)	1,050人
	民謡まつり	11月6日(日)	岩手県民会館／大ホール	2,000円(1,500円) 高校生以下無料	770人
文芸祭	短歌大会	10月8日(土)	盛岡市勤労福祉会館	1,000円	101人
	文芸評論大会	10月9日(日)	岩手大学農学部一号会議室	無料 懇親会1,000円	19人
	俳句大会	10月15日(土)	岩手県公会堂	1,500円	88人
	詩の大会	10月16日(日)	なはんプラザ(花巻市)	1,000円※投稿は事前申込(1,000円)	25人
	小説大会	10月22日(土)	岩手県民会館／会議室	無料	9人
	川柳大会	10月22日(土)	アイーナ501号室(盛岡市)	2,000円 (投句は事前1,000円) 懇親会(3,000円) 希望者	61人
	随筆大会	11月6日(日)	岩手県民会館／会議室	無料	16人
	児童文学大会	11月13日(日)	オガールプラザ/大スタジオ(紫波町)	無料	61人
	戯曲大会	11月19日(土)～20日(日)	盛岡劇場／タウンホール	1,200円(1,000円) 通し券2,500円*シンポジウムは無料	145人
	県民文芸作品集第46集刊行	小説/戯曲・詩/財/文芸評論/随筆/児童文学/詩/短歌/俳句/川柳		12月10日刊行	485人
移動公演	新舞踊公演	11月27日(日)	サンホテル衣川荘(奥州市)	無料	100人
	弦楽公演	12月10日(土)	一戸町コミュニティセンター	無料	100人

※料金の()内は、前売り料金